

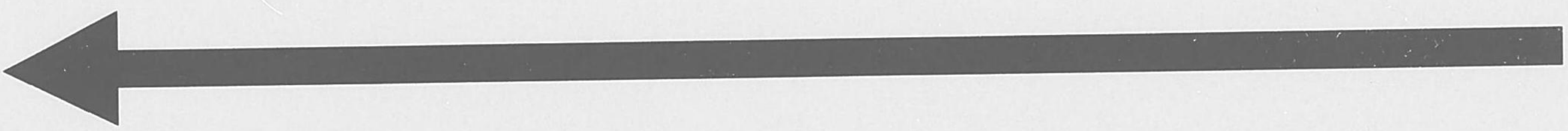
30

193

Ⓜ



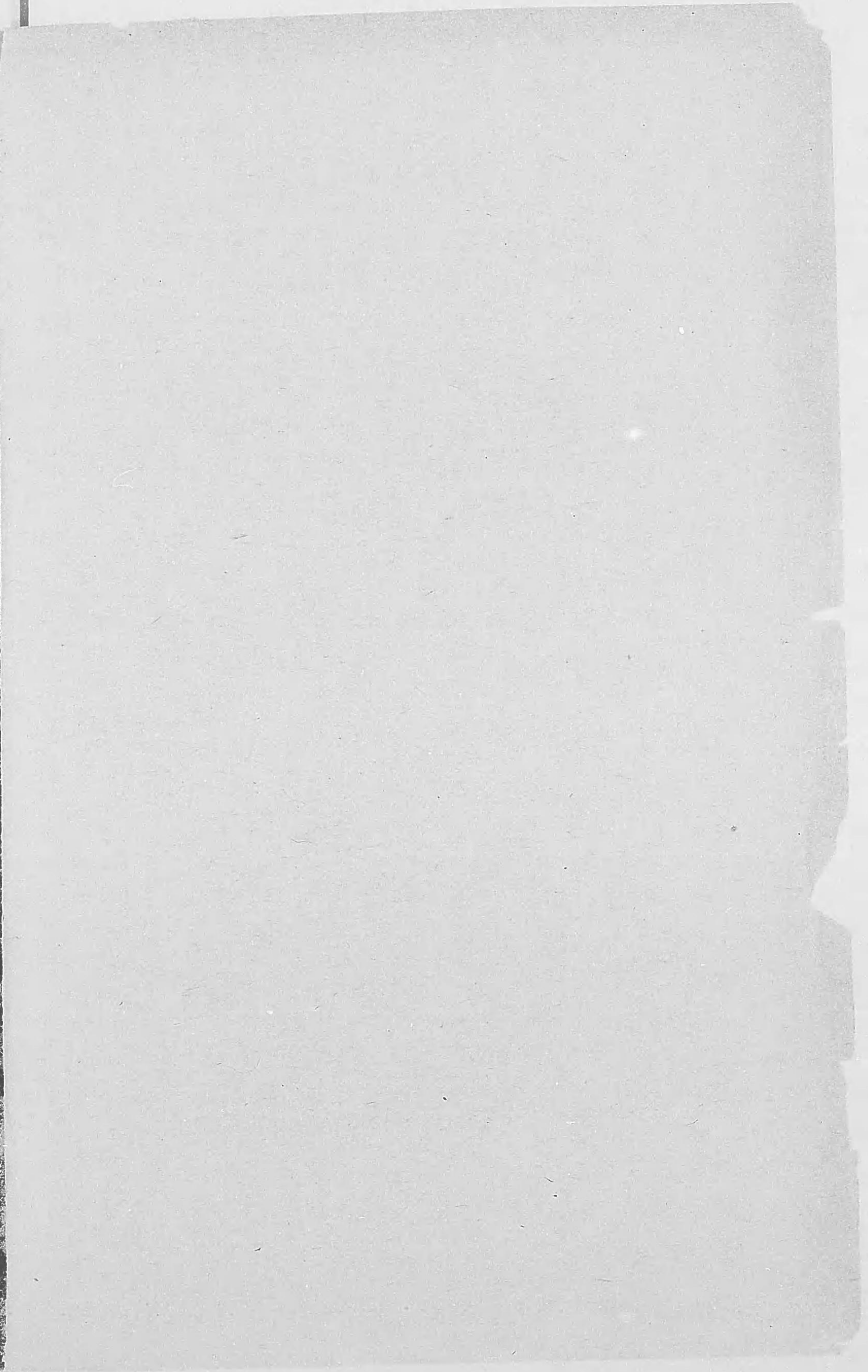
始



Guide for Visitors to

北海道名所案内

30
193



30-193

長谷場純孝題字
望洋散士編纂

北海道名所案内 全

函館 小島大盛堂發兌

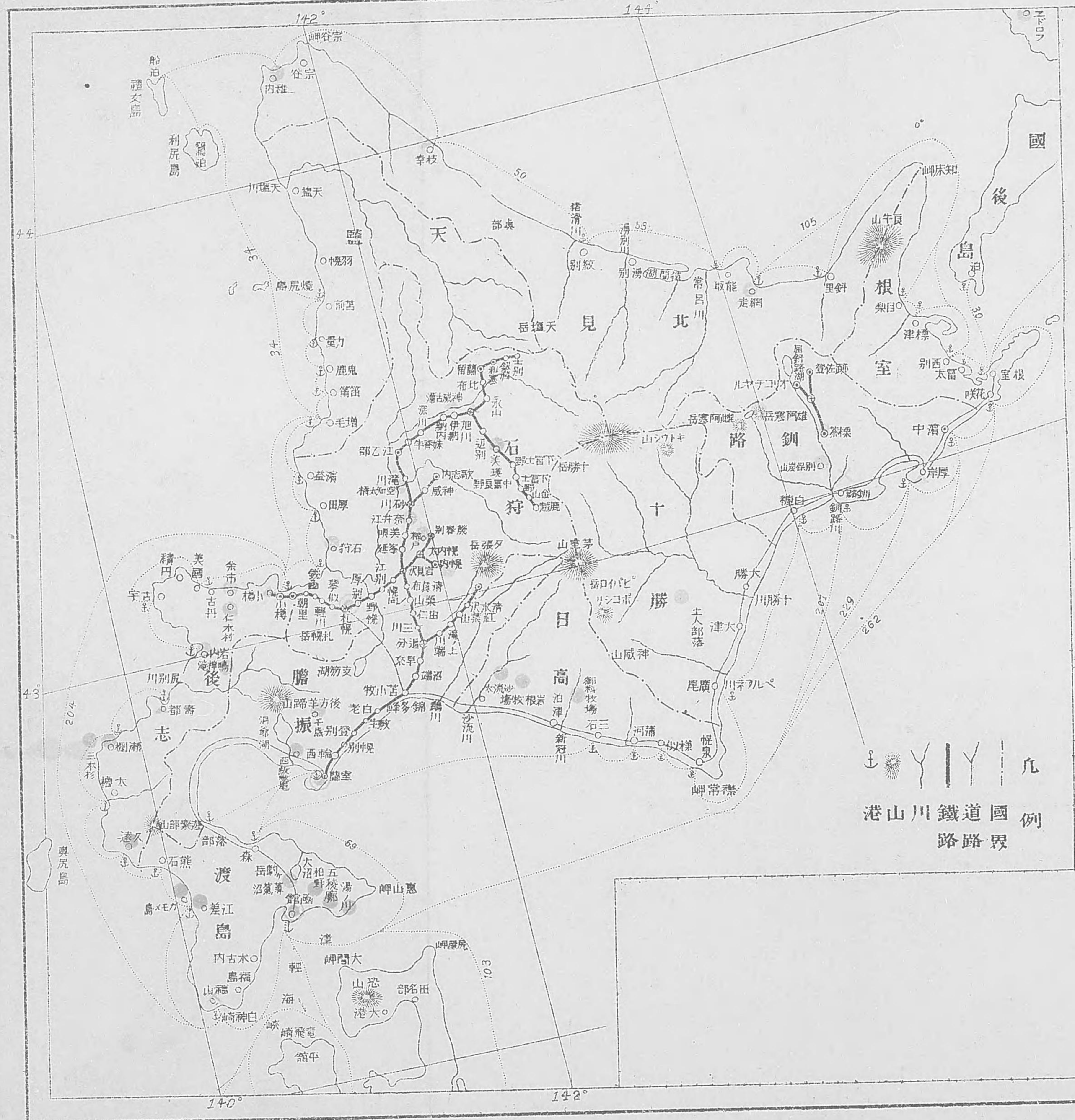


飛 小 海 道
路 野
山 系 純 考



北海道名所案内圖

ハ子種
 かきまふ起
 へんそ清玉の
 多かひ
 去ふアハ子



北海道名所案内圖

● 五個所以上
 ○ 三個所以上
 ● 壹個所
 × 貳個所以上
 名所寫真所在地

港山川鐵道國 例 路路界

北海道名所の
 多めは
 去るべき

北畠巖谷内案内圖

自序

自序

日本は既に公認の風景國たりとせば何れの地何れの處にか名勝舊蹟のなかるあらんや、然り日本は眞に山紫水明の風景國たる名に乖かざるなり、然れども世人は名勝舊蹟は獨り内地にのみこれあるを知つて北海道にも亦これあるを知らず、其所謂風景國たりとする標準はこれを内地にとり北海道は實に焉れに與り居らざるなり、往時北海道の地未だ開けず交通の便又備はらず自然世人の注意を惹くこと稀なりしも、近時の北海道は全く其趣を異にし昔日の如く猶ほ草創の地なりといふべからず、されは世人の日本風景を論ずる

もの豈に故なくして眼を内地に限り其真相をあやま
るべきものならんや、宜しく進むで北海道の奇勝絶景
を探りて以て日本風景の妙味を穿つべし、若し否らざ
れば片言も之れに及ぶことなかれ

北海道の地積六千餘方里、載す所の山は透迤、曳く所の
水は清激、然かも大陸的風趣を帯びたること、之れを
洞爺の湖畔に見るを得べく、之れを雷電の山麓に見る
を得べし、其景の絶奇なる到底内地に之れを求むべか
らざるなり、又何すれぞ、之れを度外視すべけんや、これ
著者の口にあらず筆にあらずして、實に天帝の著者を
驅りて之れを言はしむるものなり

凡 例

一 本書の目的とする所は北海道の名勝舊跡を世人
に紹介するに在るを以て、地理的説明は其概畧に
止め、主として巻首の挿畫につき周到綿密なる説
明を加へ、これに其以外のものをも附記せり

一 北海道の事全然不明に屬するものあり、既に知ら
るゝものにして誤謬あるものあり、本書は著者實
地之れを踏査し、其疑はしきものは古老に就て聞
き且つ精確なる参考書につき充分精撰したるも
のなれば、譬へ其瓦全を保し難きも亦射利的銅臭
味の比にあらざること保証しおかん

二

- 一 書中の統計は明治三十二年の事實に依り稀に明治三十三年の統計によるものあり
- 一 書中故人の日誌等其儘抄録しあるは百聞一見に若かずとの理に基き其誤謬なからんことを期してなり
- 一 卷首の挿畫は斯道に堪能の聞えある技師につき最近の撮影にかゝるものにして一見其地の實景を看官に印象せしめ以て本著の趣旨に副はしめたる發行者の眞意は實に著者の意を得たり蓋本書の一光彩ならん
- 一 本著は如斯して編纂を終れり看官之れを以て他

日の便宜を得るあらは幸甚矣

著 者 識

三

●北海道名所案内目録

第一章

北海道概況

何へし

總論

山岳

河流

湖沼

原野

海岸

東海岸

西海岸

北海岸

氣候

氣候國分表

農業

漁業

森林

礦物

商業

工業

牧畜

教育

社交

交通

第二章

寫真圖解

函館港之棧橋

(第一圖)

十二

函館水道配水地

(第二圖)

十

函館末廣町之雪景

(第三圖)

十七

函館大町ヨリ郵便局ヲ望ム

(第四圖)

全

北海道名所案内目次

函館地蔵町 (第五圖) 十八

函館大森館海水浴場 (第六圖) 全

函館柏野競馬場 (第七圖) 全

五稜廓水切 (第八圖) 十九

湯の川温泉場 (第九圖) 全

函館水源地赤沿 (第十圖) 二十

渡島國尊菜沼 (第十一圖) 二十一

札幌市街 (第十二圖) 全

北海道廳 (第十三圖) 二十四

札幌大通雪景 (第十四圖) 全

札幌中島公園階樂亭 (第十五圖) 二十五

札幌農園 (第十六圖) 全

小樽港市街 (第十七圖) 全

北海道名所案内目次

小樽港灣 (第十八圖) 二十八

小樽附近練漁差網景 (第十九圖) 全

後志國余市 (第二十圖) 二十九

余市仁木村然別鑛山道路 (第二十一圖) 全

福山之公園 (第二十二圖) 三十

舊福山城跡松城小學校 (第二十三圖) 三十一

江差市街 (第二十四圖) 三十二

江差カモメ島 (第二十五圖) 三十五

後志國瀨棚市街 (第二十六圖) 三十六

瀨棚三本杉岩之景 (第二十七圖) 全

後志國久遠海岸之景 (第二十八圖) 全

壽都港 (第二十九圖) 三十七

壽都岩崎沖鯨掉船望々 (第三十圖) 全

及歌棄天狗嶽ヲ 全

北海道名所案内目次

壽都ヨリ磯谷海岸雷電山ヲ望ム (第三十一圖) 三十八

岩内市街 (第三十二圖) 全

岩内雷電下鳴神瀧 (第三十三圖) 三十九

膽振國羊蹄山一名蝦夷富士 (第三十四圖) 四十一

膽振國千歲瀧之景 (第三十五圖) 四十三

膽振國西紋鼈市街 (第三十六圖) 全

室蘭港海岸之景 (第三十七圖) 全

室蘭停車場 (第三十八圖) 四十五

膽振國登別温泉場 (第三十九圖) 全

石狩國奈井江炭山 (第四十圖) 全

石狩國空知太橋 (第四十一圖) 四十六

石狩國幌内炭山 (第四十二圖) 全

石狩國幌向停車場 (第四十三圖) 四十八

北海道名所案内目次

石狩國神威古潭之隧道 (第四十四圖) 全

石狩國神威古潭 (第四十五圖) 四十九

神威古潭石狩川沿岸ノ景 (第四十六圖) 五十二

上川郡旭川近文 (第四十七圖) 五十三

旭川第七師團第廿七聯隊兵營 (第四十八圖) 五十四

旭川森製軸所 (第四十九圖) 全

十勝線美瑛之堀割 (第五十圖) 五十五

石狩川之渡船場 (第五十一圖) 全

石狩國樺戸 (第五十二圖) 五十六

天鹽國増毛港 (第五十三圖) 全

天鹽國増毛灣 (第五十四圖) 五十七

根室市街 (第五十五圖) 全

根室灣内氷上コマイ釣 (第五十六圖) 五十九

北海道名所案内目次

厚岸港之市街 (第五十七圖) 六十一

厚岸蠣島之景 (第五十八圖) 全

厚岸國泰寺 (第五十九圖) 六十二

釧路市街 (第六十圖) 全

釧路製紙場 (第六十一圖) 六十三

釧路別保炭山 (第六十二圖) 全

釧路國標茶 (第六十三圖) 六十四

釧路國雄亞寒山 (第六十四圖) 六十四

日高國新冠御科牧場 (第六十五圖) 六十七

日高國沙流太村落 (第六十六圖) 全

日高國沙流岩根農場 (第六十七圖) 六十八

十勝國土人部落 (第六十八圖) 全

北見國稚内市街 (第六十九圖) 全

北海道名所案内目録

北見國網走分監前ノ鐵橋 (第七十圖) 六十九

北見國枝幸砂金採掘場 (第七十一圖) 七十

北見國枝幸砂金洗練之景 (第七十二圖) 全

北見國枝幸廣谷砂金採掘事務所 (第七十三圖) 七十一

千島國エドロフ之黑瀧 (第七十四圖) 全

鯉漁場納屋之景 (第七十五圖) 七十二

土人(アイヌ)室内之寶物 (第七十六圖) 七十二

土人之熊祭 (第七十七圖) 七十九

土人及ピ小屋之景 (第七十八圖) 全

土人之夫婦 (第七十九圖) 全

土人チカムイ之景 (第八十圖) 八十二

第三章 北海道名所拾遺

惠山岬 (渡島) 八十五

北海道名所案内目録

七重試験場 (同)	八十六
大沼熊の湯 (同)	同
神威古潭 (後志)	同
神威岬 (同)	八十七
忍路 (同)	八十八
高島岬 (同)	同
常山溪 (石狩)	同
上雨龍 (同)	八十九
新十津川 (同)	九十
萬金山 (同)	九十一
神路崎 (天鹽)	同
ナイプツ地方 (同)	同
天鹽川 (同)	九十二

北海道名所案内目録

網走湖 (北見)	九十三
猿澗湖 (同)	同
利尻島 (同)	九十四
禮文嶋 (同)	同
知床半島 (同)	九十五
納沙布岬 (根室)	九十六
屈斜路湖 (釧路)	九十七
摩周湖 (同)	同
十勝夷 (十勝)	九十八
様似險道 (日高)	九十九
神威湖 (同)	百
百人濱 (同)	同
襟裳岬 (同)	百一

北海道名所案内目錄

沙異沙允壘	(同)	同
義經神社	(同)	百二
老嫗石	(同)	同
長萬部	(膽振)	同
禮文華	(同)	百三
有珠灣	(同)	百四
白老驛	(同)	百五
森	(渡島)	同
龜泊温泉	(同)	同
瀧の名所	(同)	同
矢越岬	(同)	同
花咲港	(根室)	百
野付灣	(同)	同

北海道名所案内目錄

標津	(同)	同
熊飛瀧	(石狩)	百八
帶廣市街	(十勝)	同
大津	(同)	百九
然別湖	(同)	同
幌泉	(日高)	百十
浦河	(同)	同
支笏湖	(膽振)	同
鶴川	(同)	同
苫小牧	(同)	百十一
等樹院厚澤寺	(同)	同
紋別港	(北見)	百十二
湧別村	(同)	同

北海道名所案内目録

野付牛	(同)	同
斜里	(同)	百十三
宗谷岬	(同)	同
雄冬嶺	(天鹽)	同
留萌	(同)	百十四
石狩町	(石狩)	同
岩見澤	(同)	同
江別村	(同)	百十五
登川村	(同)	同
月形村	(同)	同
雨龍農場	(同)	百十六
辨天岬	(後志)	同
幌武意	(同)	同

北海道各所案内目録

好來瀧	(同)	百十七
辨慶岬	(同)	同
渦の澤温泉	(同)	同
黒松内越	(同)	百十八
白糸岬	(同)	同
太櫓	(同)	同
鶉泊岬	(同)	百十九
奥尻島	(同)	同
古平	(同)	同
湯の澤温泉	(渡島)	同
乙部温泉	(同)	百二十
火山島	(同)	同
熊石村	(同)	同

霧多布 (釧路) 百二十一
 泊村 (千島) 同
 ナヤチヤ岳 (同) 同
 齧塚 (同) 百二十二
 醜泉 (同) 百二十四
 占守島 (同) 同
 石狩の鮭漁 (石狩) 百二十五
第四章 北海道各國區郡表面積及人口 百二十六
 北海道各驛里程表 百二十九
 函館ヨリ各地港ニ至ル航程海里 百二十九
 北海道名所地圖

附錄第五章 北海道殖民案内

●廣告案内目錄 (イロハ順)
 今井合名會社各地支店 (函館、小樽、室蘭、瀧川、旭川)
 伊月三郎商店 (函館地蔵町) 和洋小問物雜貨商
 一二堂書店 (函館末廣町) 和漢洋書籍文房具商
 池田大盛堂 (岩内御鉢内町) (賣藥小問物雜貨)書籍類
 巴香堂内山茂八 (函館末廣町) 香油香水煉油製造販賣
 函館日日新聞社 (函館青柳町)
 函館每日新聞社 (函館富岡町)
 函館ビール釀造所 (函館谷地頭町) ビール釀造業
 林旅館 (函館東濱町) 郵船會社客取扱所
 北海新聞社 (函館辨天町)
 北海道機械綱株式會社 (函館大町) 製綱一切販賣業
 北海道商業銀行岩内支店 (岩内御鉢内町) 銀行營業一切

北海道名所案内目錄

今井合名會社札幌本店 (札幌南一條) 吳服反物和洋小間物雜貨
 東洋堂阿部榮吉 (函館會所町) 洋式麵麩菓子製造販賣
 富田多四郎 (函館惠比須町) ラムネ製造雜誌印刷業
 林長館 (渡島湯の川村) 温泉料理及旅館
 長田商店 (函館未廣町) 和洋小間物雜貨商
 長田商店醬油部 (函館未廣町) 京印醬油卸販賣
 小野吳服店 (小樽色内町) 吳服反物商
 加藤又五郎 (函館未廣町) 和洋小間物文房具問屋
 魁文舍 (函館未廣町) 内外書籍文房具商
 加藤久太郎時計店 (函館未廣町) 時計及附屬品古金銀賣買
 金子孝太郎 (函館地蔵町) 煉瓦製造販賣業
 平商一店 (函館真砂町) 煉瓦石屋根瓦石灰販賣業
 常野與兵衛本店 (函館大町) 銘茶商

北海道名所案内目錄

常野彌助商店 (函館大町) はき物雨傘其他附屬品一切
 常野壽全堂 (函館大町) 賣藥藥品機械藥劑營業
 葛谷銃砲店 (函館會所町) 銃砲火藥免許商
 仲村金右衛門商店 (函館未廣町) 内外煙艸紙砂糖蠟燭素麵類
 中村富貴堂 (札幌南一西二) 内外書籍學校用書
 向井商店 (小樽開運町) 吳服反物和洋小間雜貨商
 宗澤茂七 (函館東濱町) 旅館郵船會社船客取扱所
 黑田支店 (函館未廣町) 内外煙艸荒物卸商
 山形屋敬助 (札幌停車場通) 旅館
 松居合名會社吳服店 (函館大町) 吳服太物商
 松邑三松堂 (東京京橋區弓町) 書籍發行及取次販賣業
 國領平七藥店 (函館辨天町) 諸大家賣藥特約販賣業
 小西清吉商處 (函館赤坂町) 銘茶茶器薰物線香類販賣

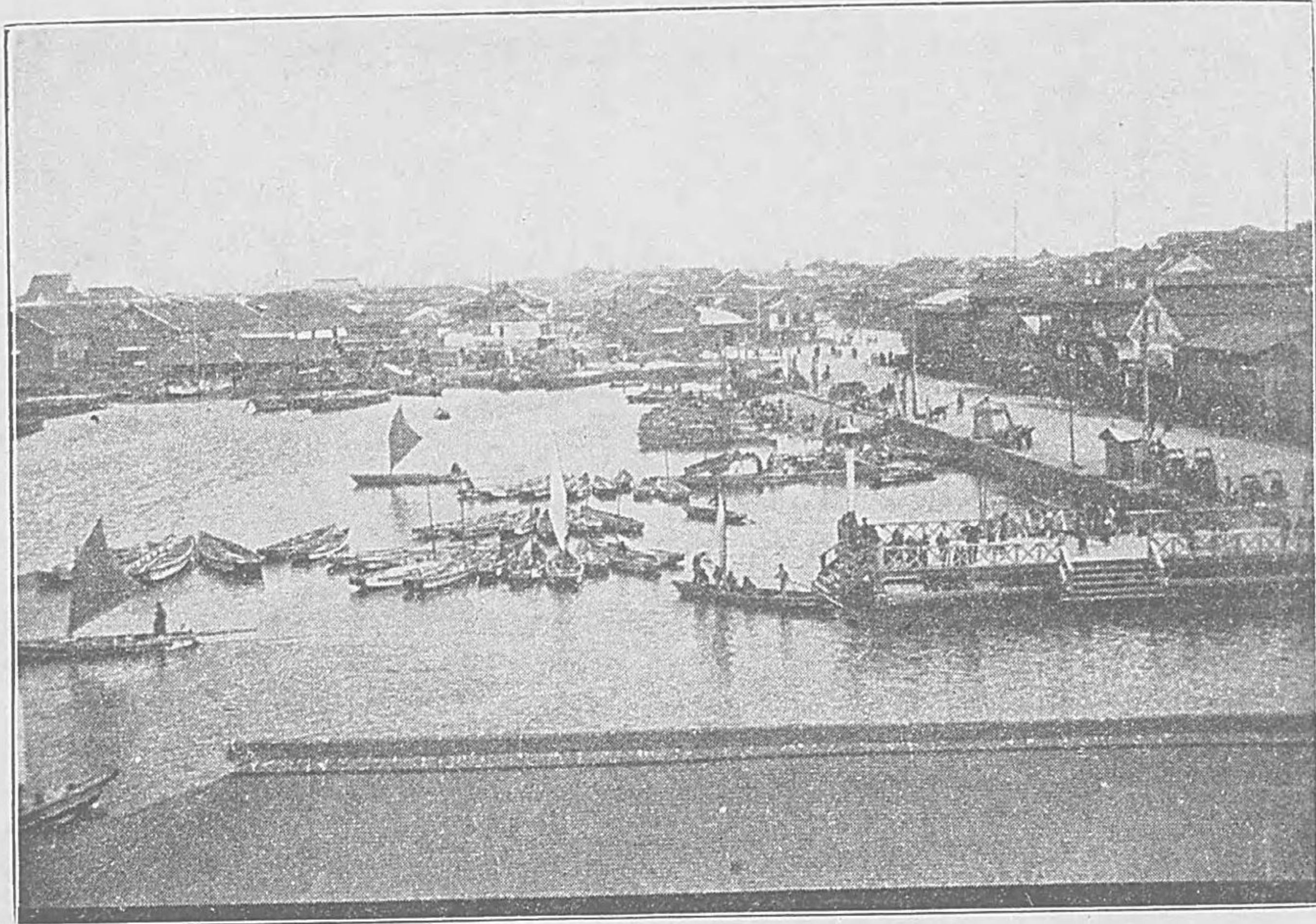
北海道名所案内目次

小 林 亭 (函館蓬萊町) 料理營業
 兒玉松之助商店 (函館四川町) 筆墨硯小間物商
 小島近江屋書店 (函館惠比須町) 内外書籍校用類一切
 佐野醬油店 (函館龜田村) 醬油釀造販賣業
 佐野合名會社 (函館大町) 硝子製造販賣業
 札幌ビール株式會社 (札幌北二條東四) 札幌ビール釀造所
 齋藤吳服店 (函館未廣町) 吳服反物商
 木下清次郎商店 (函館地蔵町) 和洋小間物卸商
 金田一健次郎業店 (函館地蔵町) 大家賣藥大販賣業
 三浦洋物店 (函館未廣町) 洋物雜貨商
 宮崎竹四郎 (函館東川町) 味噌製造業
 鹽谷商店 (函館未廣町) 和洋煙艸紙石油類
 樋口商店 (函館未廣町) 吳服反物商

北海道名所案内目次

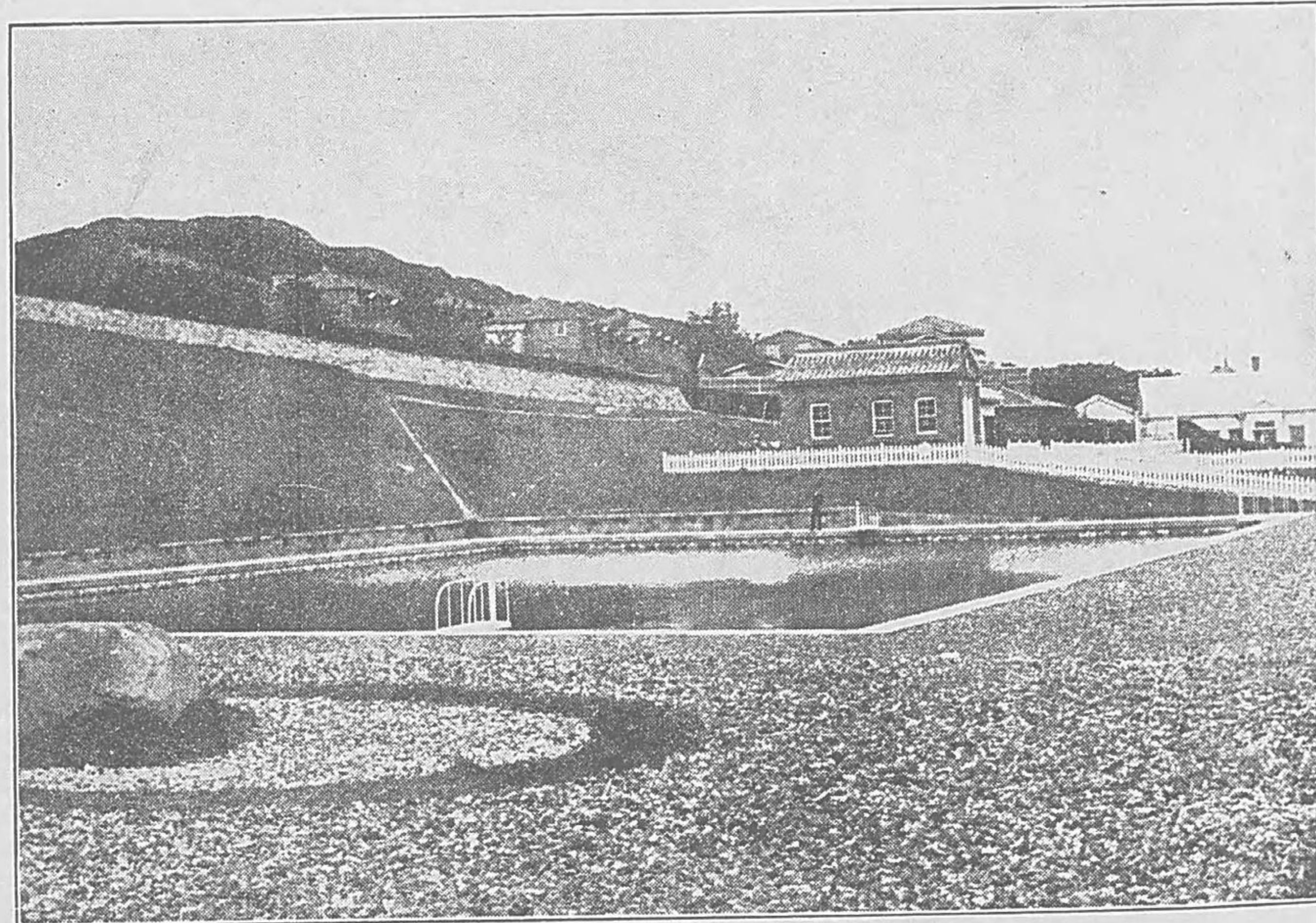
森 商店 (函館未廣町) 各地陶器一切卸小賣
 最上谷次吉 (室蘭札幌通) 各雜貨商
 森製軸所 (石狩旭川) 軸木製造業
 洗心館 (函館湯の川) 御料理及温泉旅館
 關川商店 (函館惠比須町) メリヤス類販賣業
 菅谷善司 (函館地蔵町) 清酒及銘酒販賣業
 杉野三次郎 (函館辨天町) 荒物漁具販賣商

橋 棧 之 港 館 函 圖 一 第



The "Sambashi" of Hakodate harbor

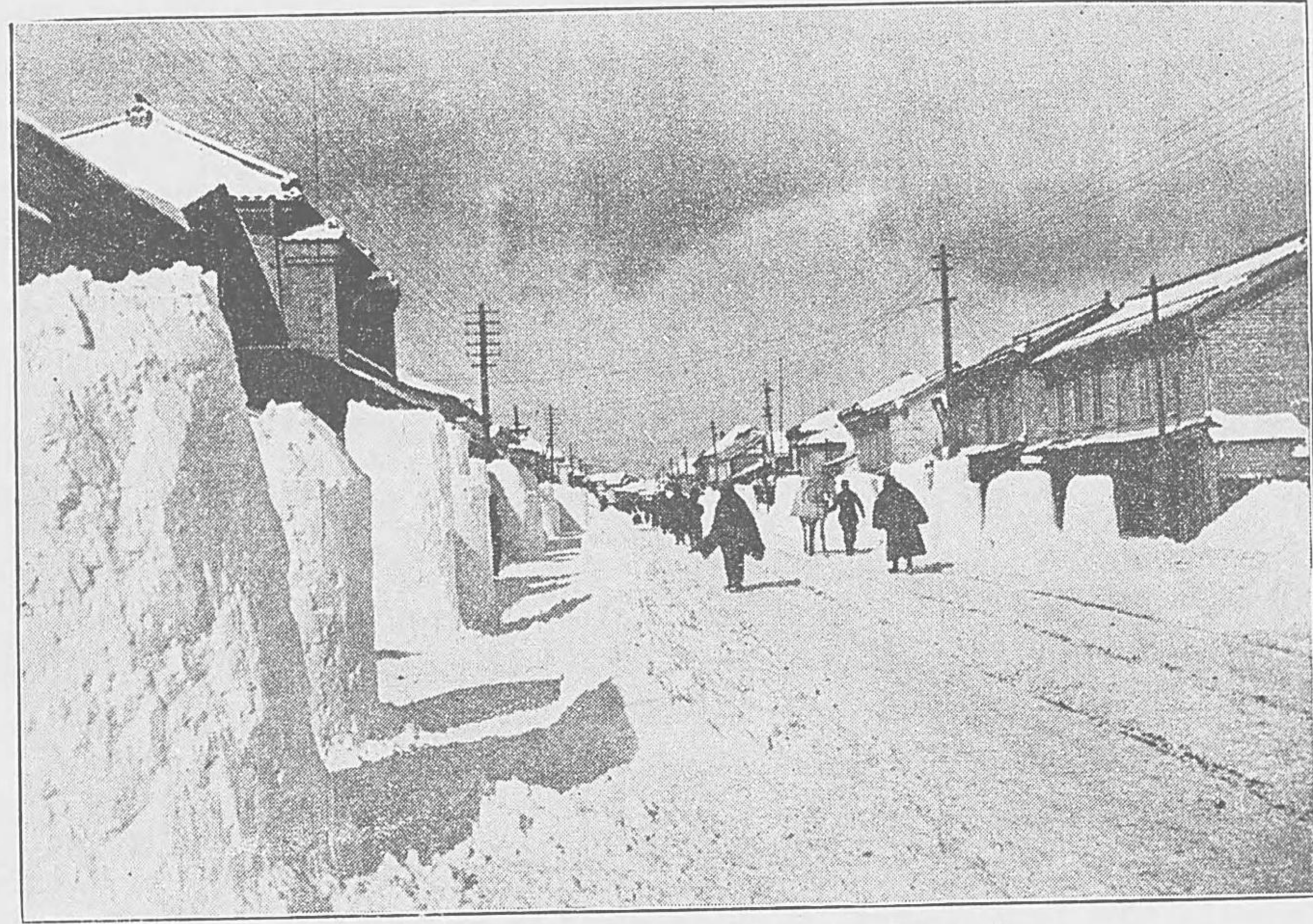
池 水 配 道 水 箱 函 圖 二 第



The Service Reservoir of the Aqueduct, Hakodate

東京築地南本町原田寫眞館版印刷所印行

景雪之町廣末箱函 圖三第



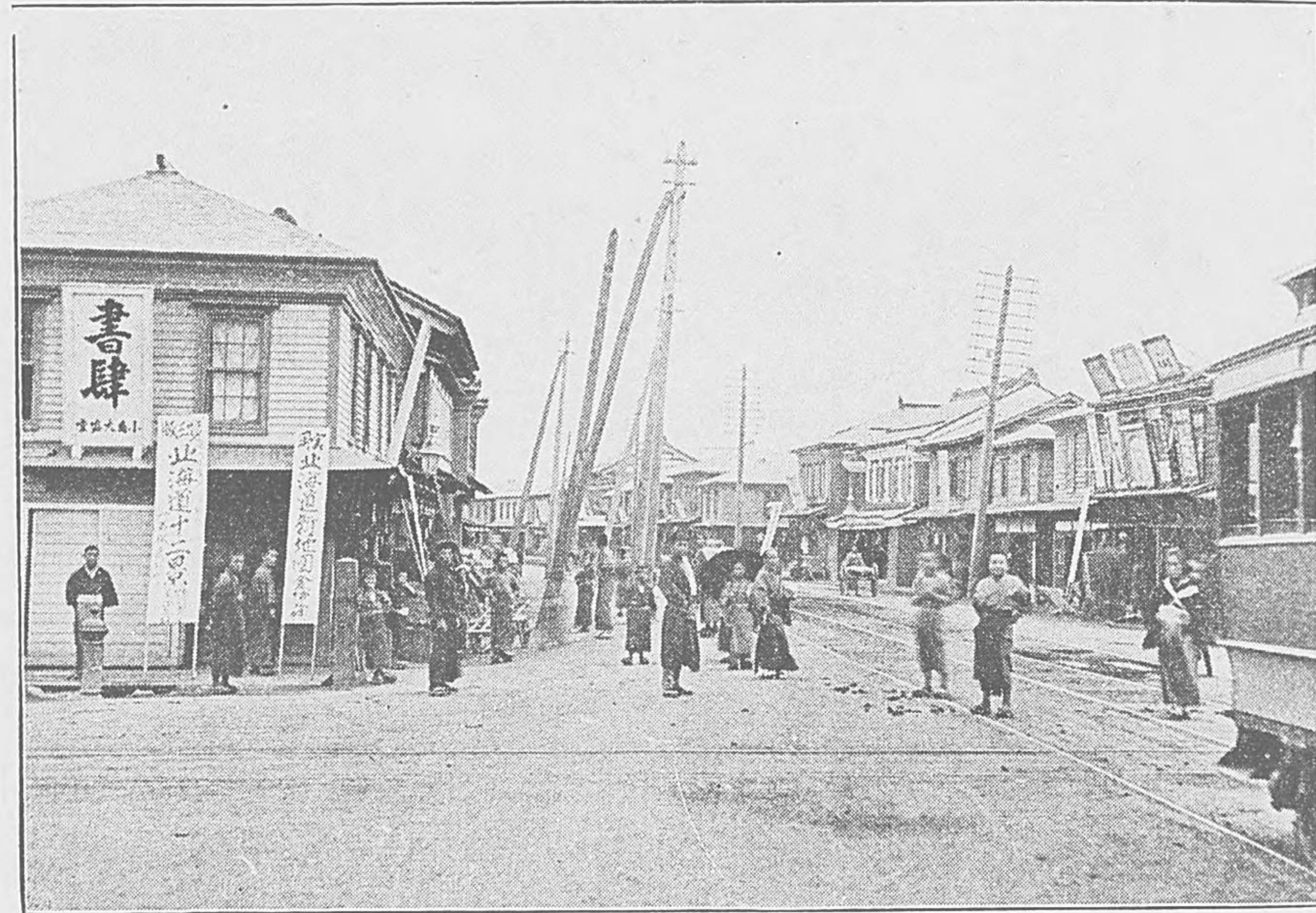
The snow view of Suchiro-chō, Hakodate.

む望を局便郵りよ町大箱函 圖四第



The Post Office viewed from Daimachi, Hakodate.

町 藏 地 箱 函 圖 五 第



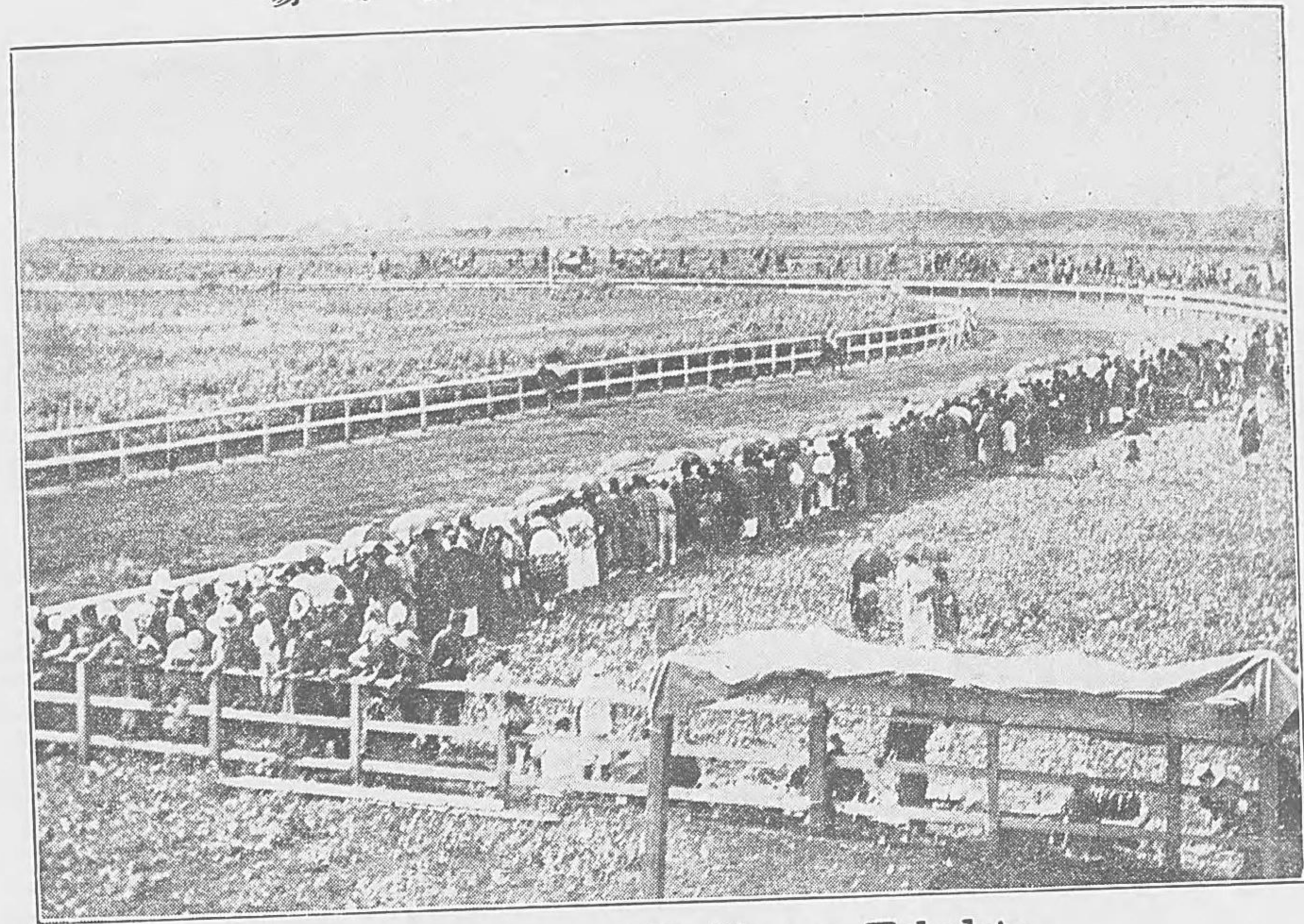
Jizo-chō, Hakodate

場 浴 水 海 濱 森 大 館 函 圖 六 第



The watery place of Ōmoribama, Hakodate.

場馬競野柏館函 圖七第



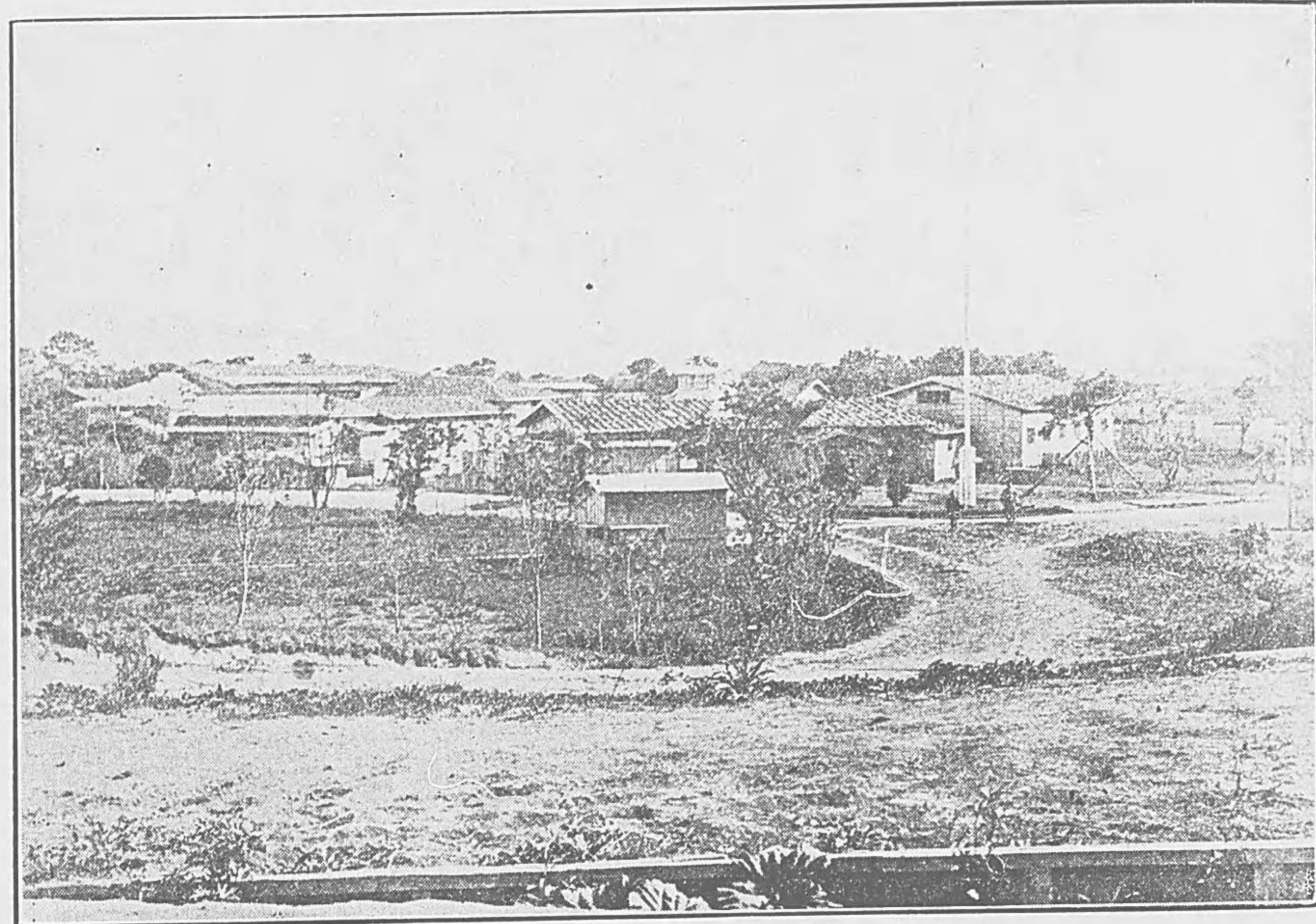
The race course of Kashiwano, Hakodate.

切水廊稜五 圖八第



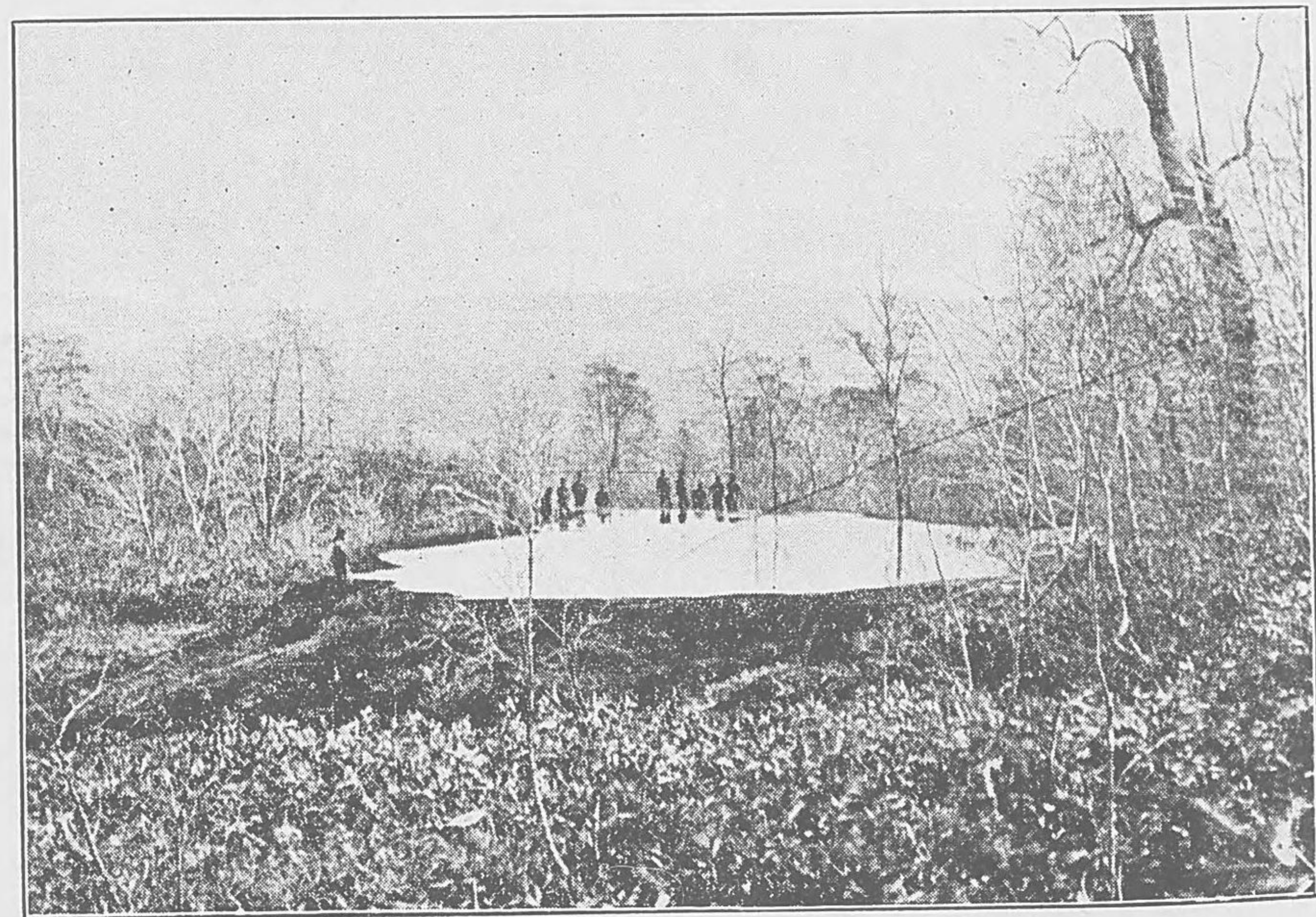
The ice work of Goryokaku.

場 泉 温 川 の 湯 圖 九 第



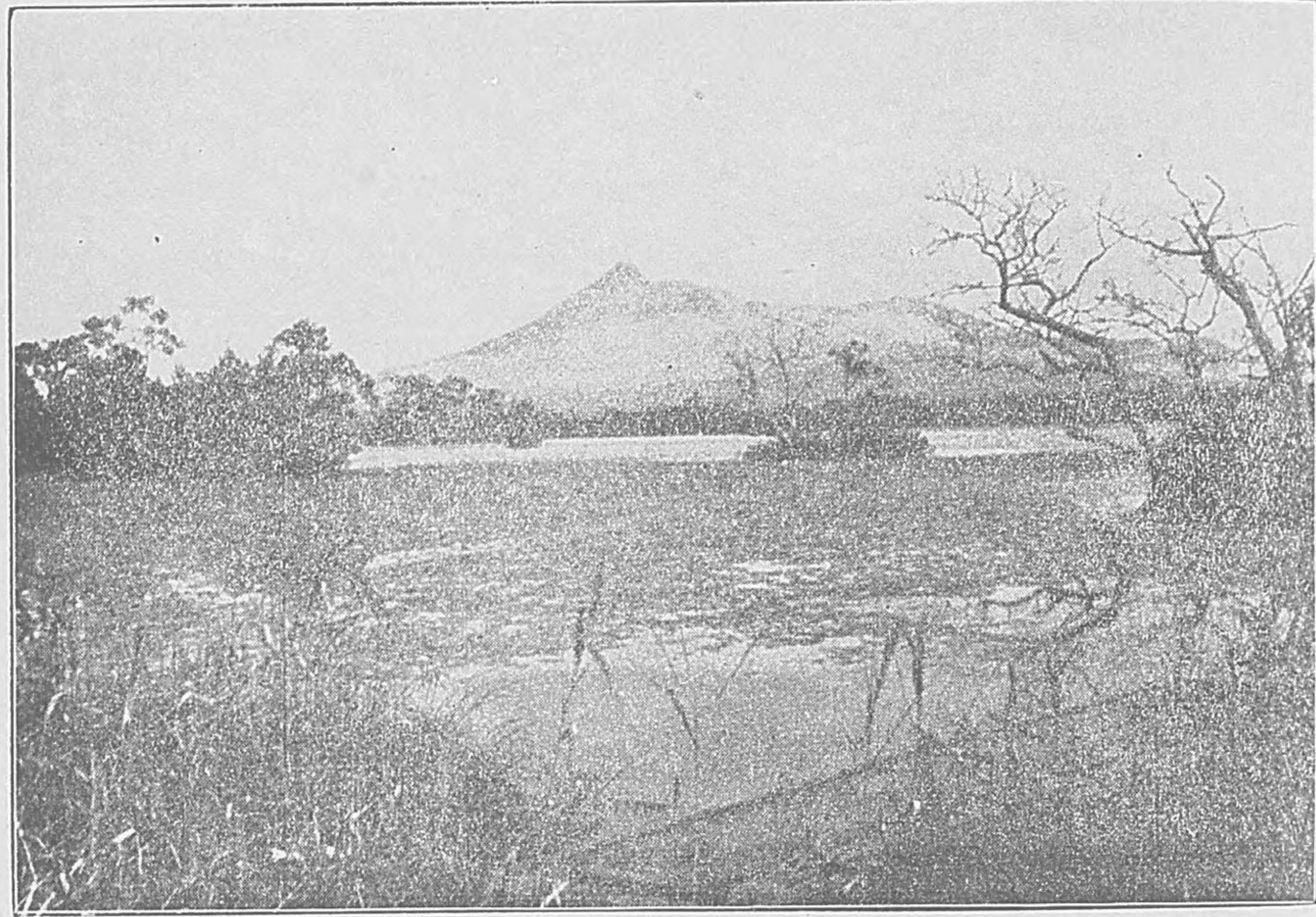
The hot spring of Yunokawa.

沼 赤 地 源 水 館 函 圖 十 第



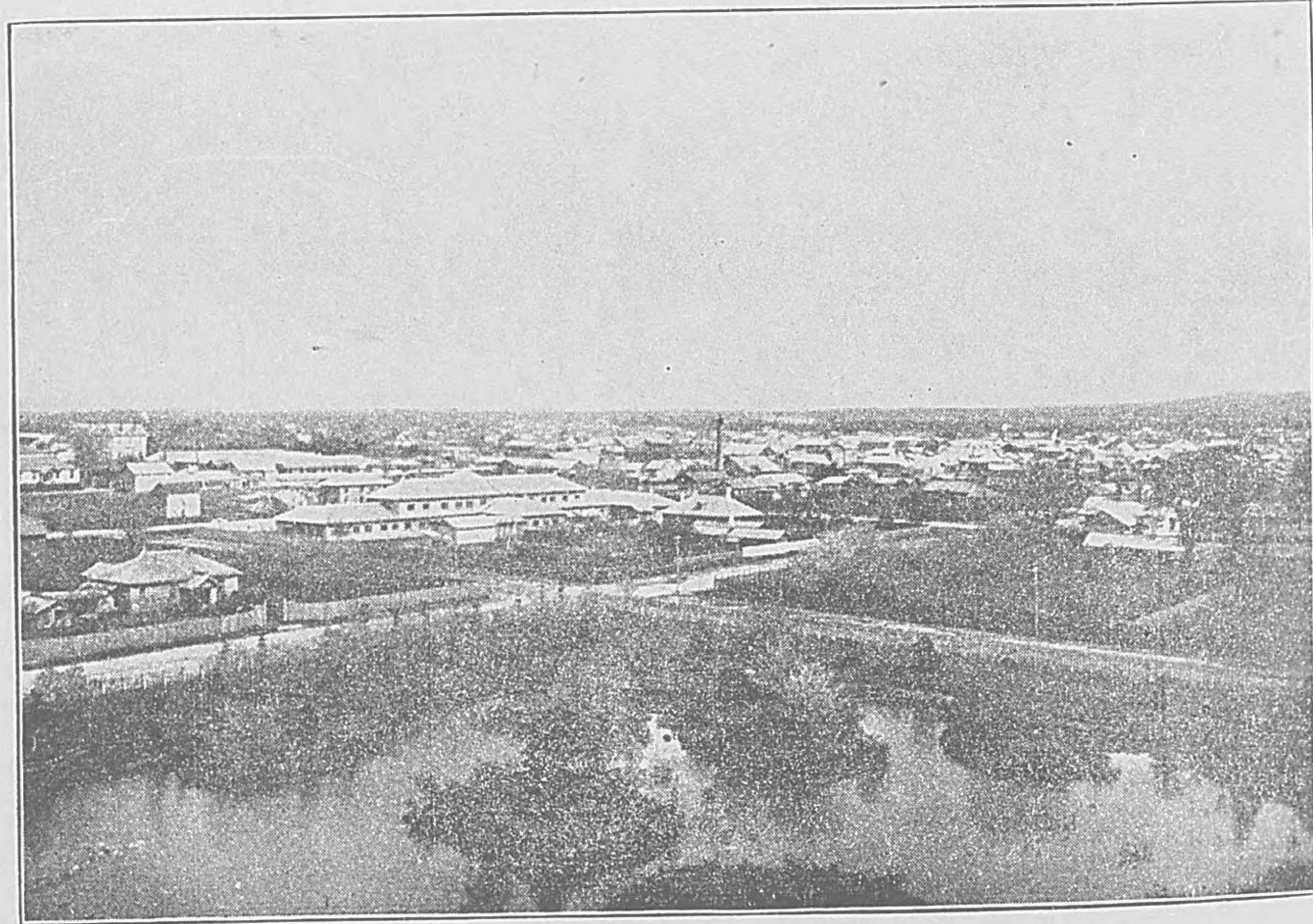
Akanuma, the source of the aqueduct, Hakodate.

沼 菜 尊 國 嶋 渡 圖 一 十 第



Jinsai-numa, Oshima.

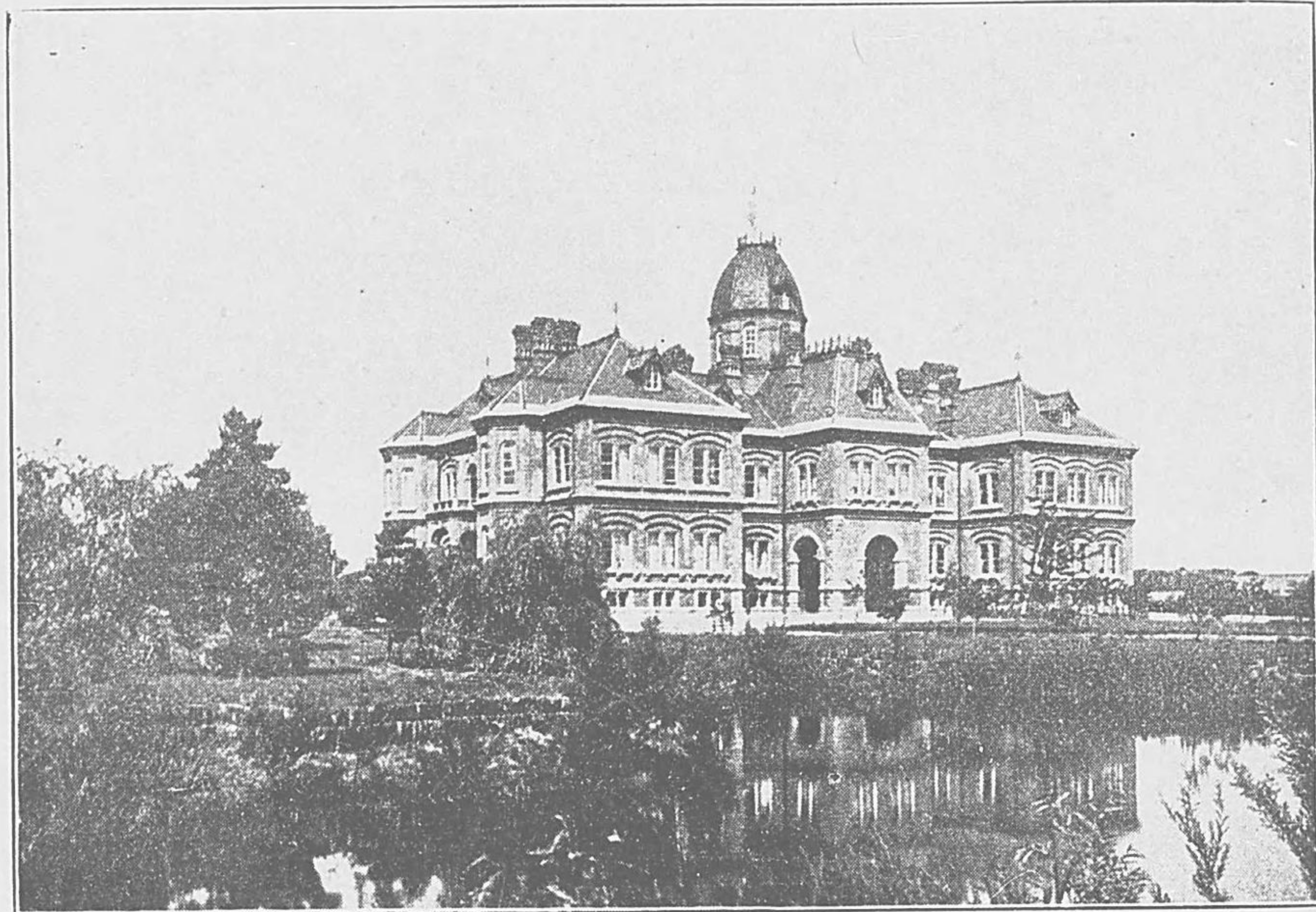
街 市 幌 札 圖 二 十 第



The city of Sapporo.

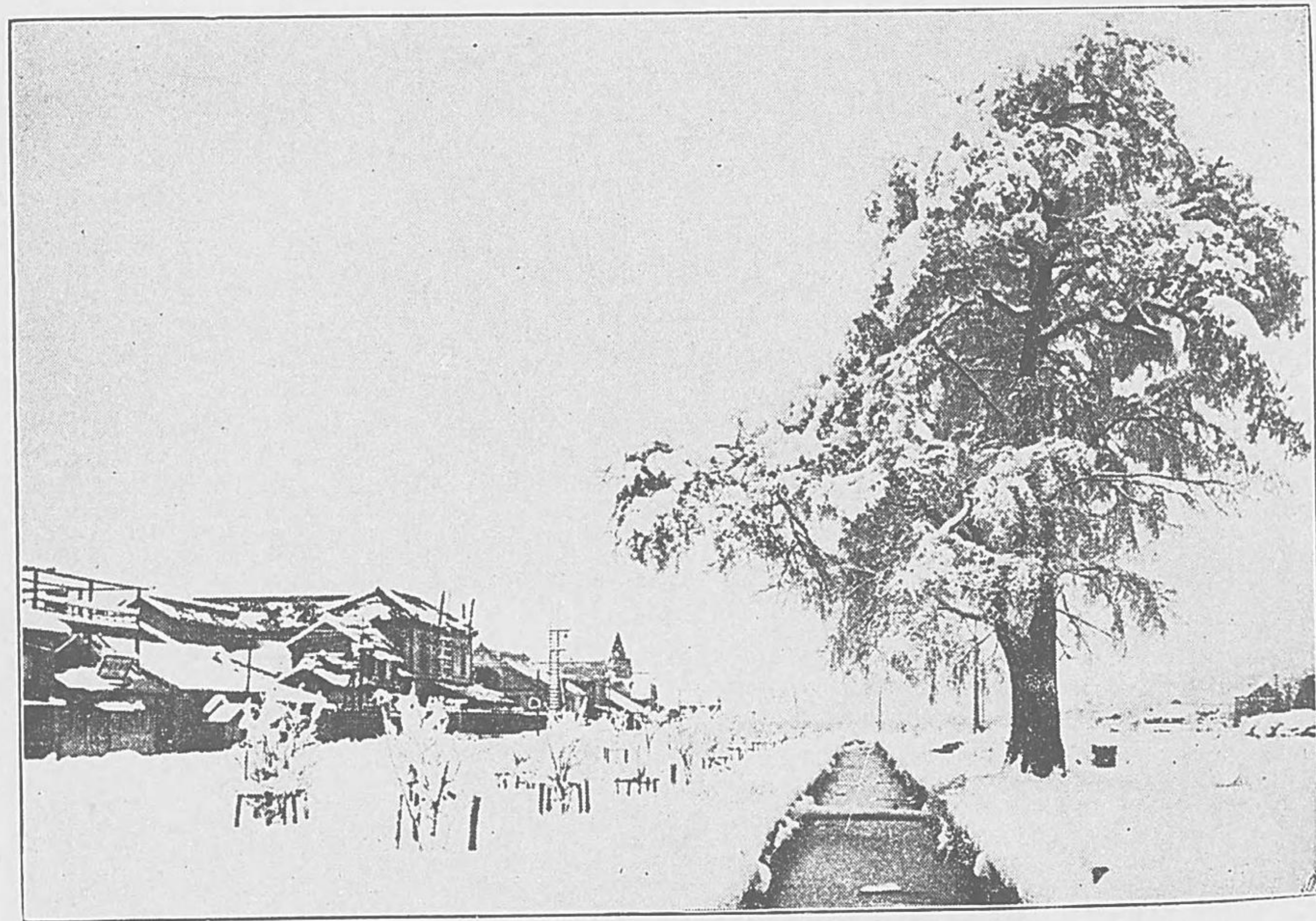
Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page. Some words are difficult to discern but appear to be in English.

廳 道 海 北 圖 三 十 第



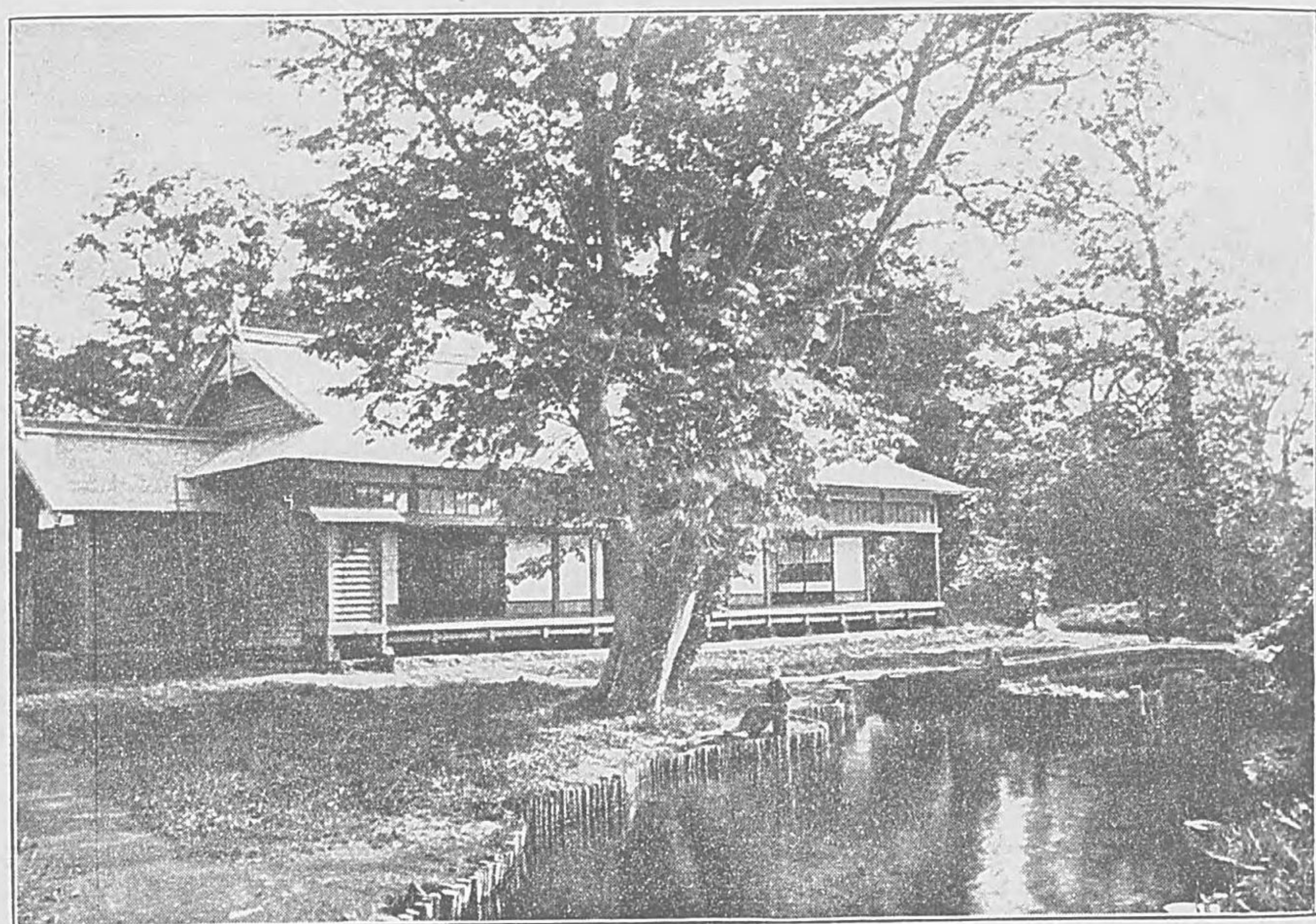
Hokkaidō-chō.

景 雪 の 通 大 幌 札 圖 四 十 第



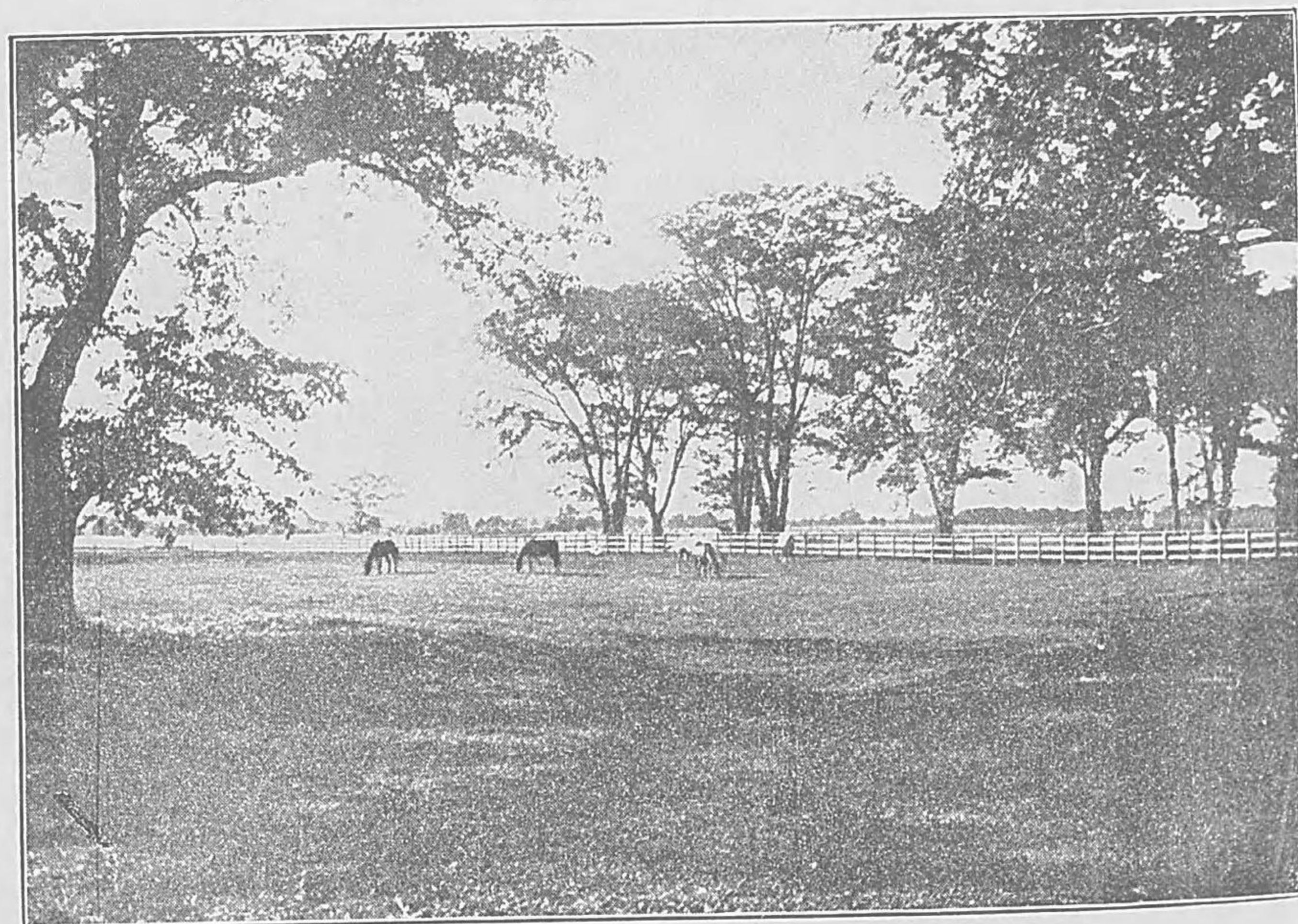
The snow view of the main street, Sapporo.

亭樂借園公島中幌札 圖五十第



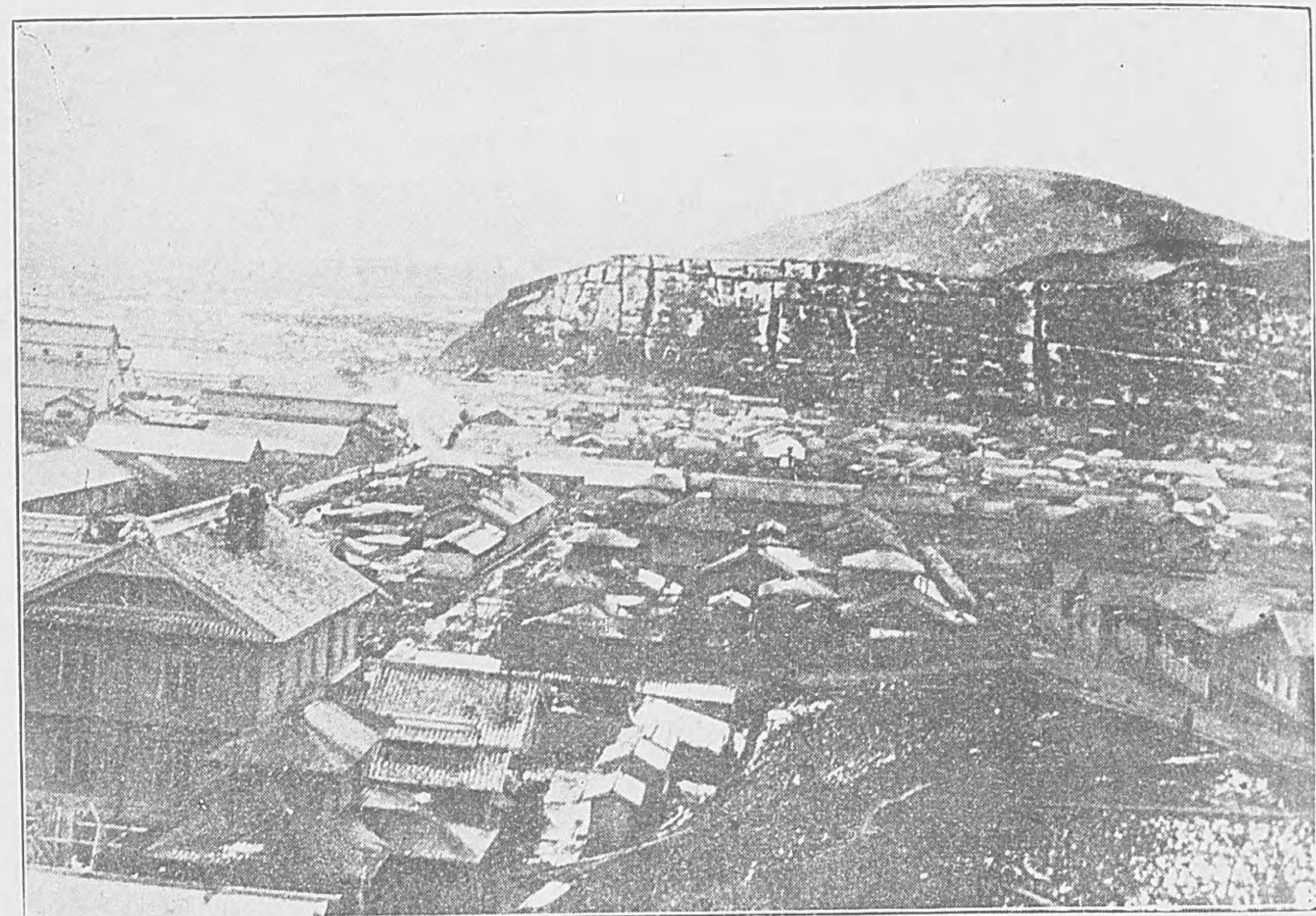
Kairaku-tei in the park of Nakanoshima, Sapporo.

園農幌札 圖六十第



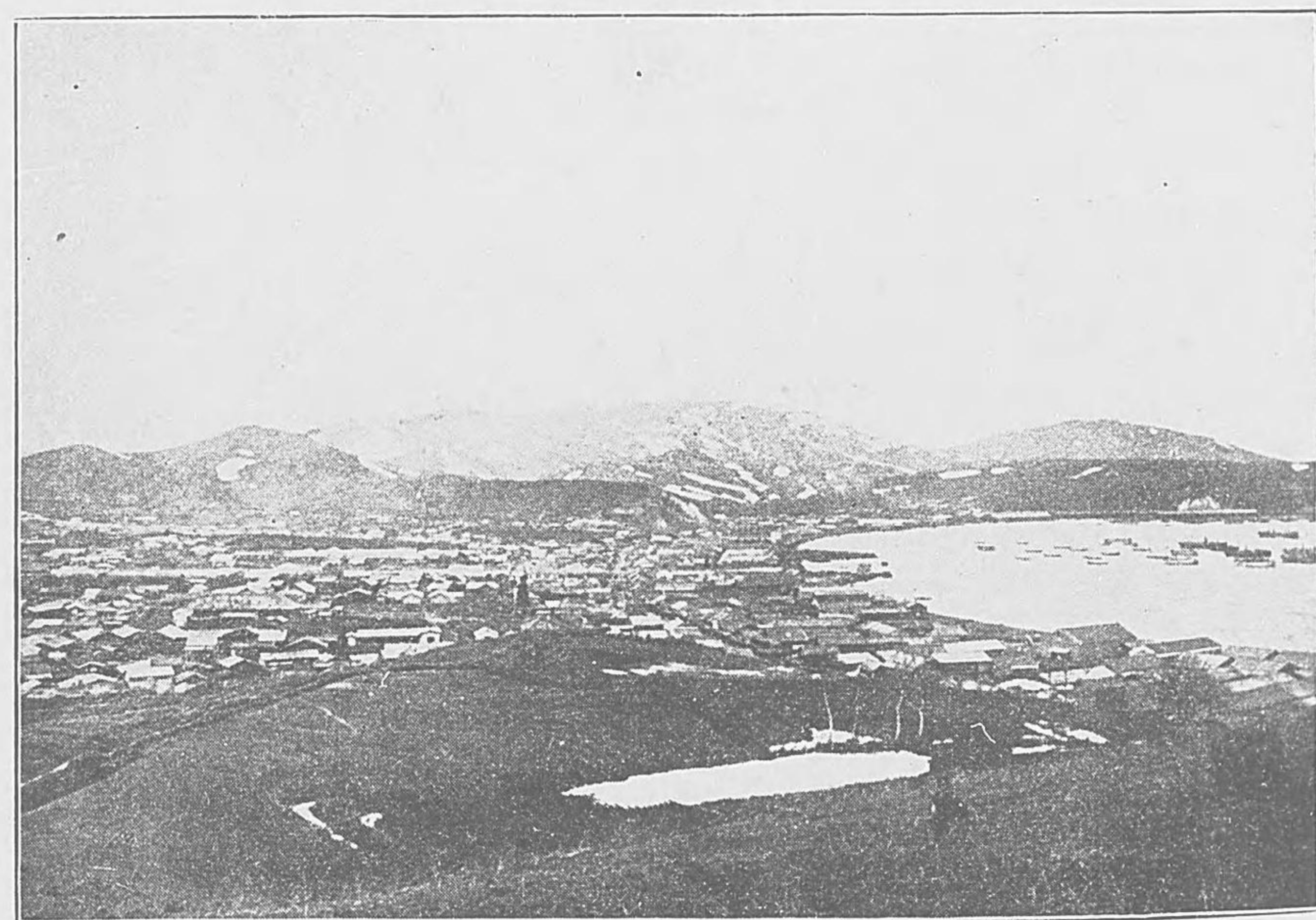
The agricultural garden of Sapporo.

街市港樽小圖七十第



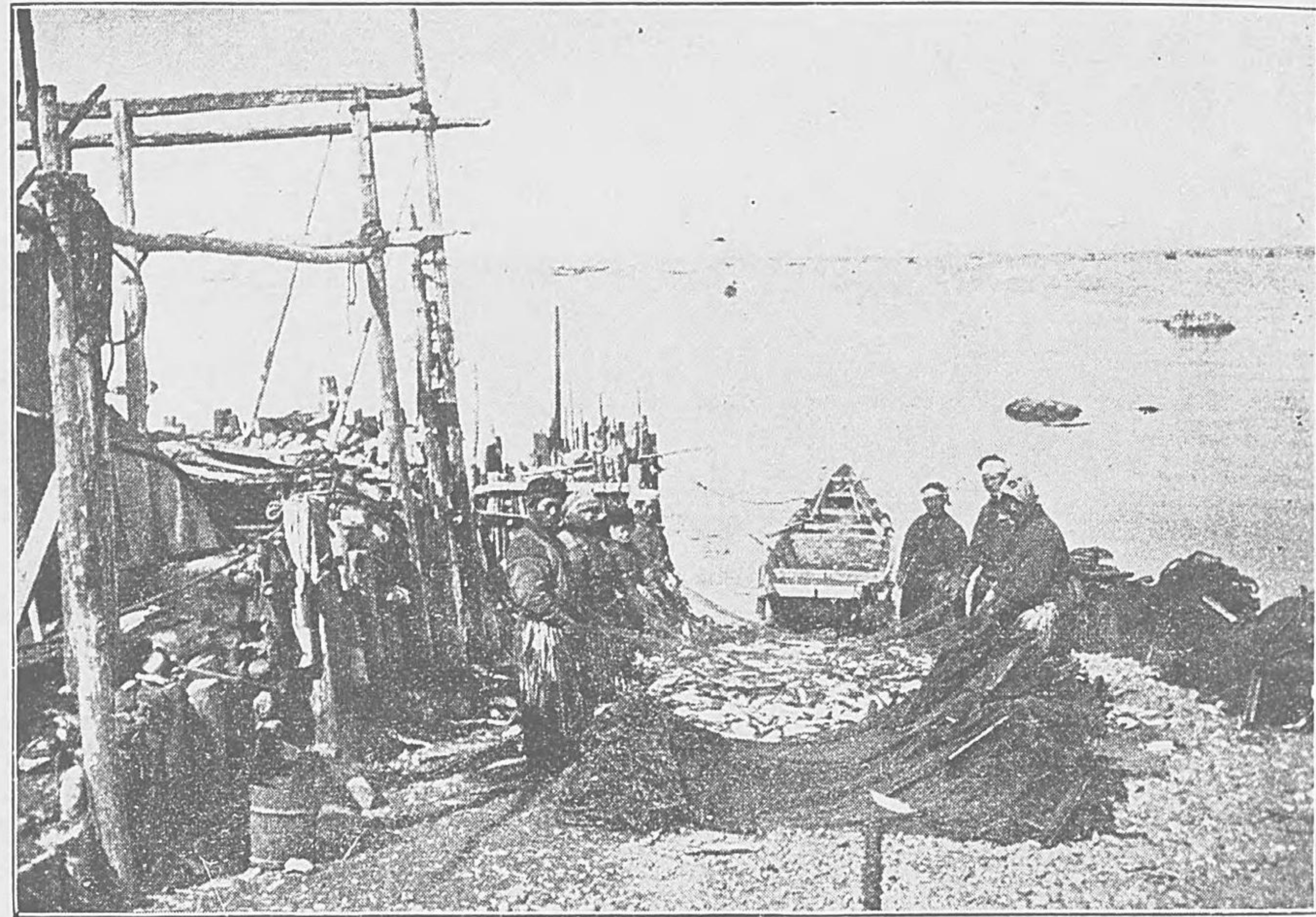
The city of Otaru.

灣港樽小圖八十第



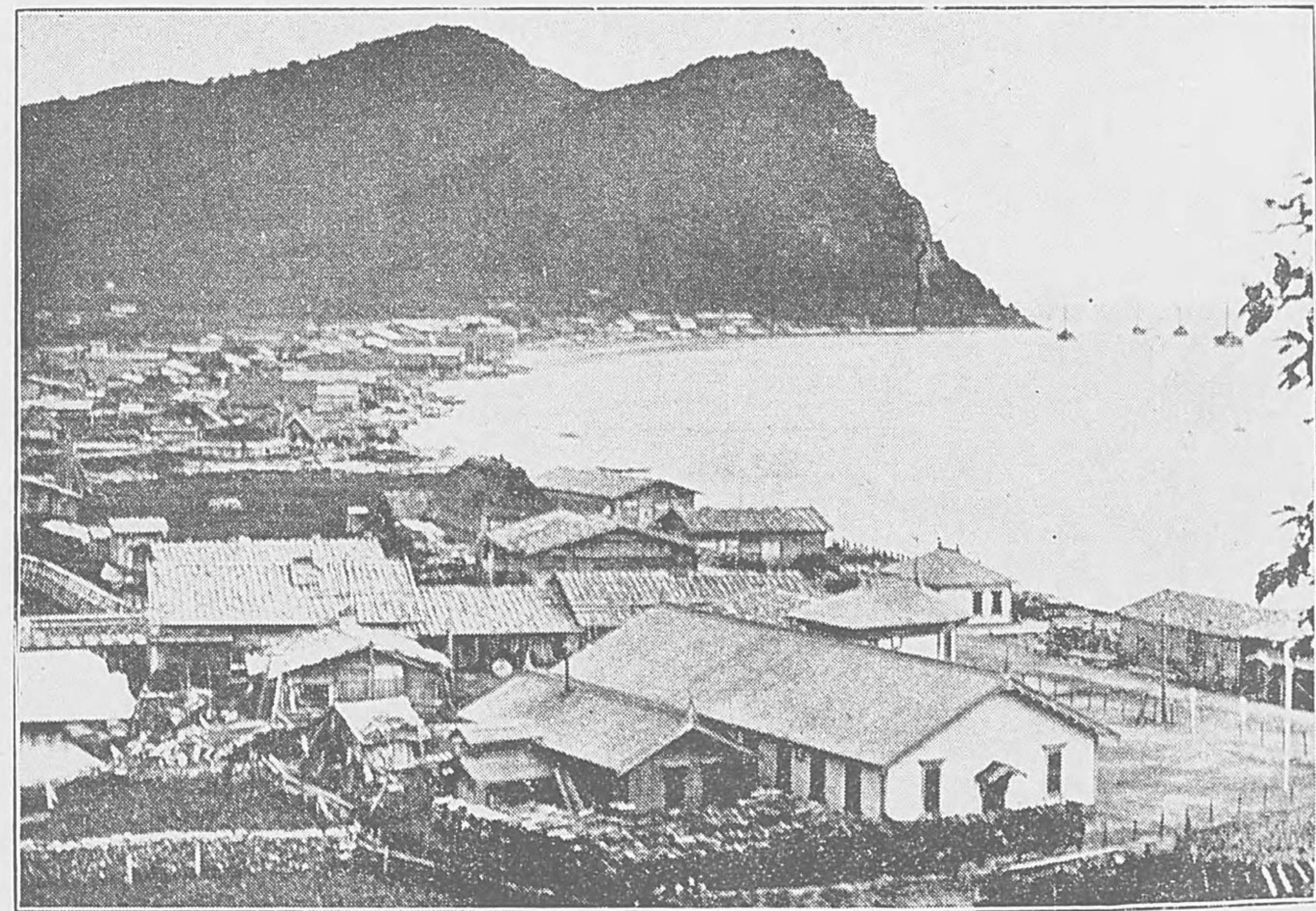
The bay of Otaru.

景網差漁鯡近附樽小 圖九十第



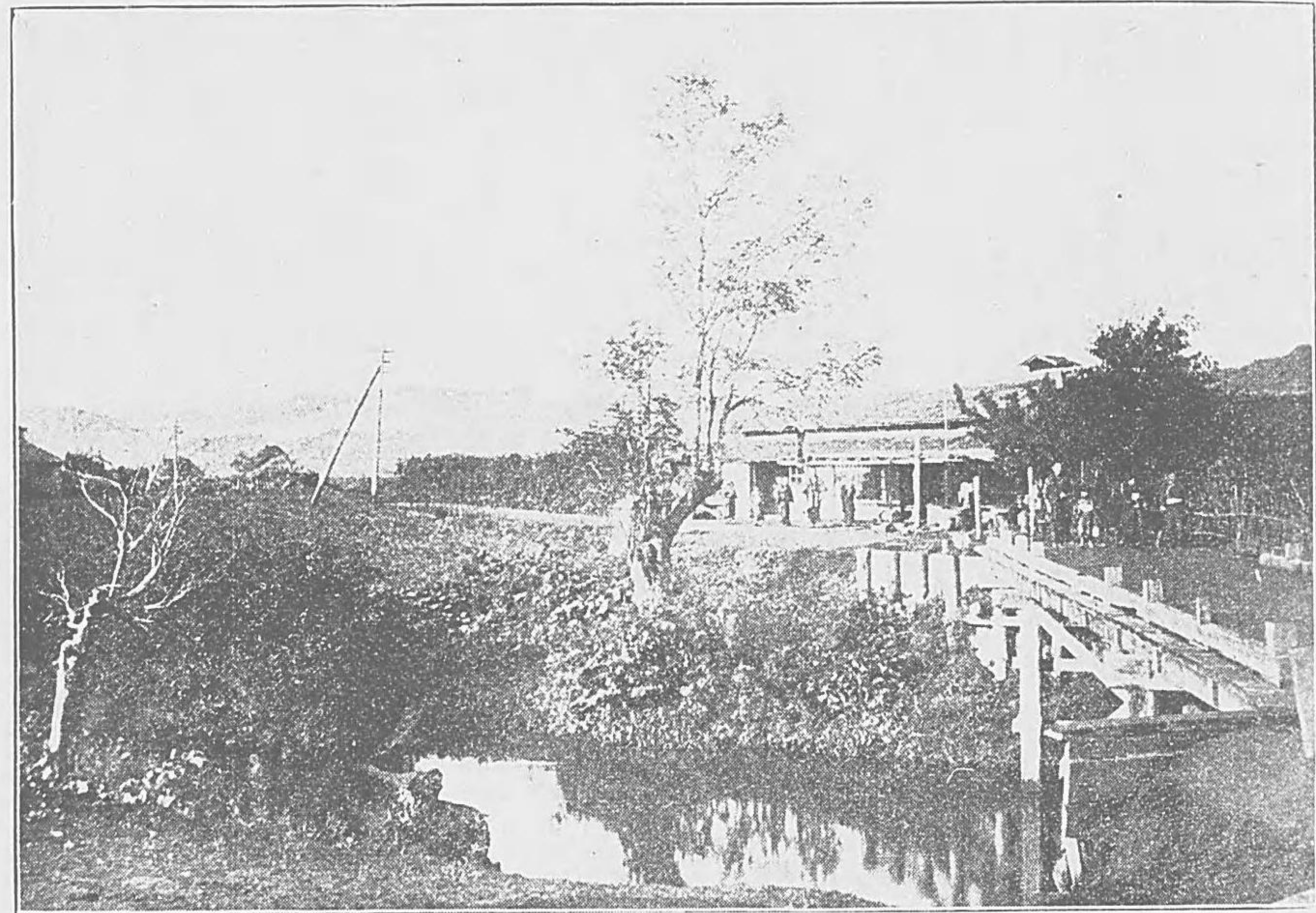
The view of the "herring fishing", near Otaru.

市余國志後 圖十二第



The town of Yoichi, Shiribeshi.

園 公 之 山 福 圖 一 十 二 第



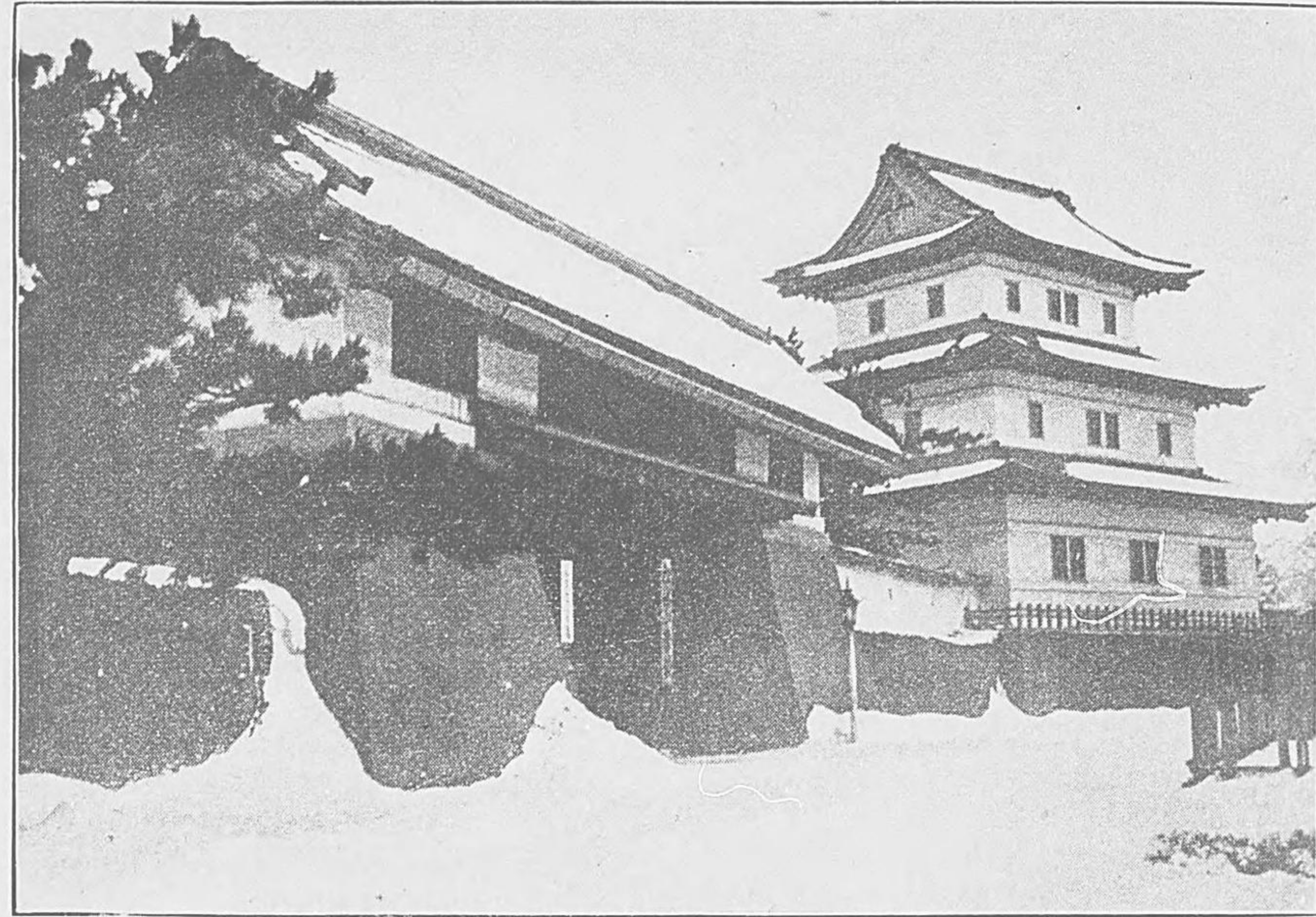
Fukuyama park.

路 道 山 鑛 別 然 村 木 仁 市 余 圖 二 十 二 第



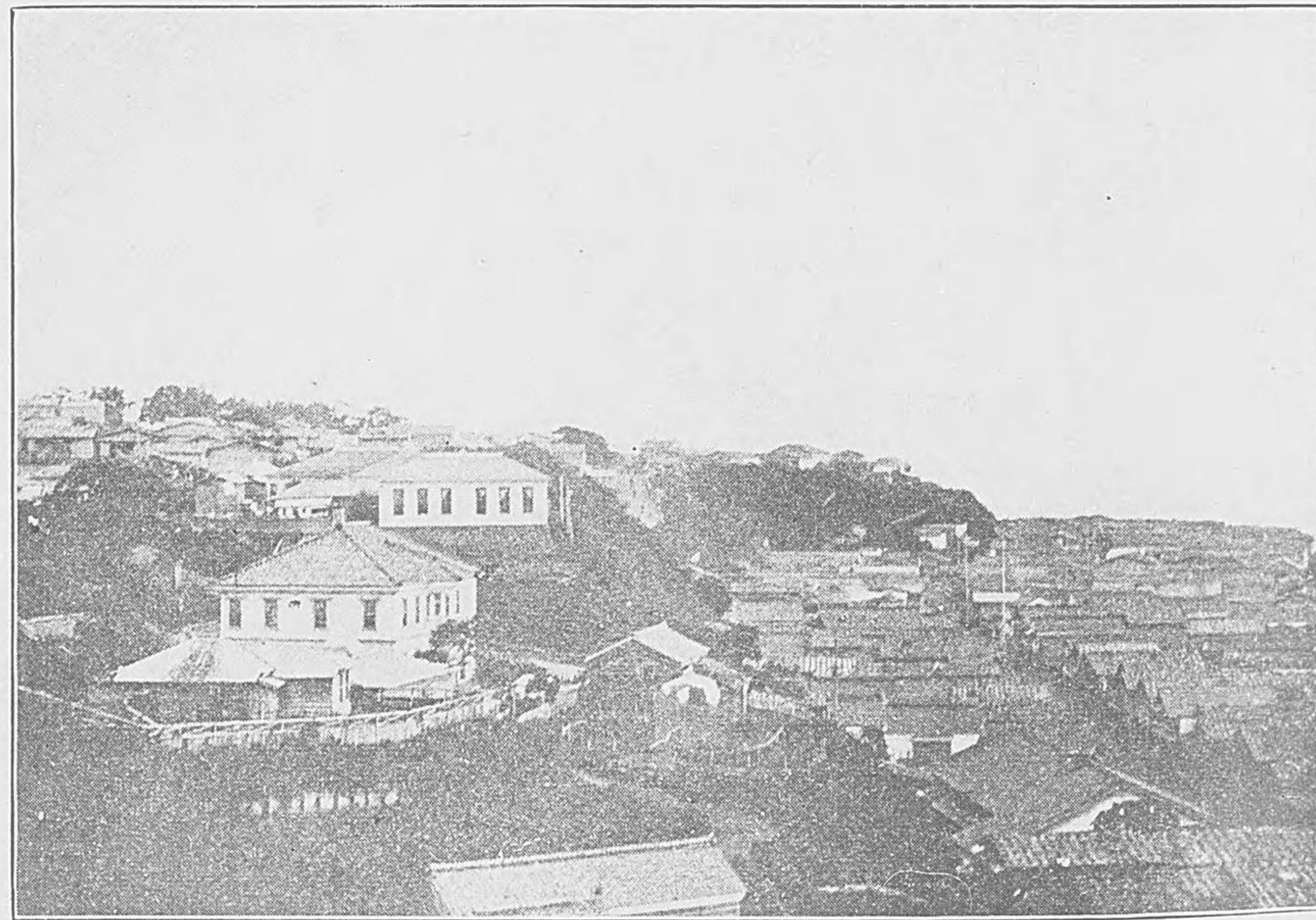
The roads to Shikaribetsu mine, Nikimura, Yoichi-gun.

校學小城松跡城山福舊 圖三十二第



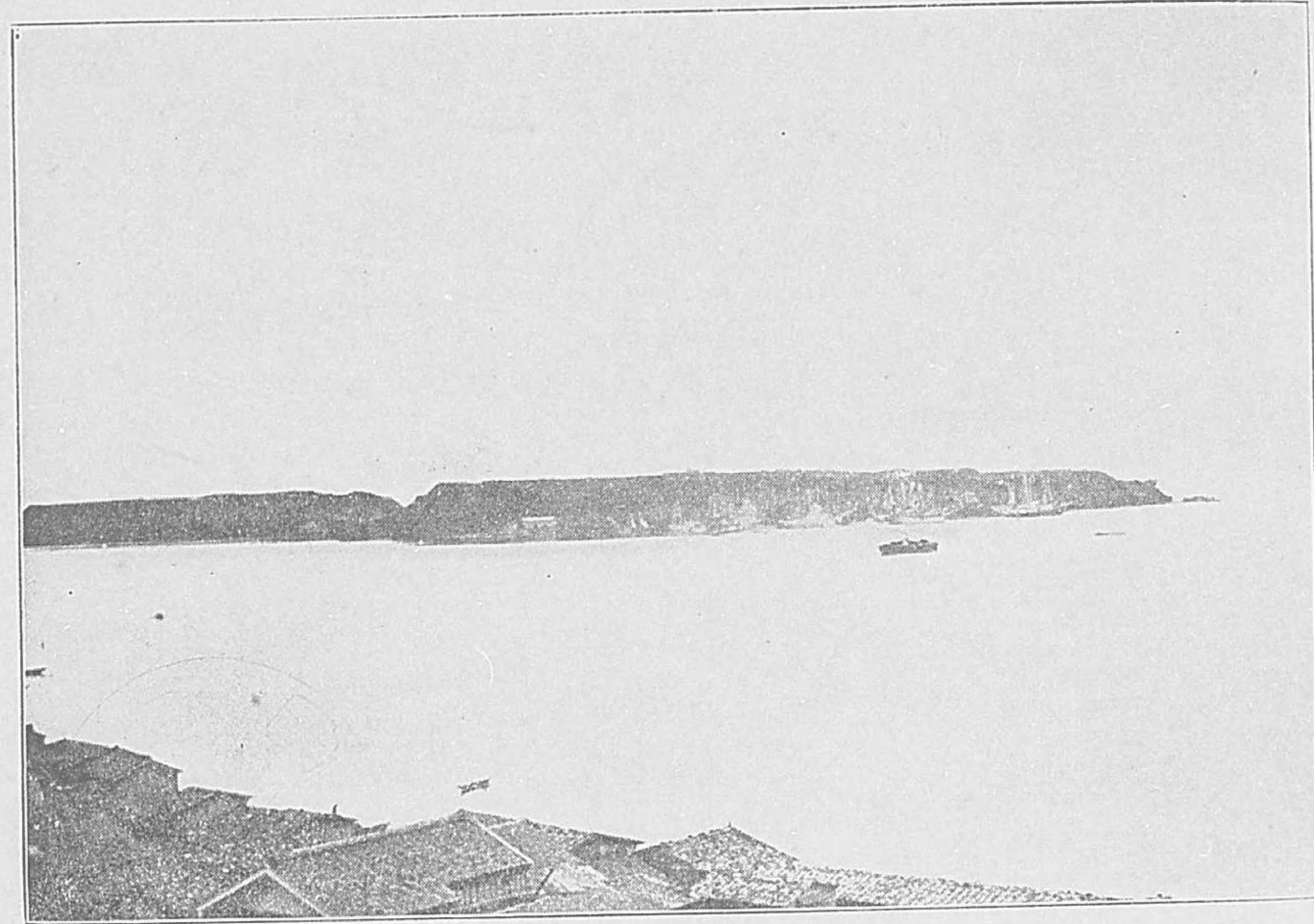
Matsushiro Primary Schcol at the tract of the old Fukuyama Castle.

街 市 差 江 園 四 十 二 第



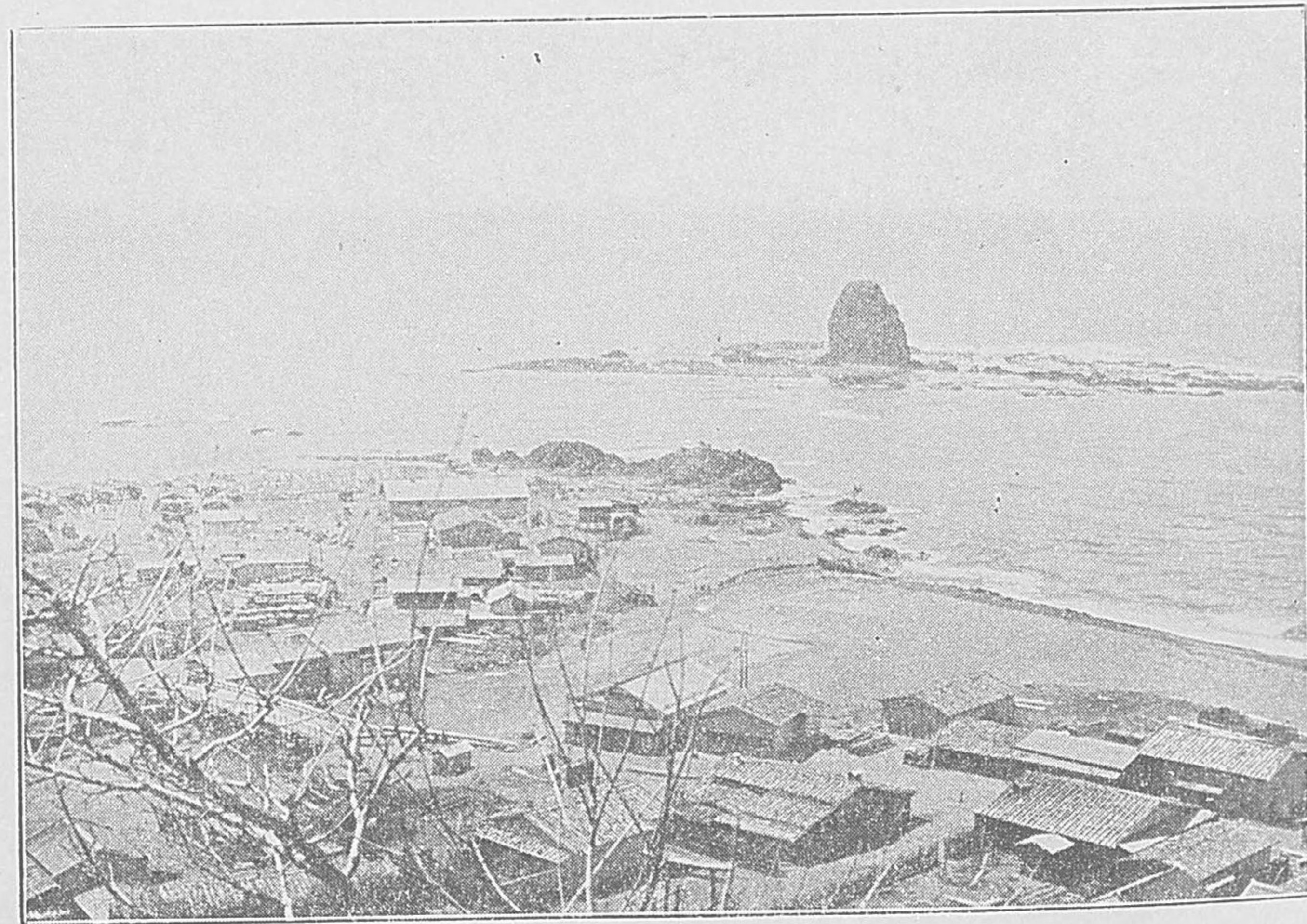
The town of Esashi.

島メモカ港差江 圖五十二第



Kamome-shima, Esashi.

街市棚瀬國志後 圖六十二第



The town of Setana, Shiribeshi.

景之岩杉本三棚瀬 圖七十二第



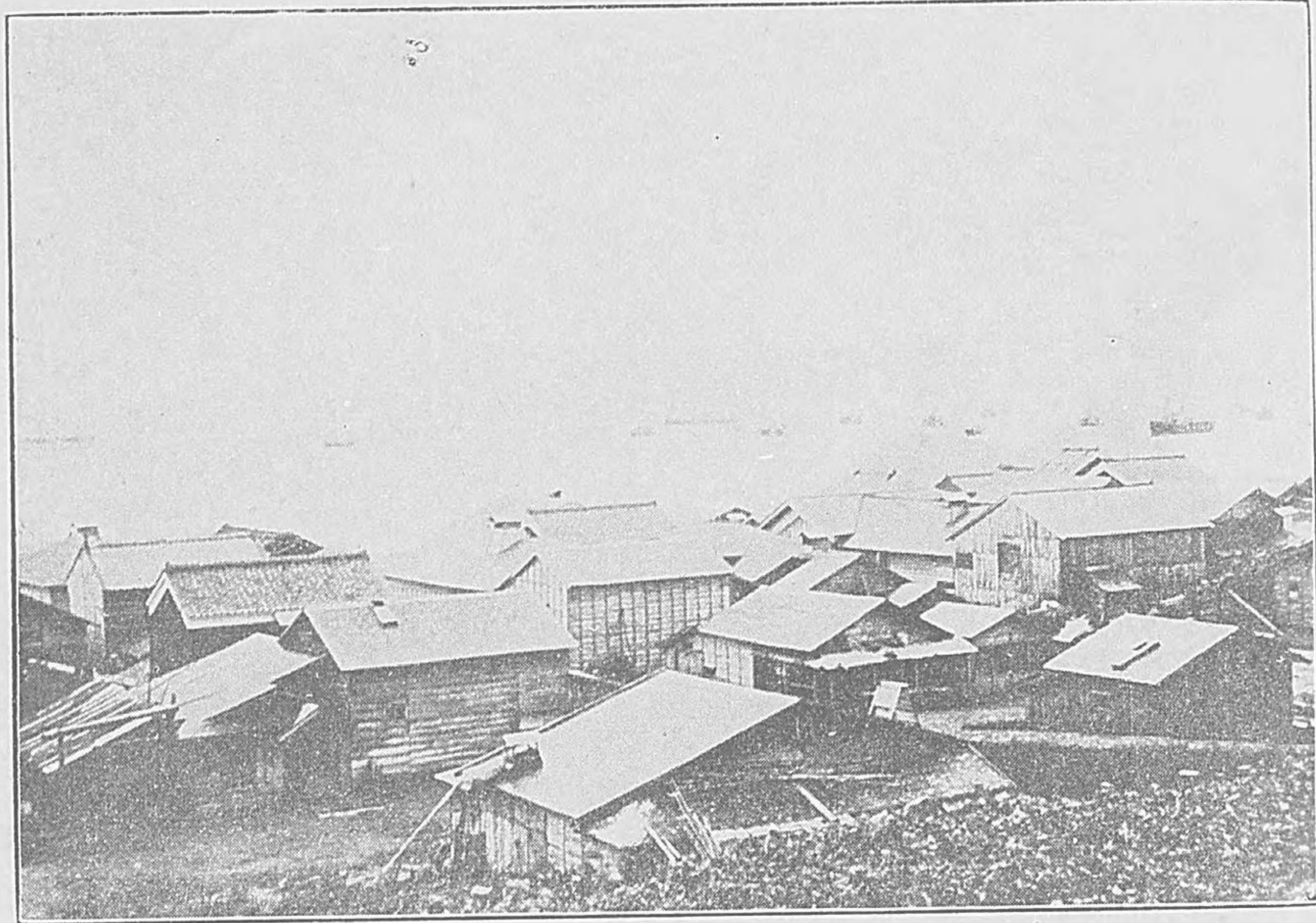
The view of Sai-boi-sugi-iwa (the rocks), Setana.

景之岸海遠久志後 圖八十二第



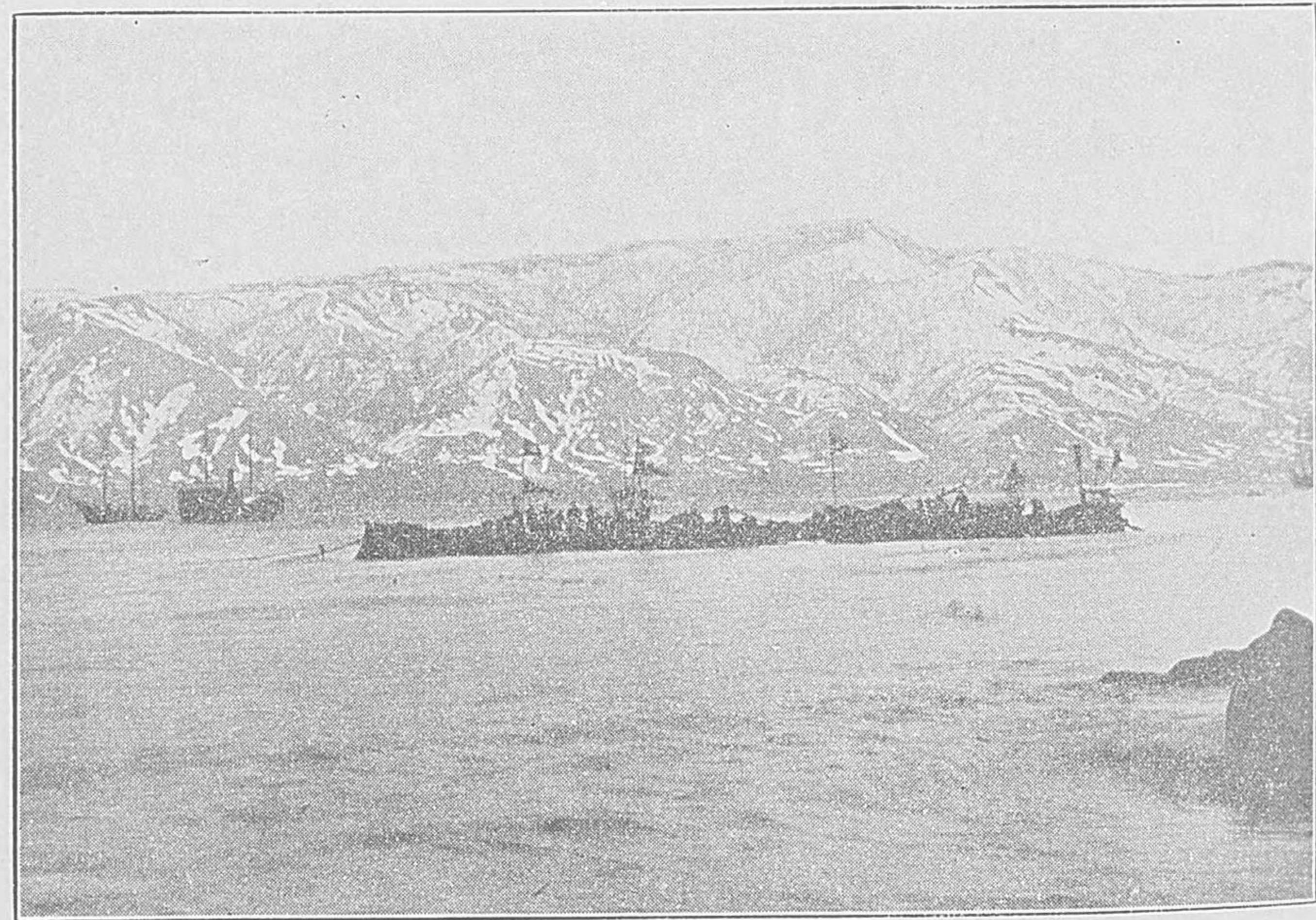
The view of the sea-coasts of Kudō, Shiribeshi.

港 都 壽 圖九十二第



The harbor of Suttu.

む望を嶽狗天棄歌び及船棹錬沖崎岩都壽 圖十三第



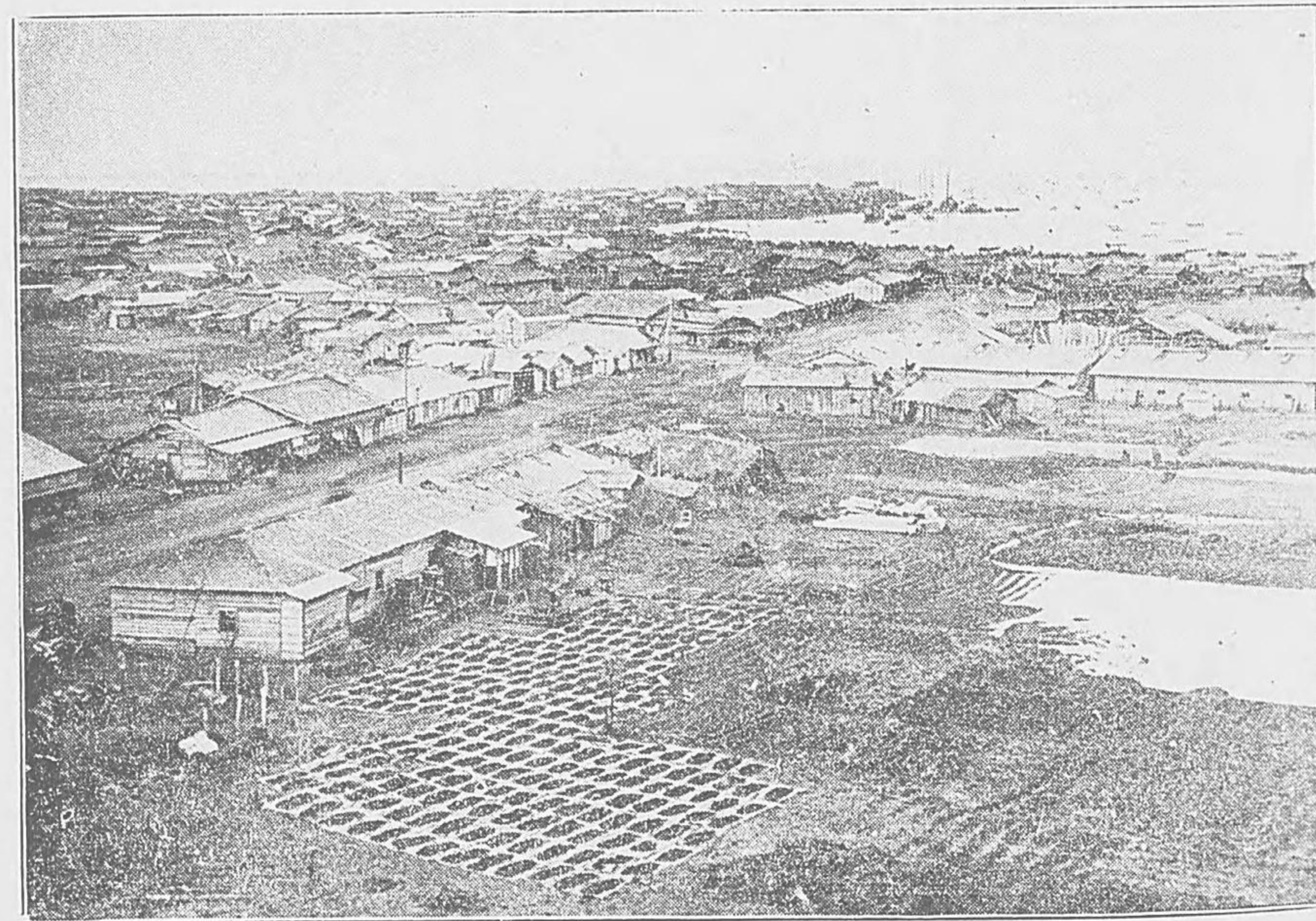
Tengu-yama and the herring fishing boats, viewed from Suttu.

むま山電雷岸海谷磯りよ都壽 圖一十三第



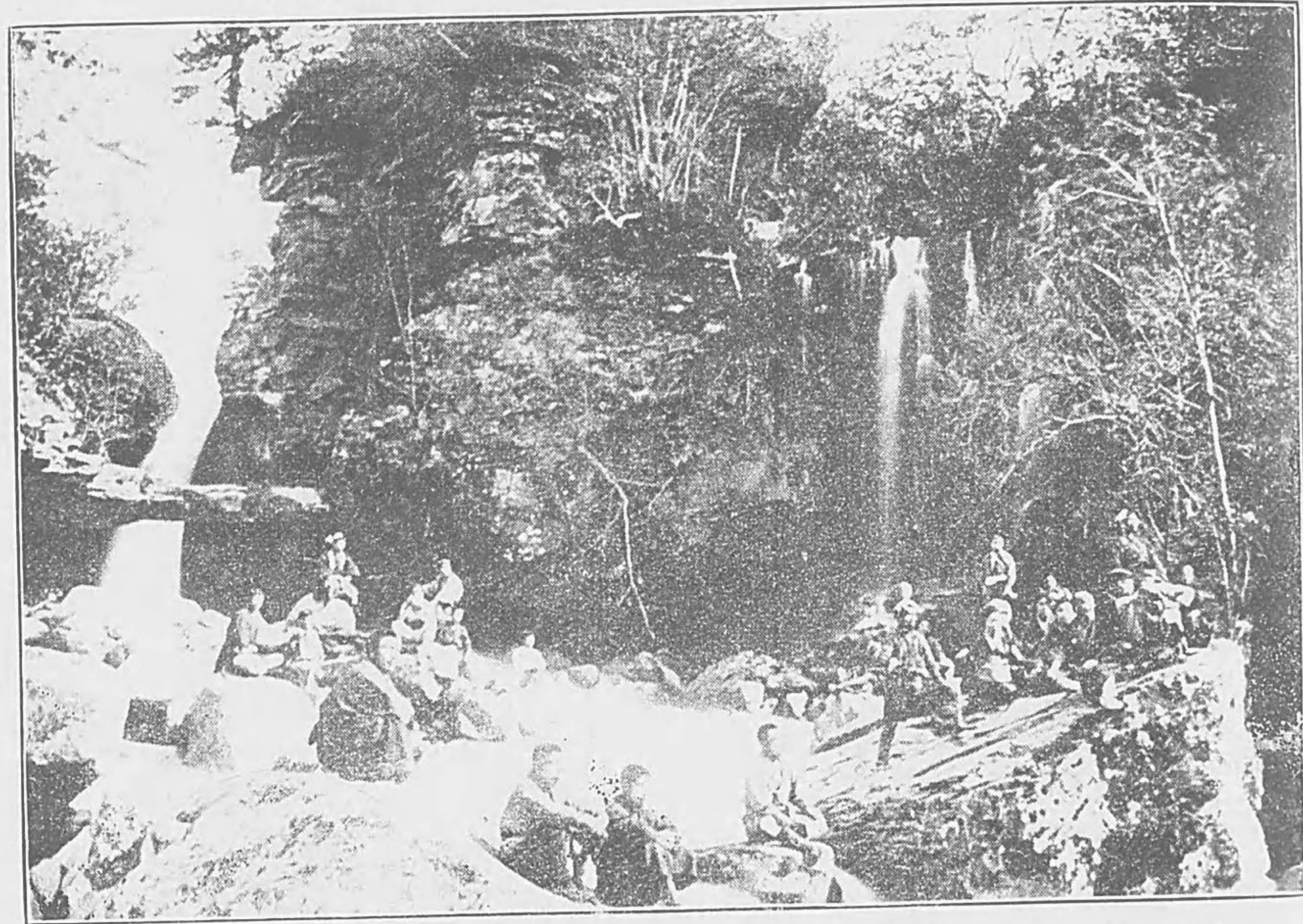
Raiden-yama viewed from Suttsu.

街 市 内 岩 圖二十三第



The town of Iwanai.

瀧神鳴下電雷内岩 圖三十三第



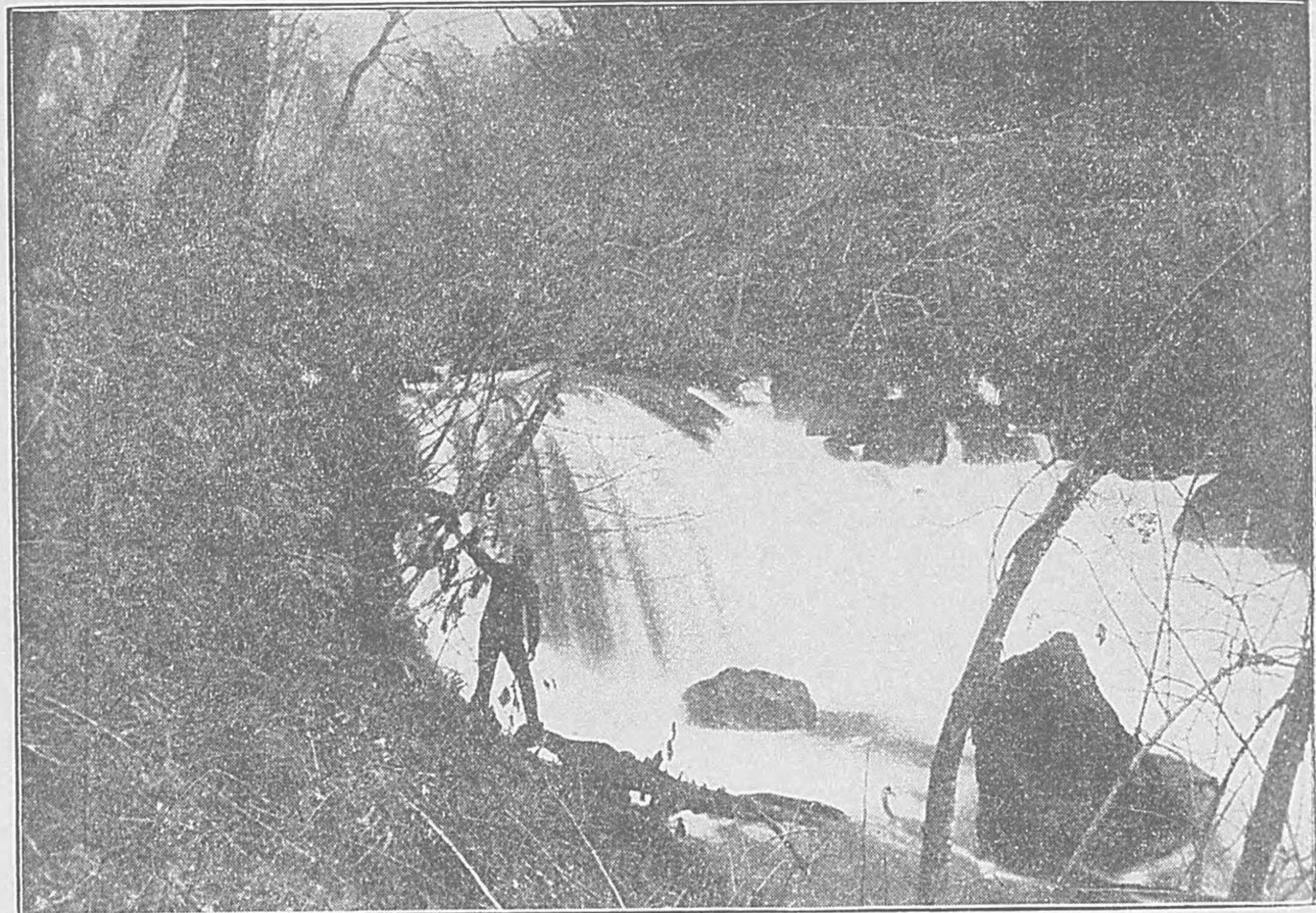
Narukaminotaki (the water fall), at the foot of Raiden-yama Iwanai.

士富夷蝦名一山蹄羊國振膽 圖四十三第



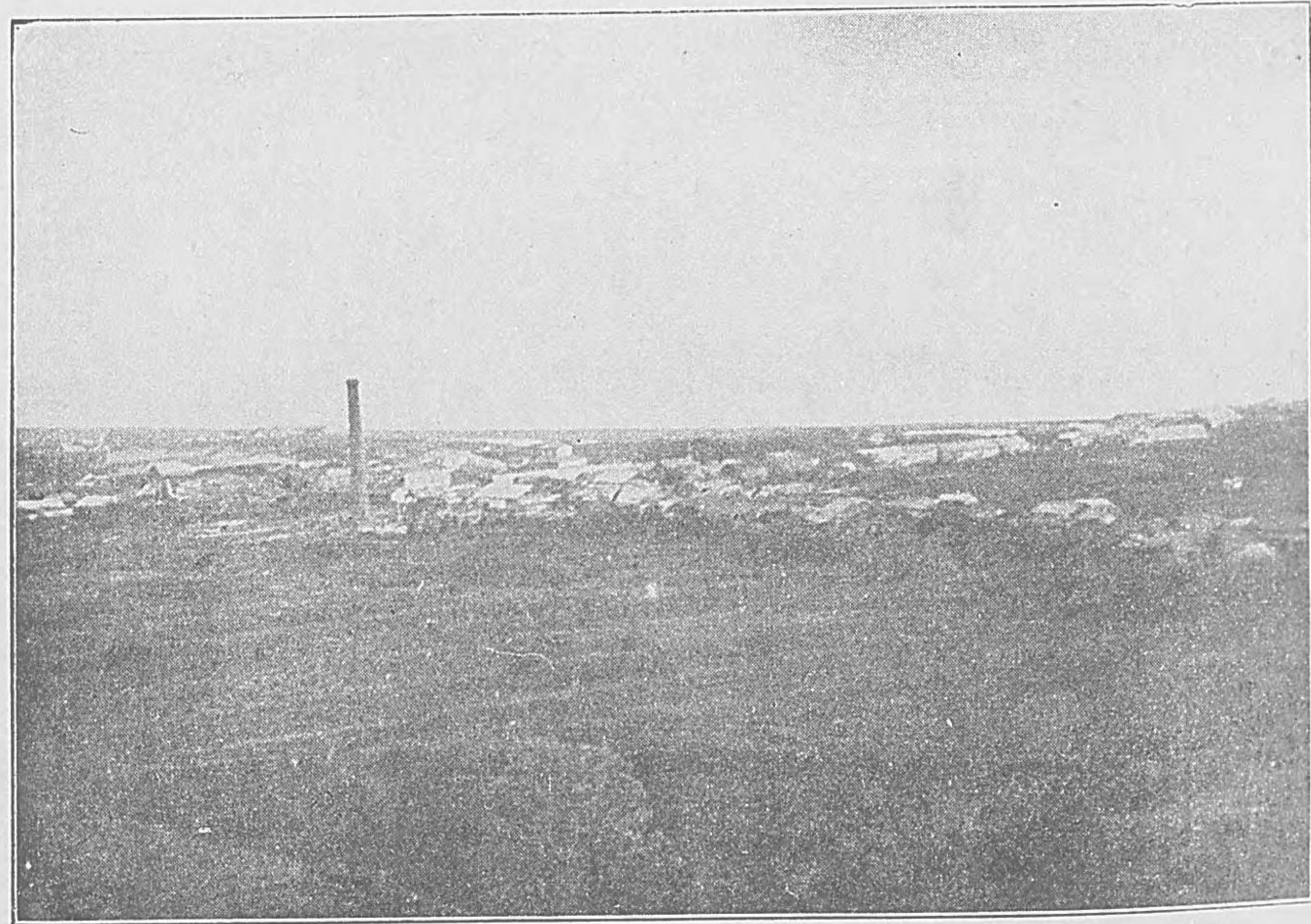
Makkari-nupuri or Ezofuji, Iburi.

景之瀧年千國振膽 圖五十三第



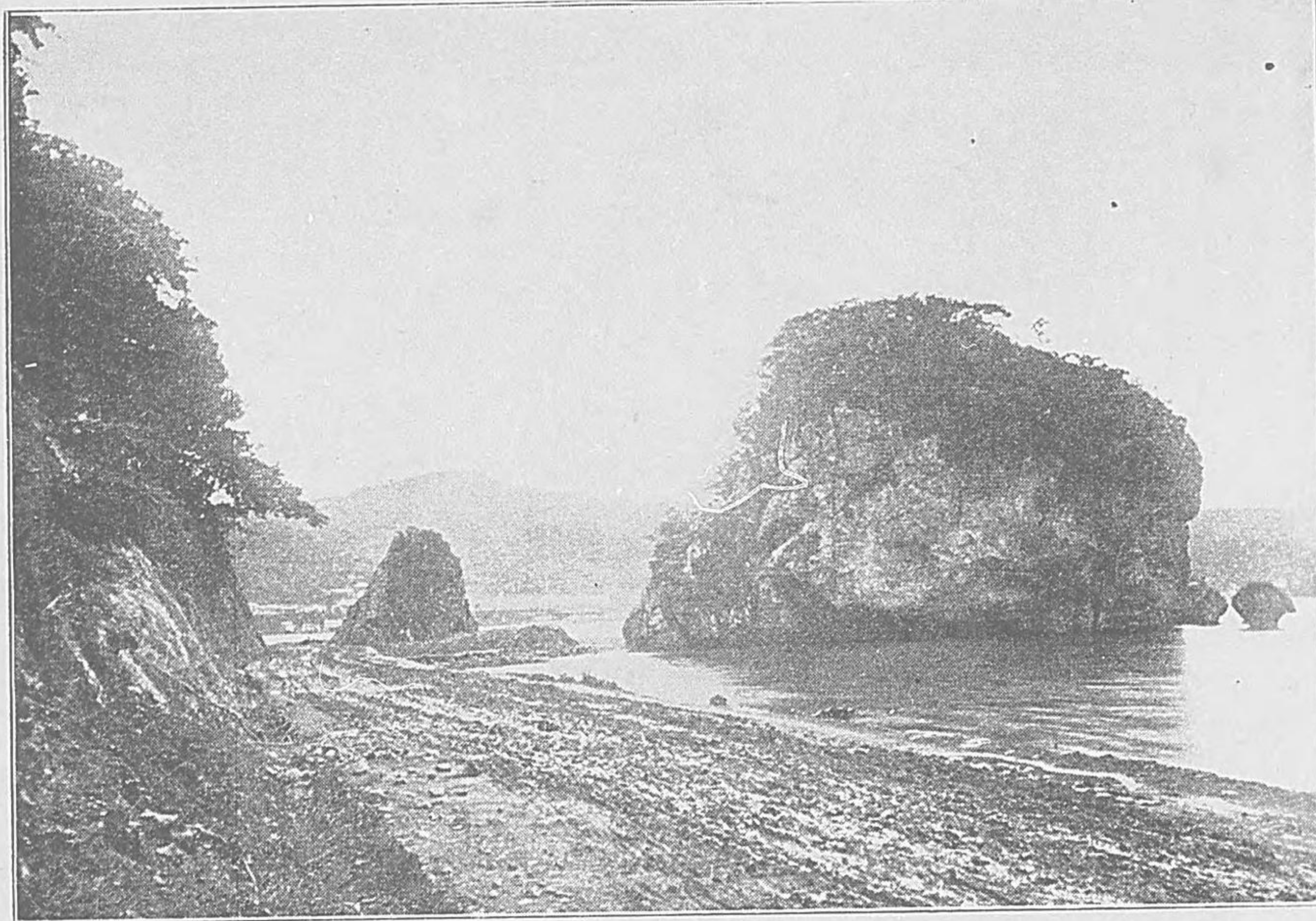
The view of the water fall "Chitose", Iburi.

街市龜紋西國振膽 圖六十三第



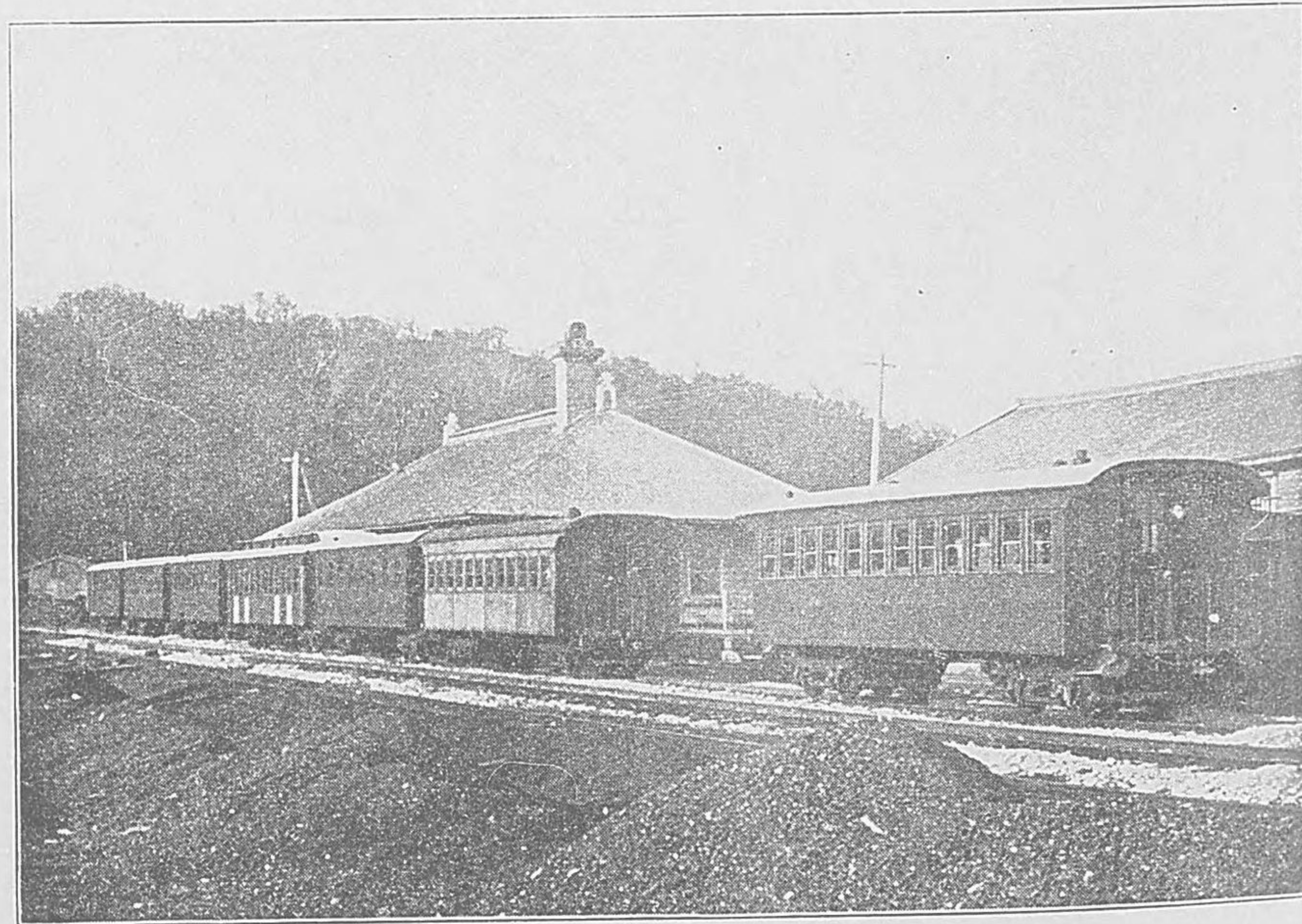
The town of Nishi-Monbetsu, Iburi.

室蘭海港之岸景 第三十七圖



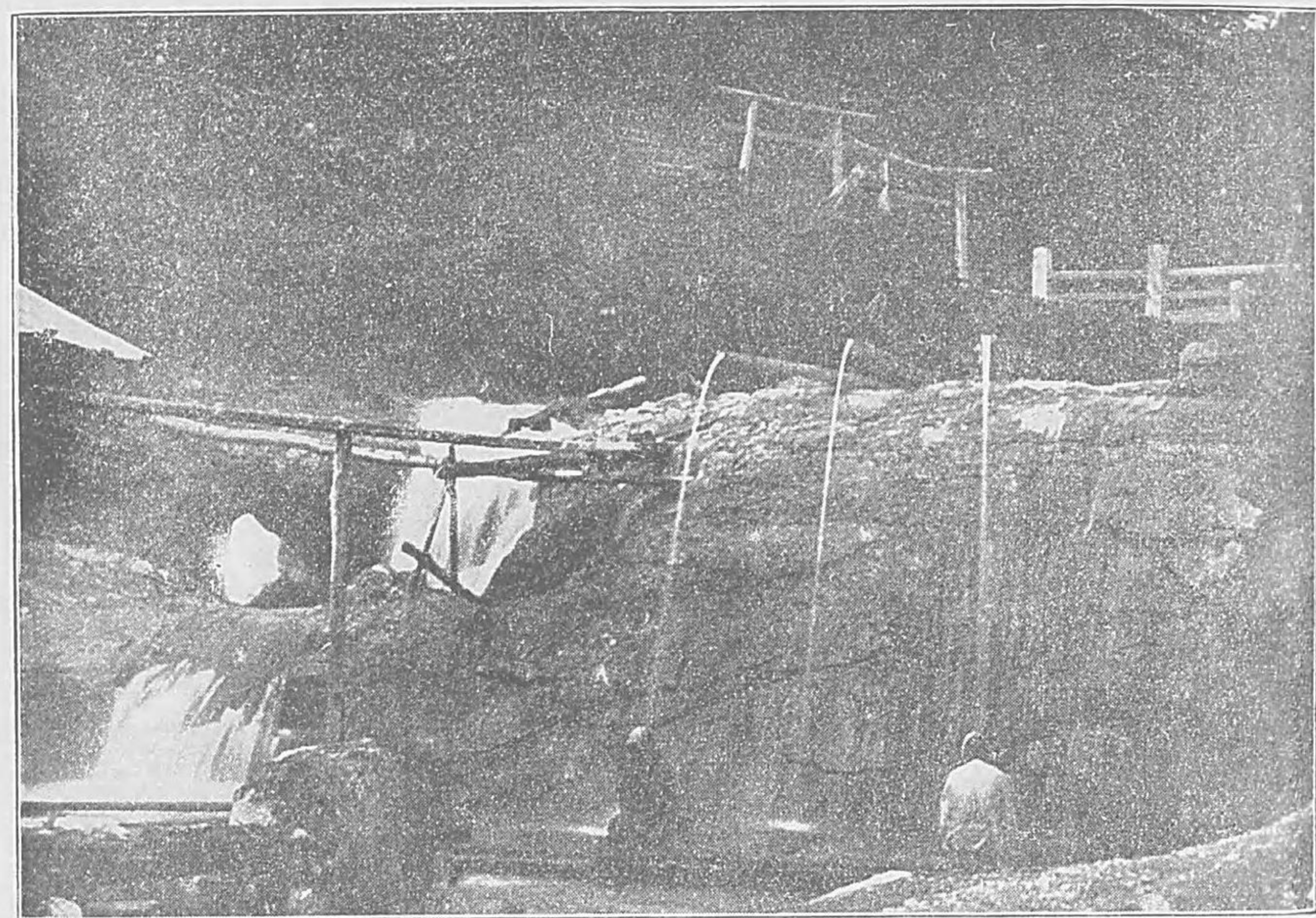
The view of the sea coasts of Muroran harbor.

室蘭港之車站 第三十八圖



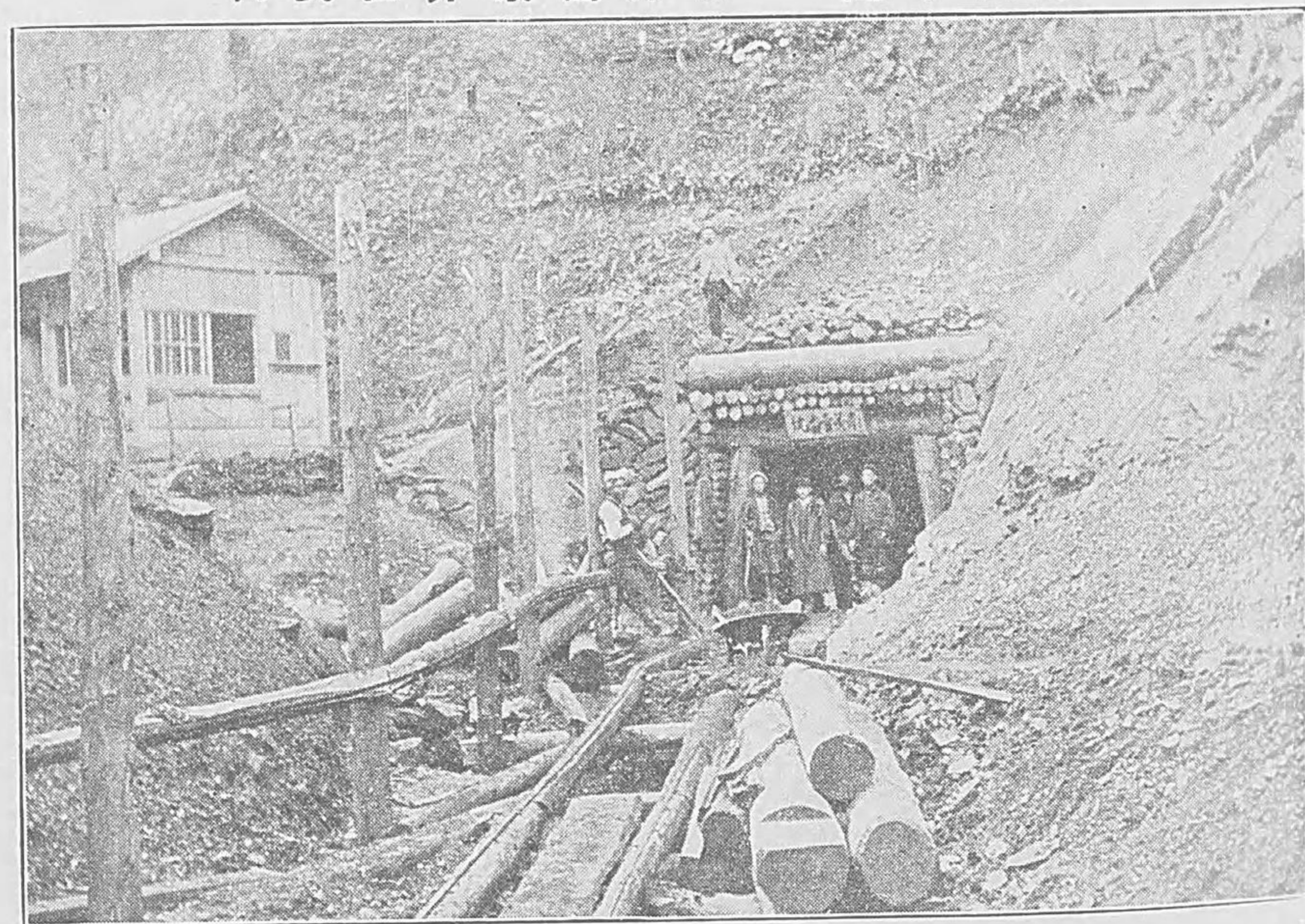
The Railway station of Muroran.

場泉溫之別登國振膽 圖九十三第



The hot spring of Noboribetsu, Iburi.

山炭江井奈國狩石 圖十四第



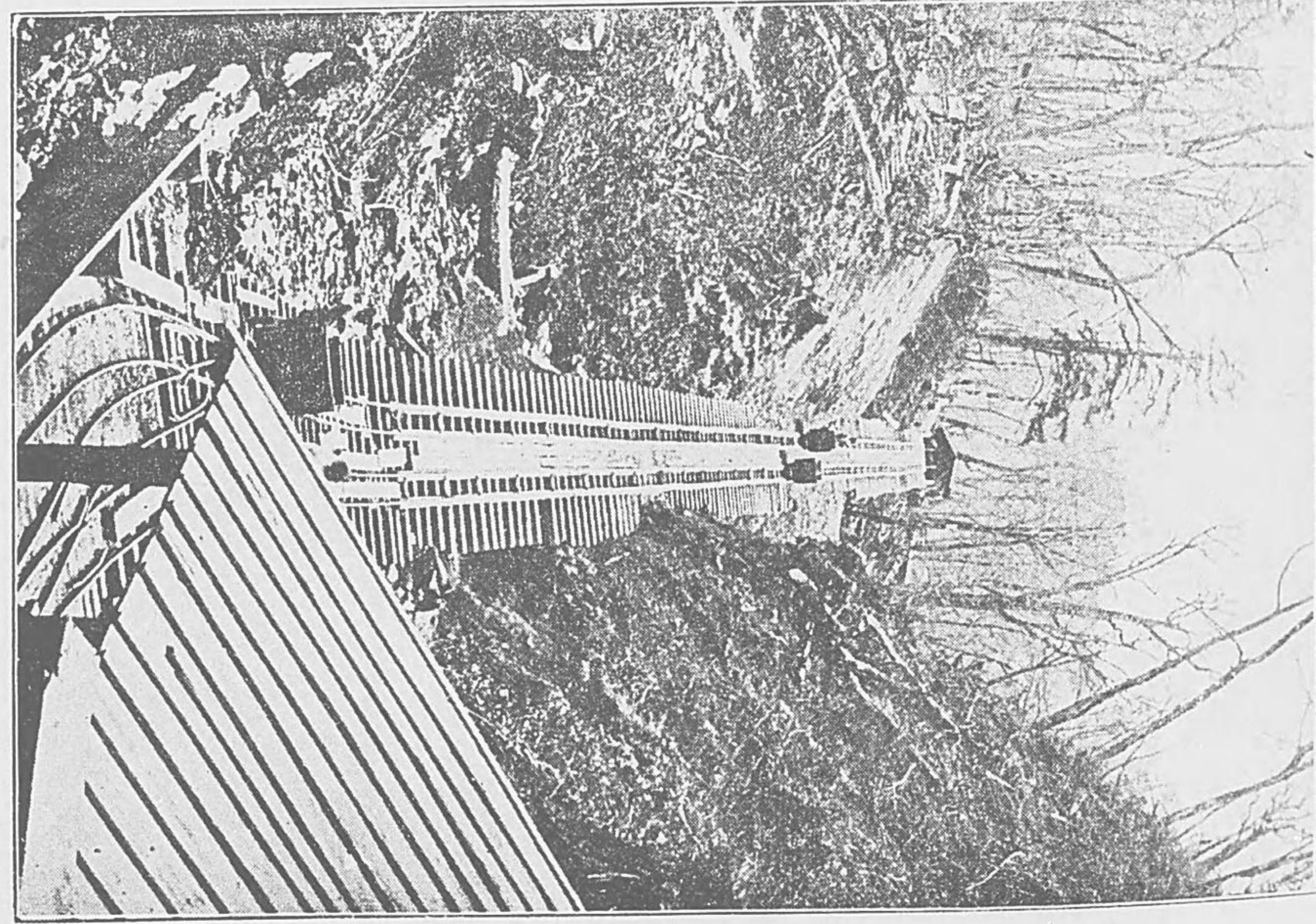
The coal mine of Naie, Ishikari.

橋 太 知 空 國 狩 石 圖 一 十 四 第



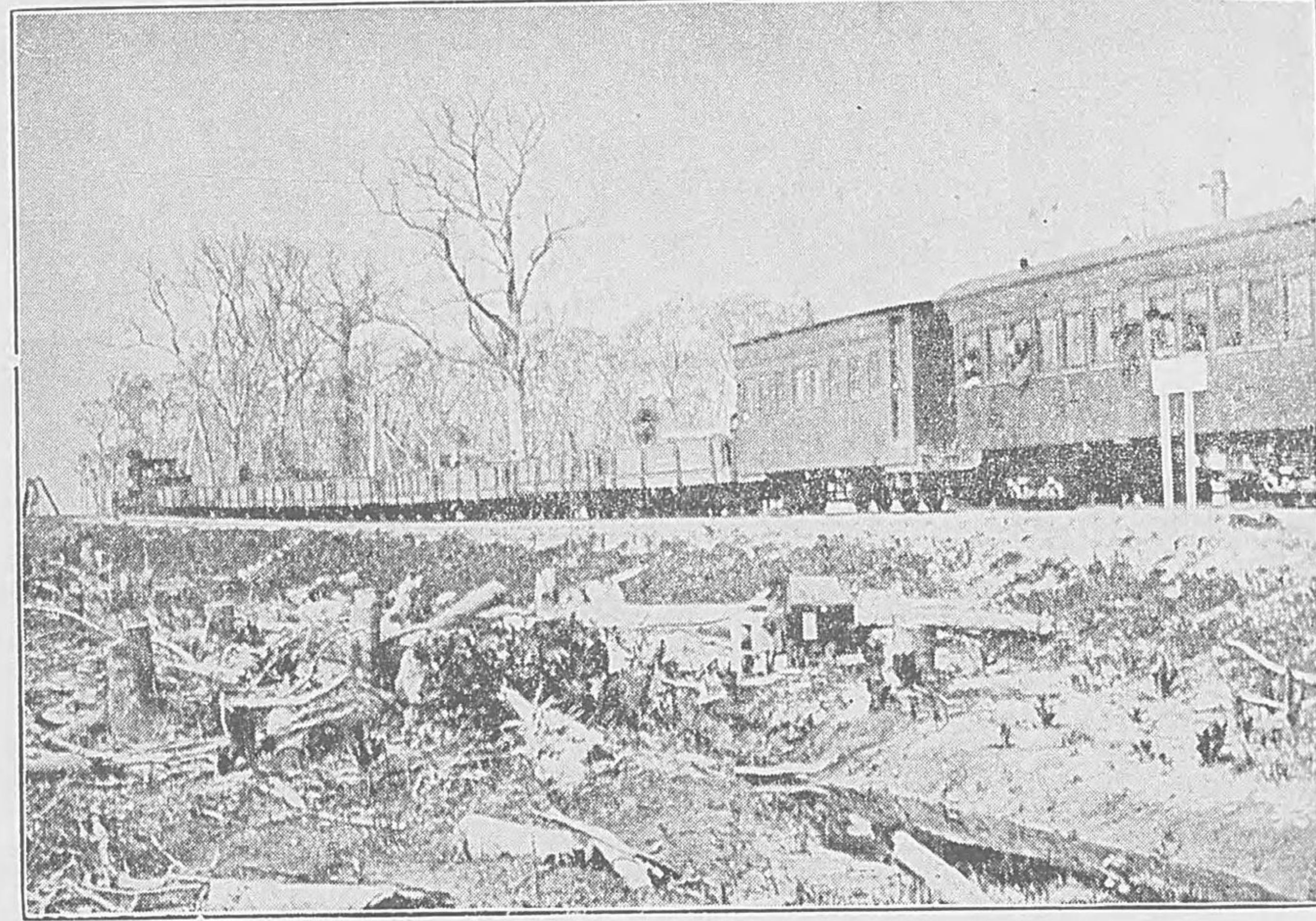
The Sorachuputo bridge, Ishikari.

山 炭 內 幌 狩 石 圖 二 十 四 第



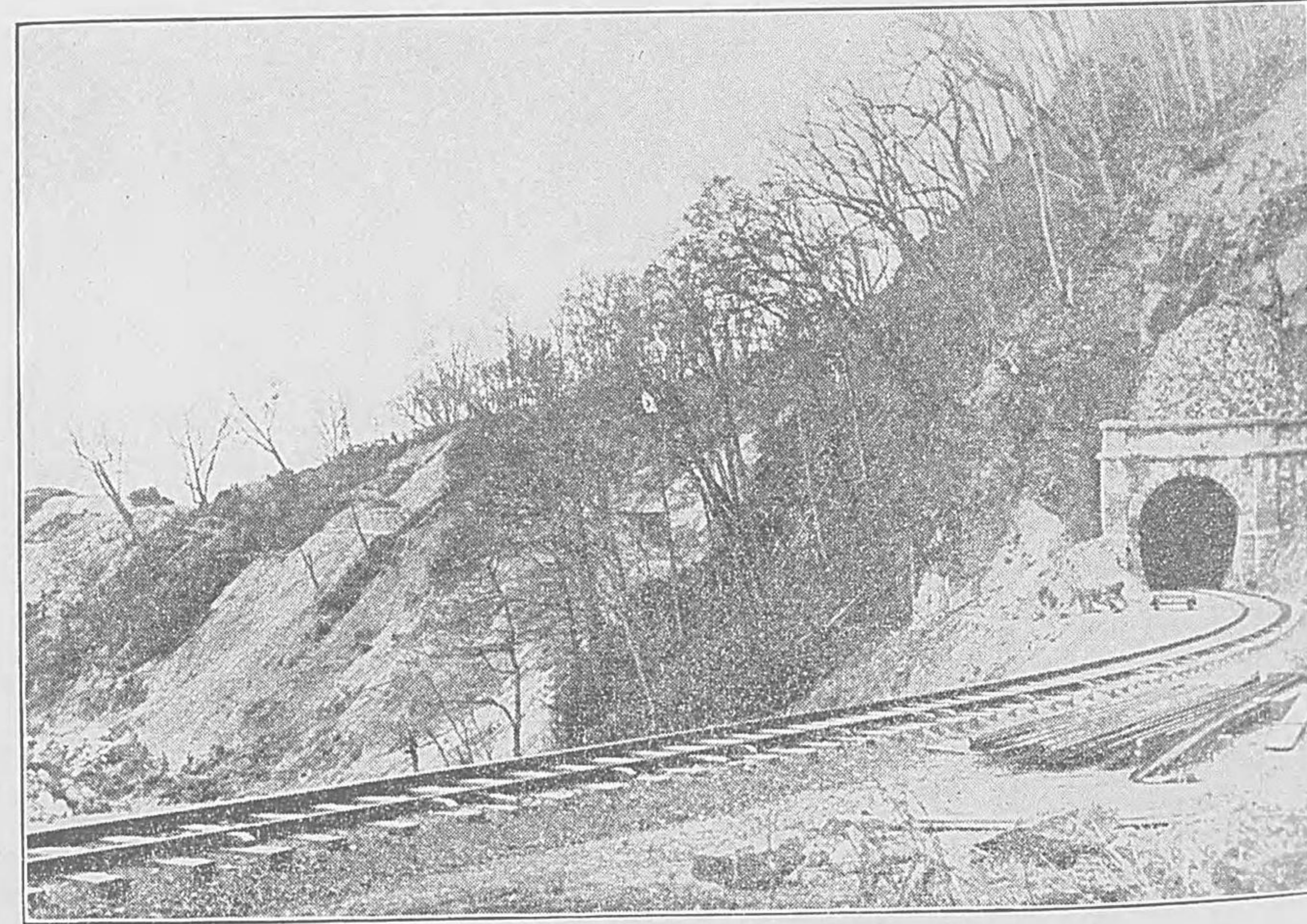
The coal mine of Horonai, Ishikari.

場車停向幌國狩石 圖三十四第



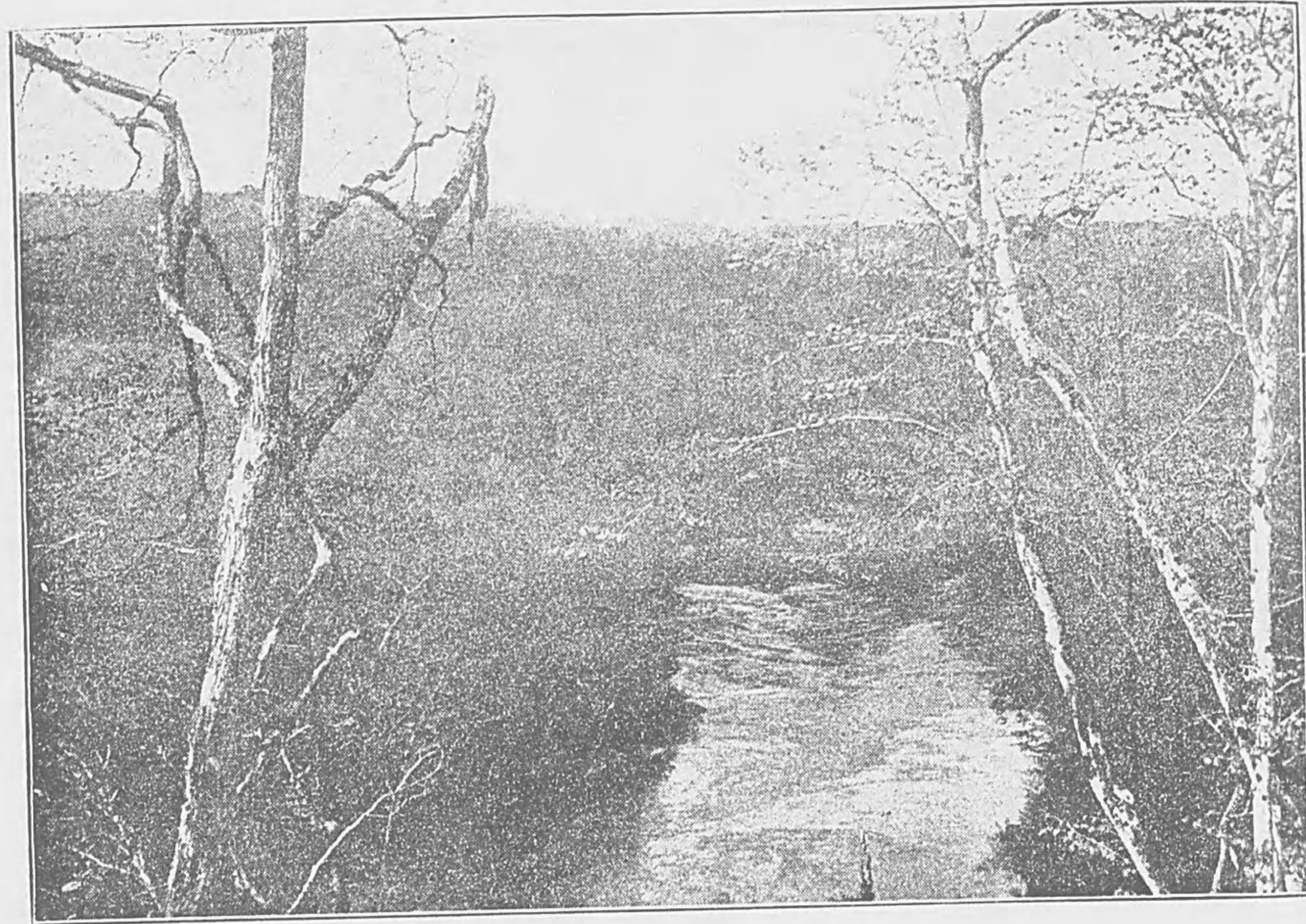
The Railway station of Horomui, Ishikari.

道墜之潭古威神國狩石 圖四十四第



The Tunnel of Kamoikotan, Ishikari.

石狩國モカコイタ 圖五十四第



Kamoikotan, Ishikari.

神威古潭石狩川沿岸之景 圖六十四第



The view of the bank of the Ishikari river.

文 近 川 旭 郡 川 上 圖 七 十 四 第



Chikafumi, Asahigawa, Kamikawa district.

營 兵 之 隊 聯 七 廿 第 團 師 七 第 川 旭 圖 八 十 四 第



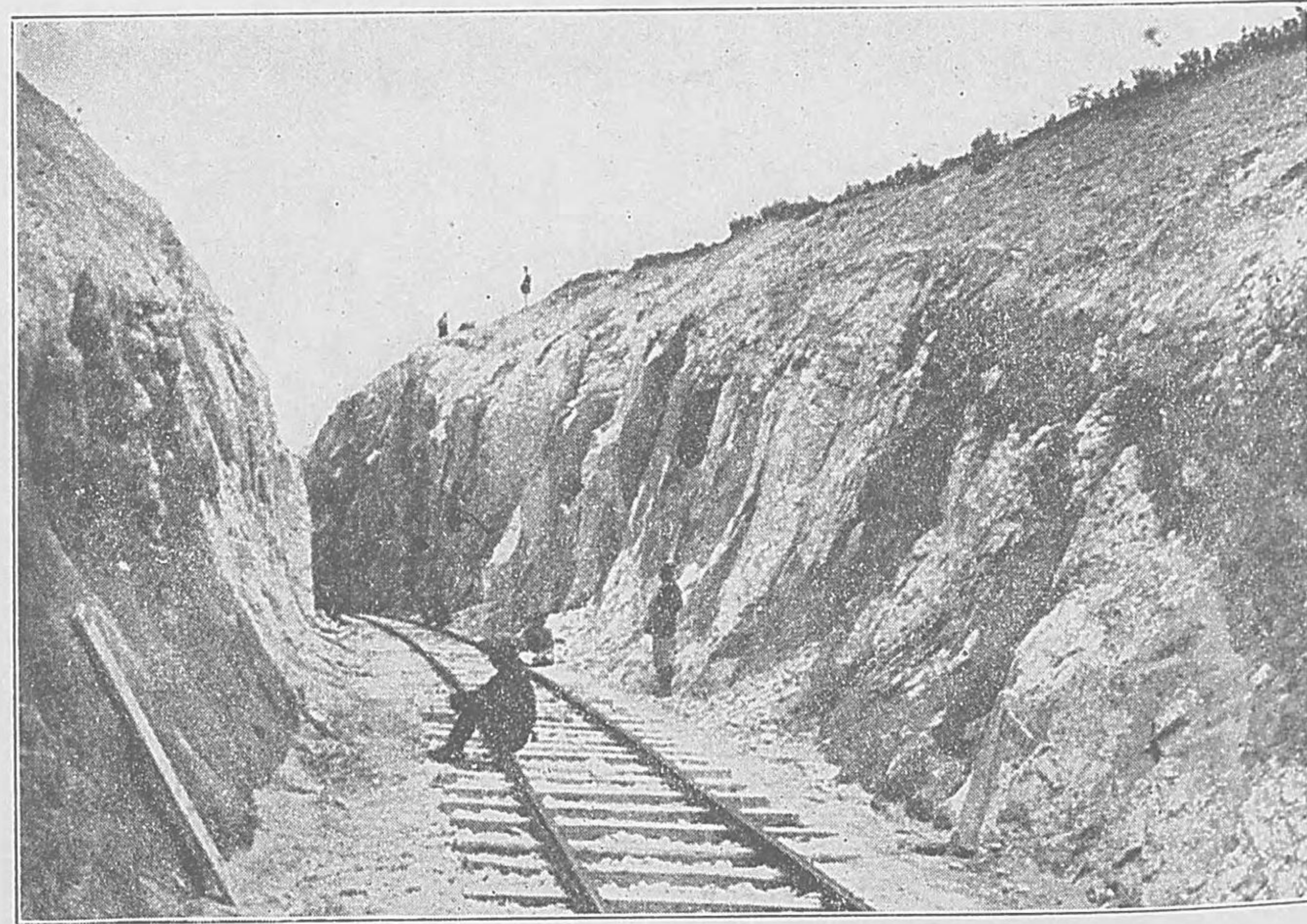
The Barracks at Asahigawa, the 27th Regiment, the 7th Division.

所軸製森川旭 圖九十四第



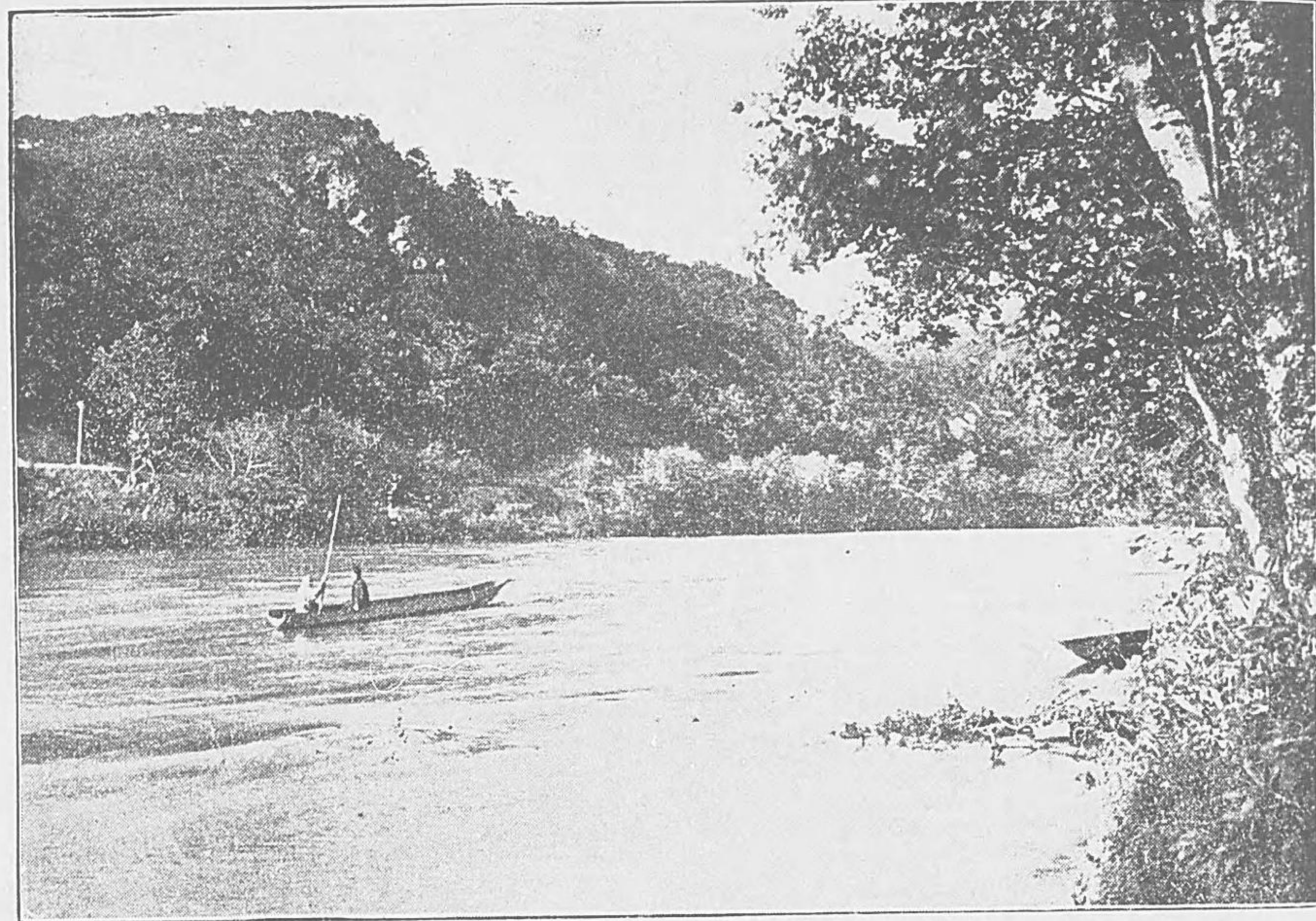
Mori's Splint manufactory, Asahigawa.

割堀之瑛美線勝十 圖十五第



The Rocky Entrance of Biei, Tokachi line (the rail way).

場船渡之川狩石上 圖一十五第



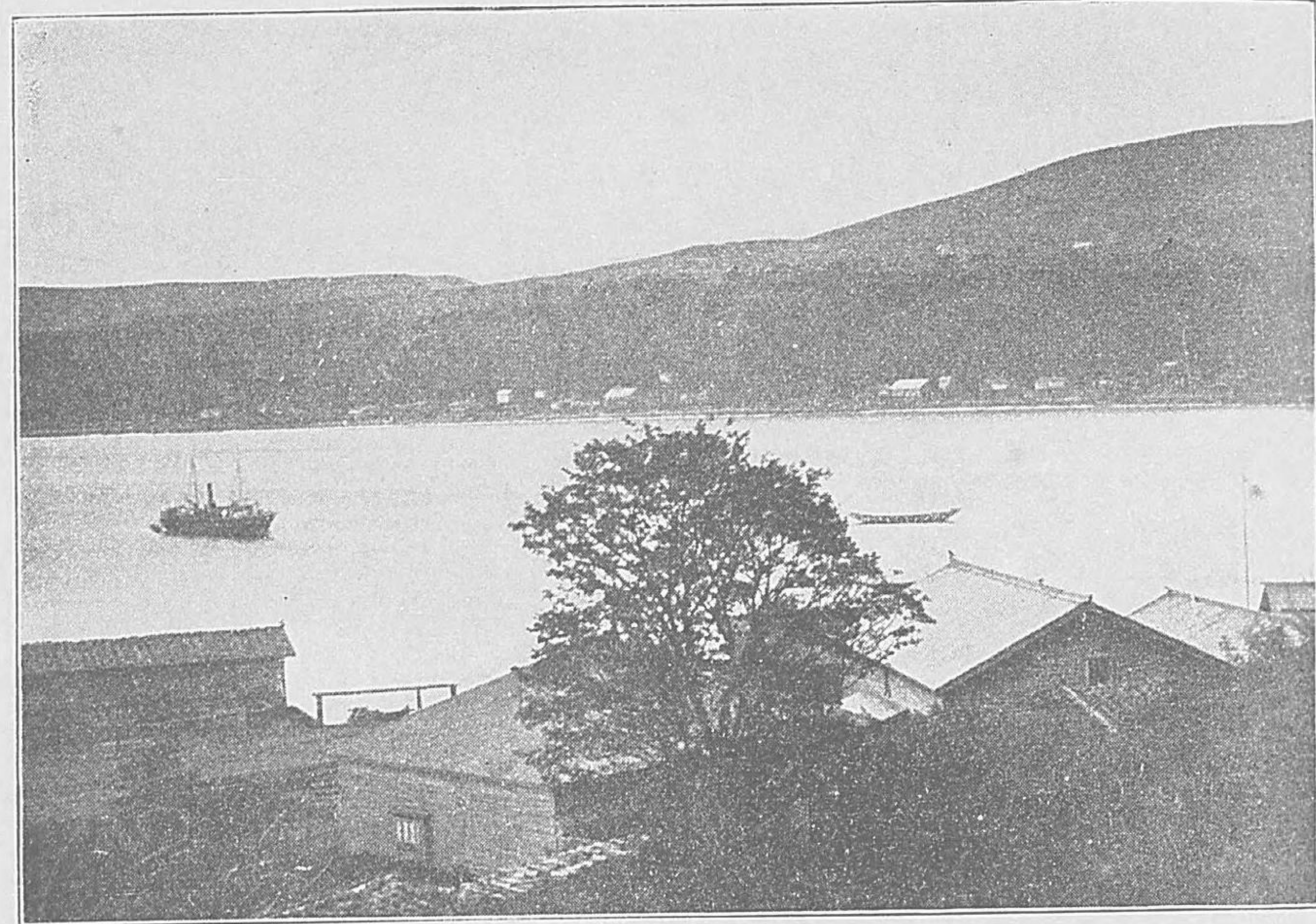
The ferry of the Ishikari river.

戶樺國狩石下 圖二十五第



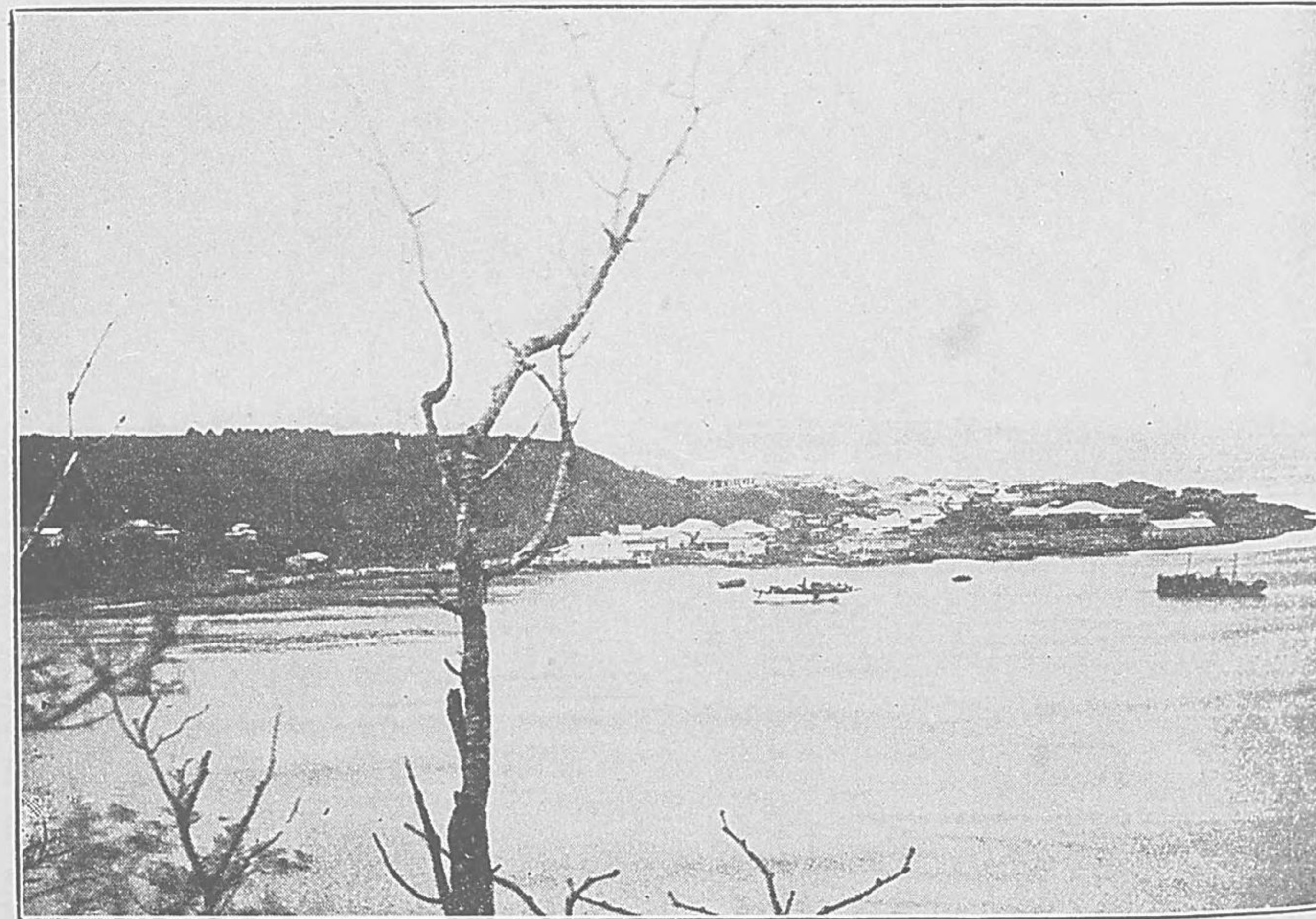
The town of Kabato, Ishikari.

灣毛增國鹽天 圖三十五第



Mashike harbor, Teshio.

港毛增國鹽天 圖四十五第

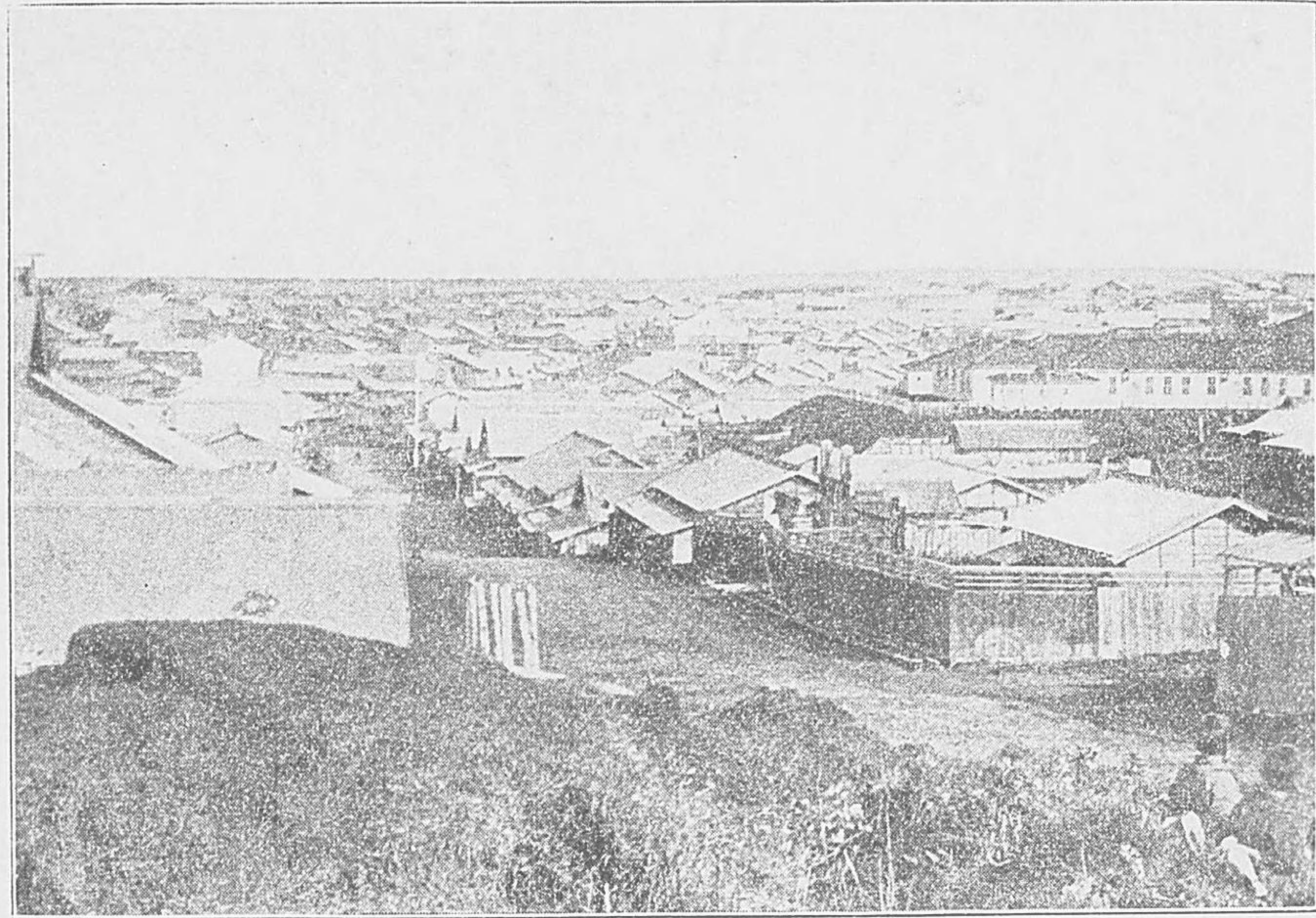


The bay of Mashike, Teshio.

鹽天國增毛灣 圖三十五第

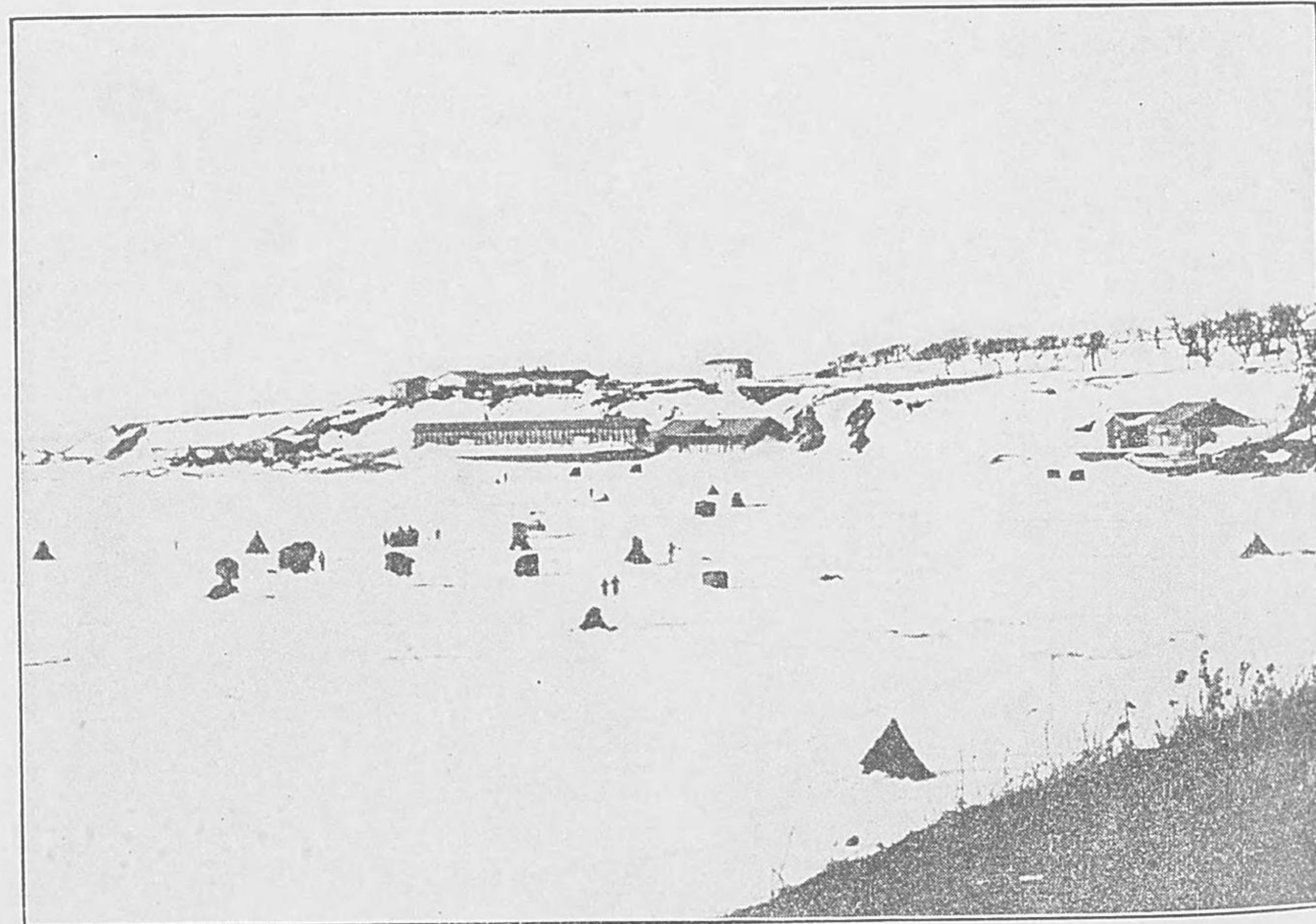
鹽天國增毛港 圖四十五第

街 市 室 根 圖 五 十 五 第



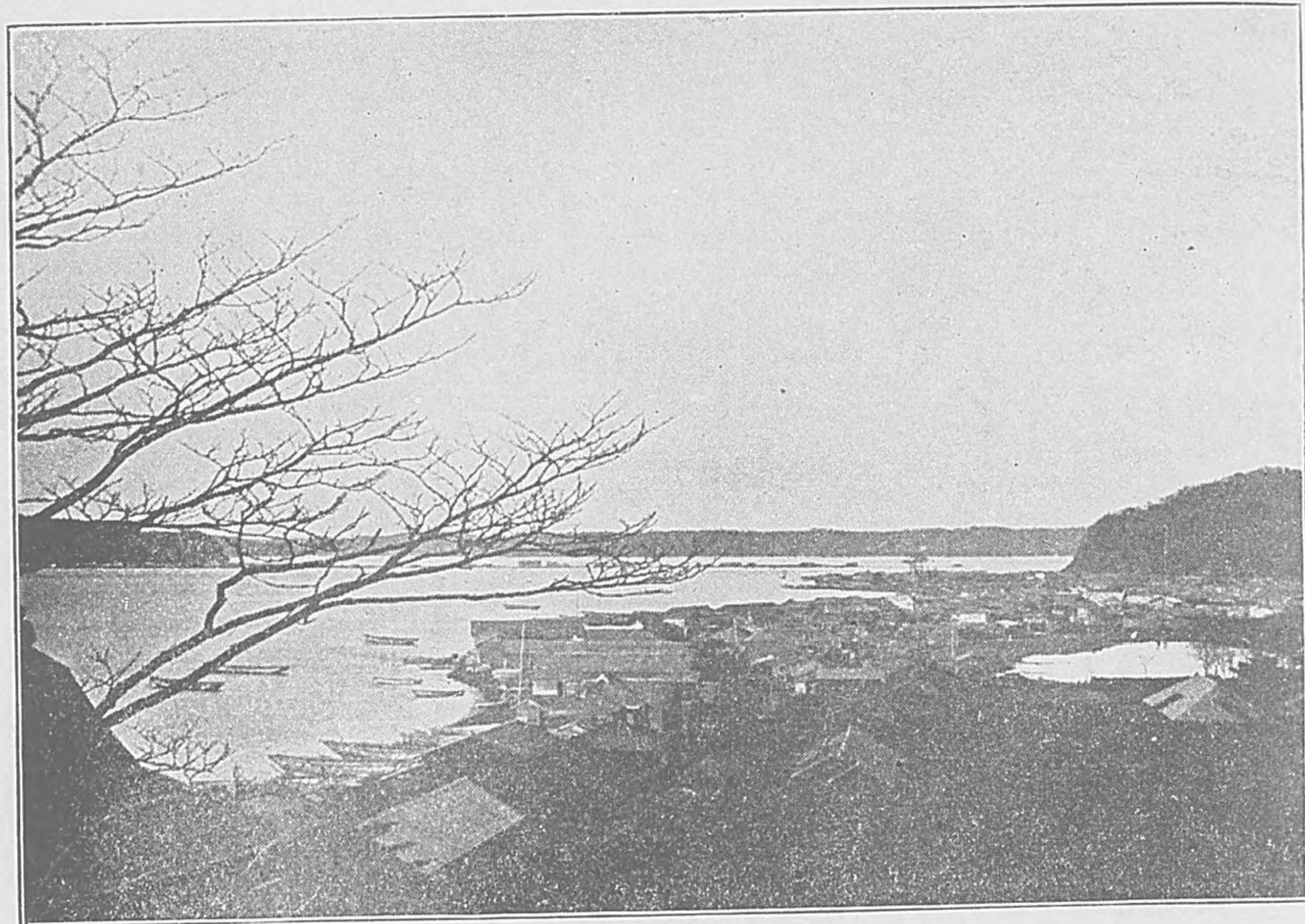
The town of Nemuro.

釣 イ マ コ 上 氷 内 灣 室 根 圖 六 十 五 第



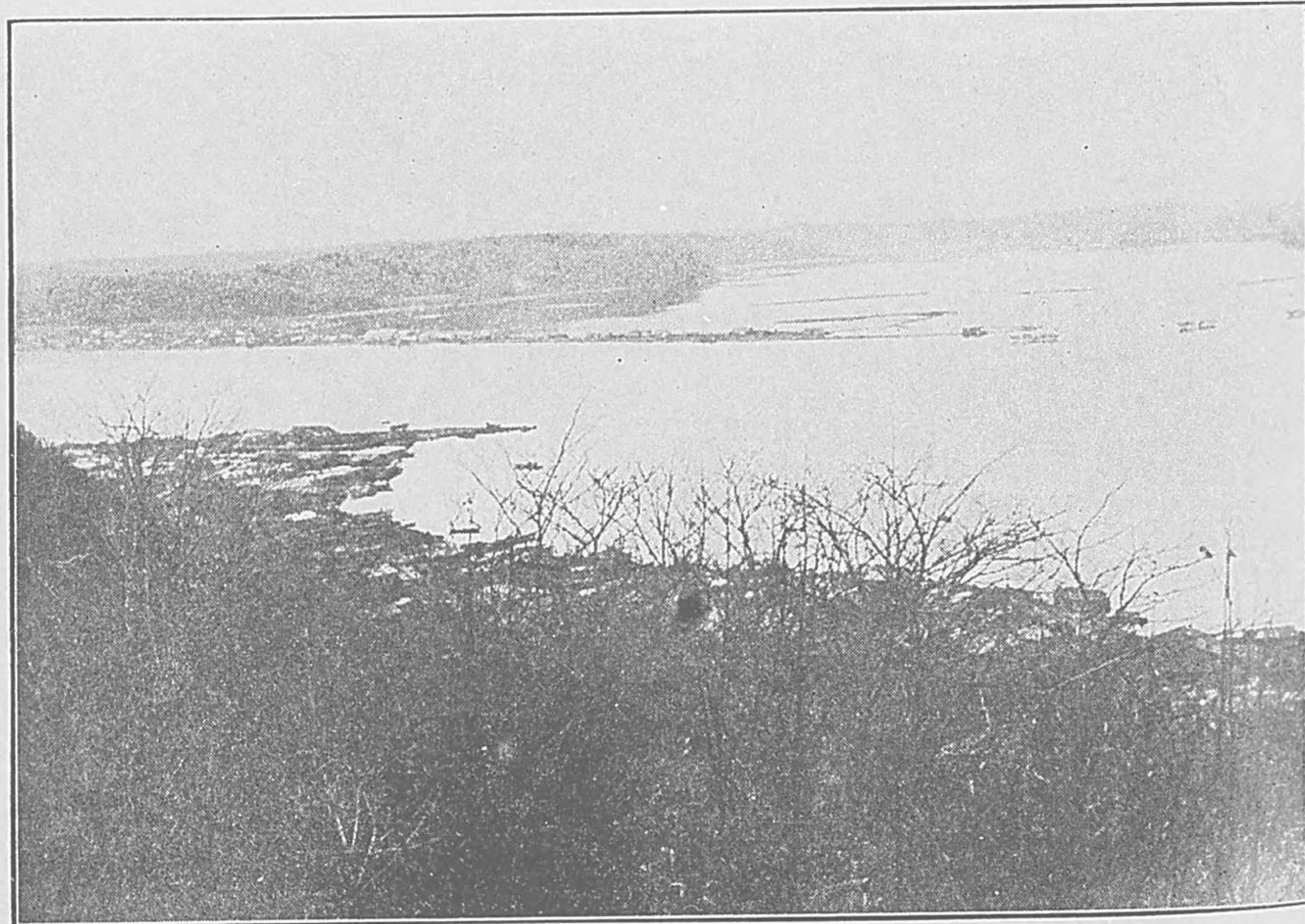
The "komai fishing" over the frozen bay of Nemuro.

街市之港岸厚 圖七十五第



The town of Akkeshi.

景の島蠣岸厚 圖八十五第



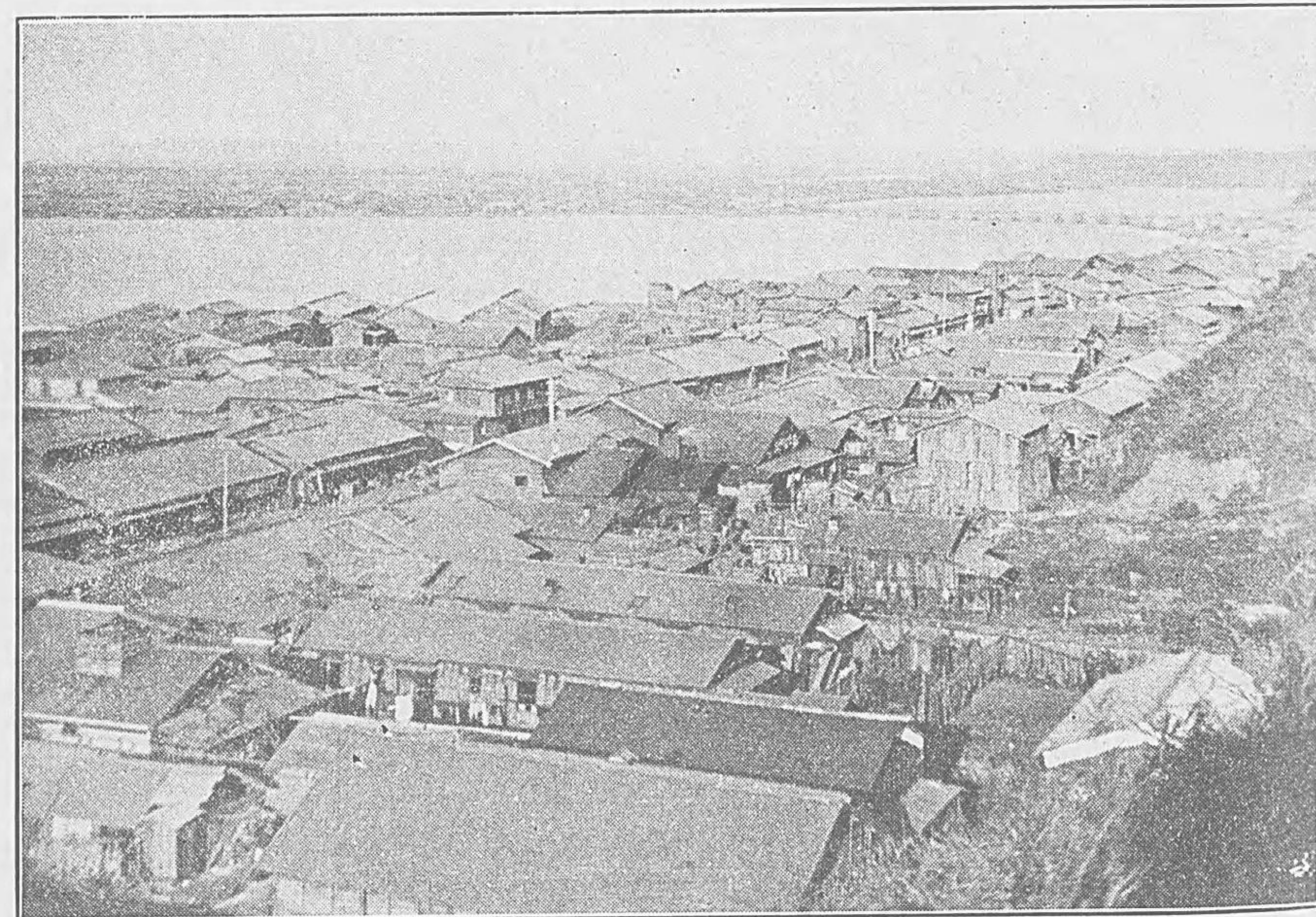
The view of "Kaki-shima" (the isle), Akkeshi.

寺 泰 國 岸 厚 圖 九 十 五 第



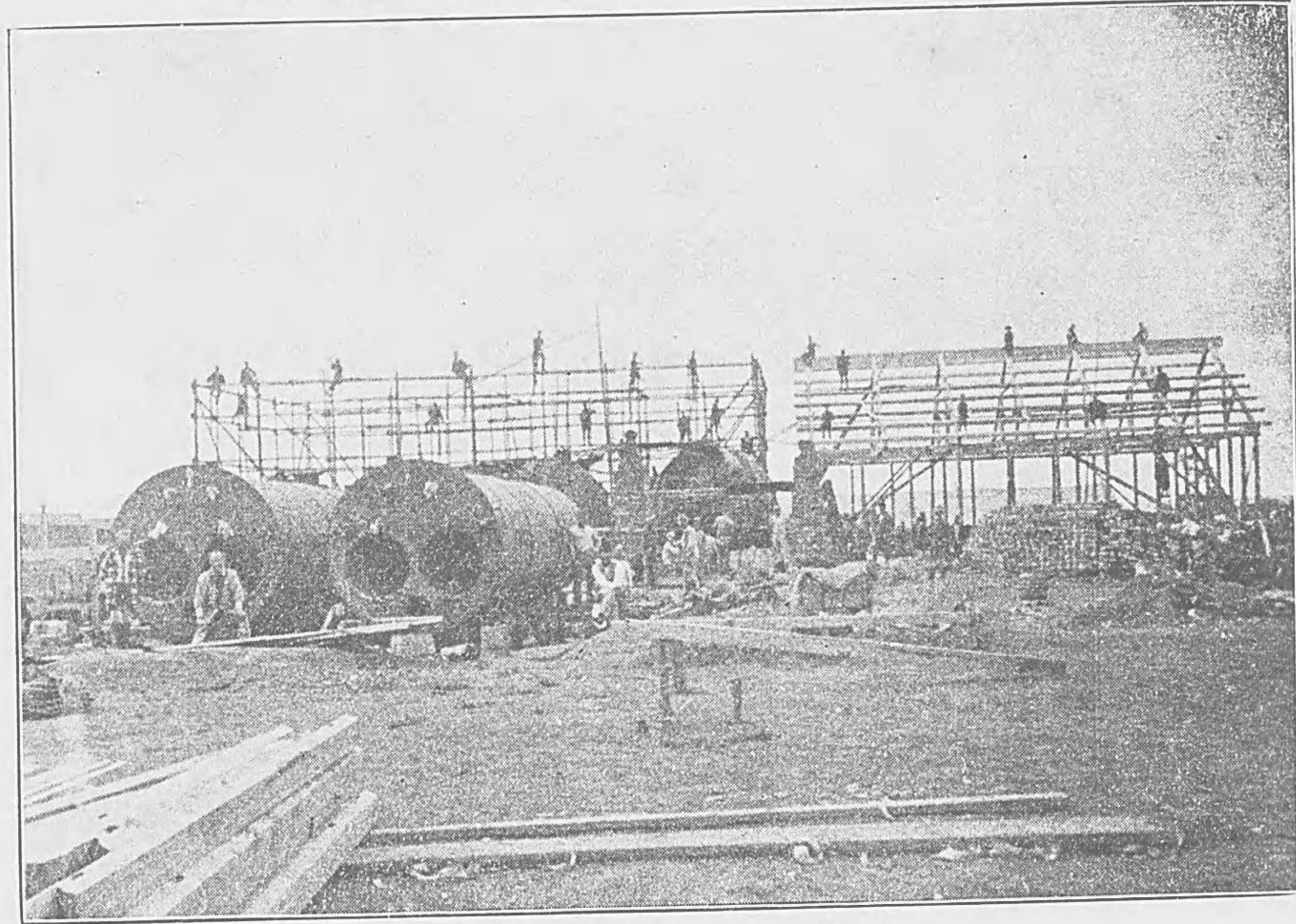
Kokutai-ji (the buddhist temple), Akkeshi.

街 市 路 釧 圖 十 六 第



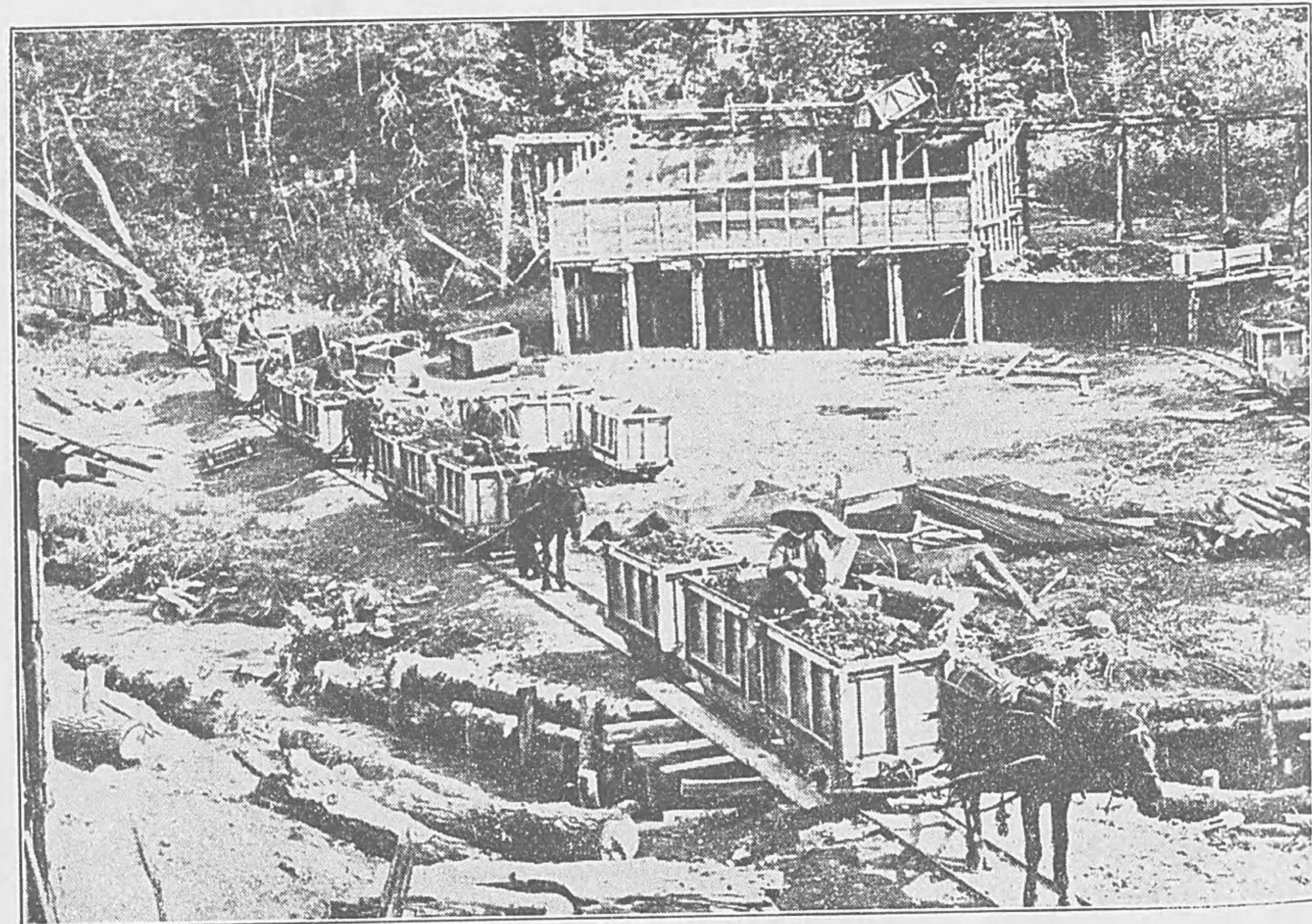
The town of Kushiro.

場紙製路釧 圖一十六第



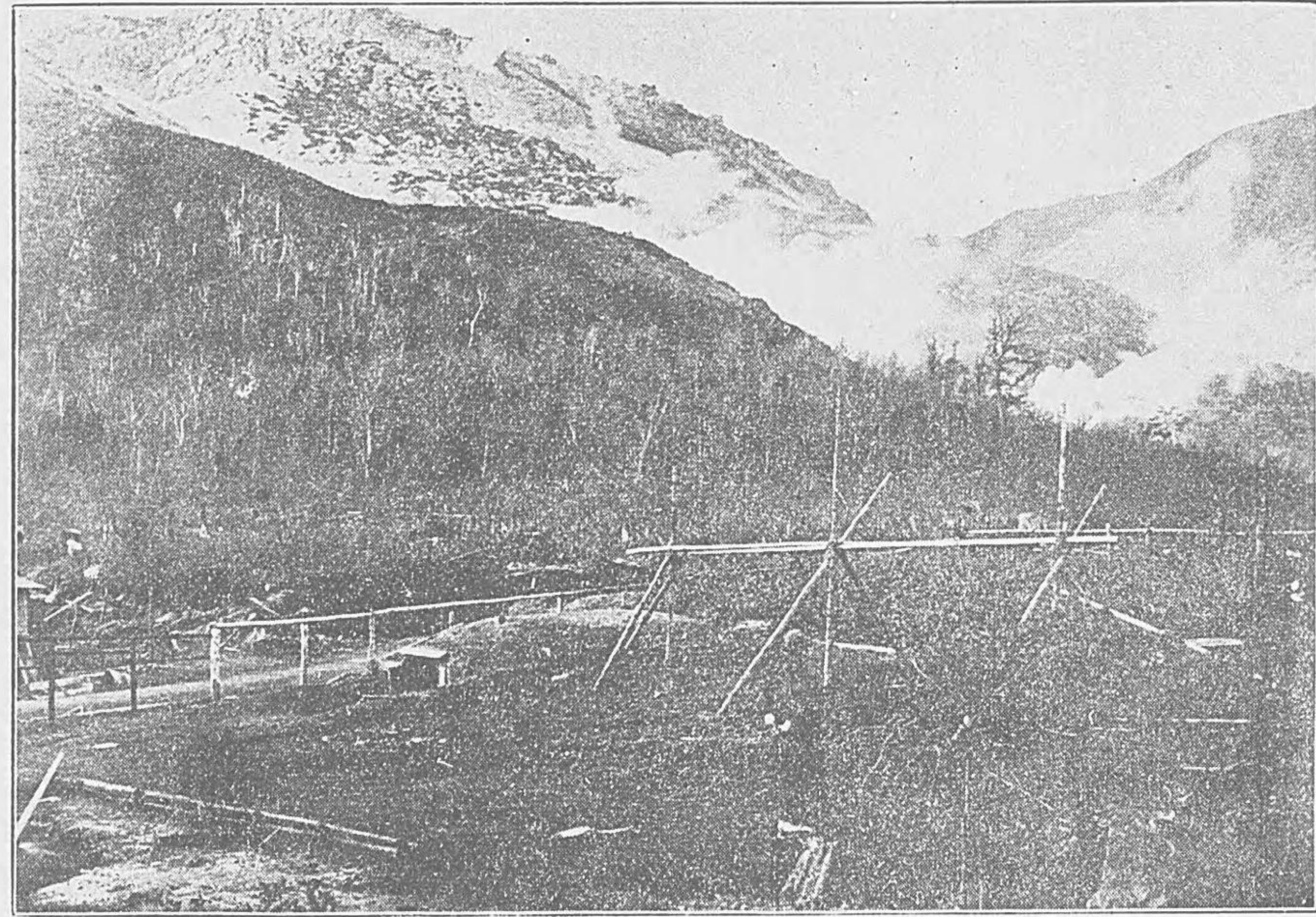
The Kushiro paper manufactory.

山炭保別路釧 圖二十六第



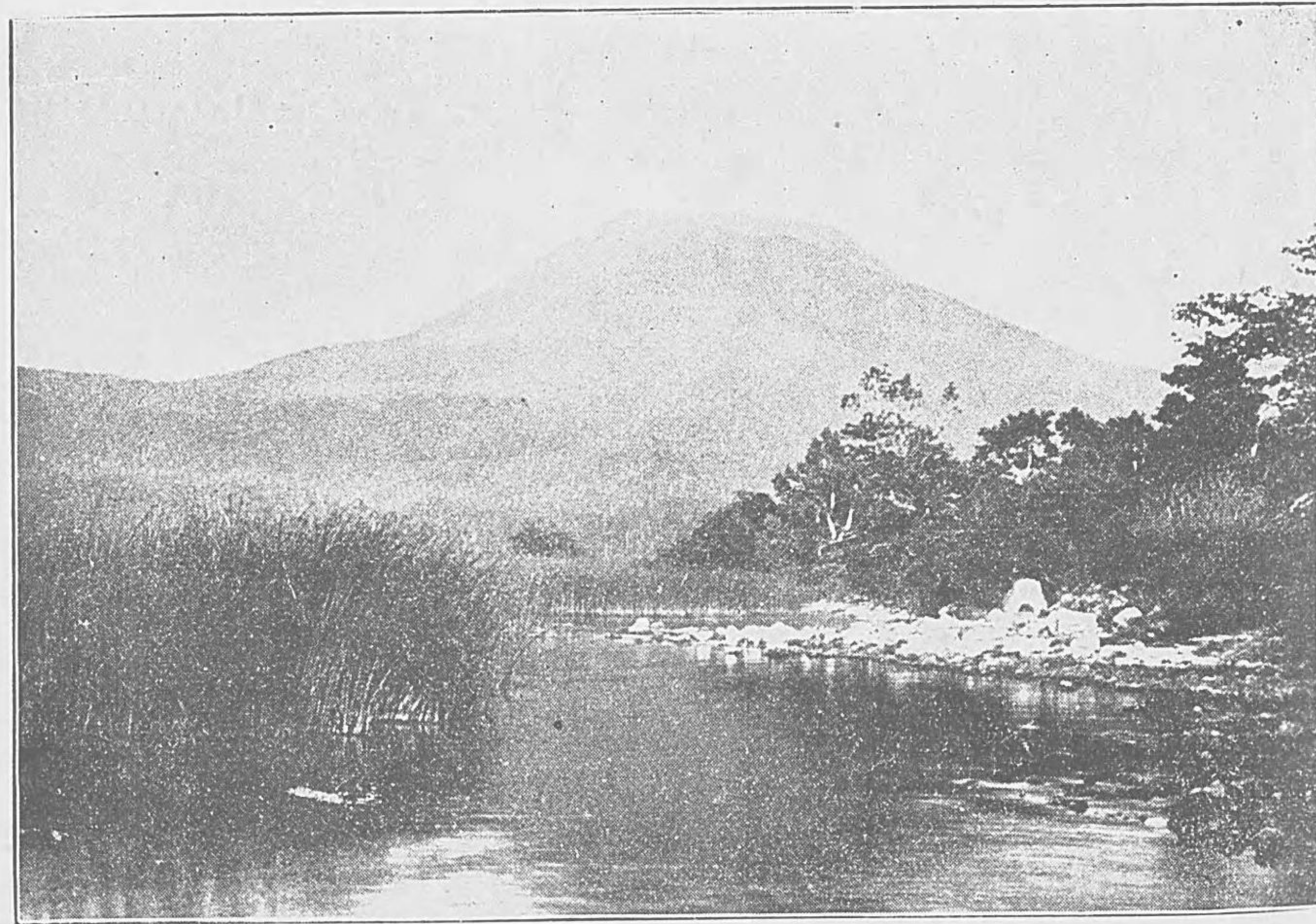
The coal mine of Betsuho, Kushiro.

茶 標 國 路 釧 圖 三 十 六 第



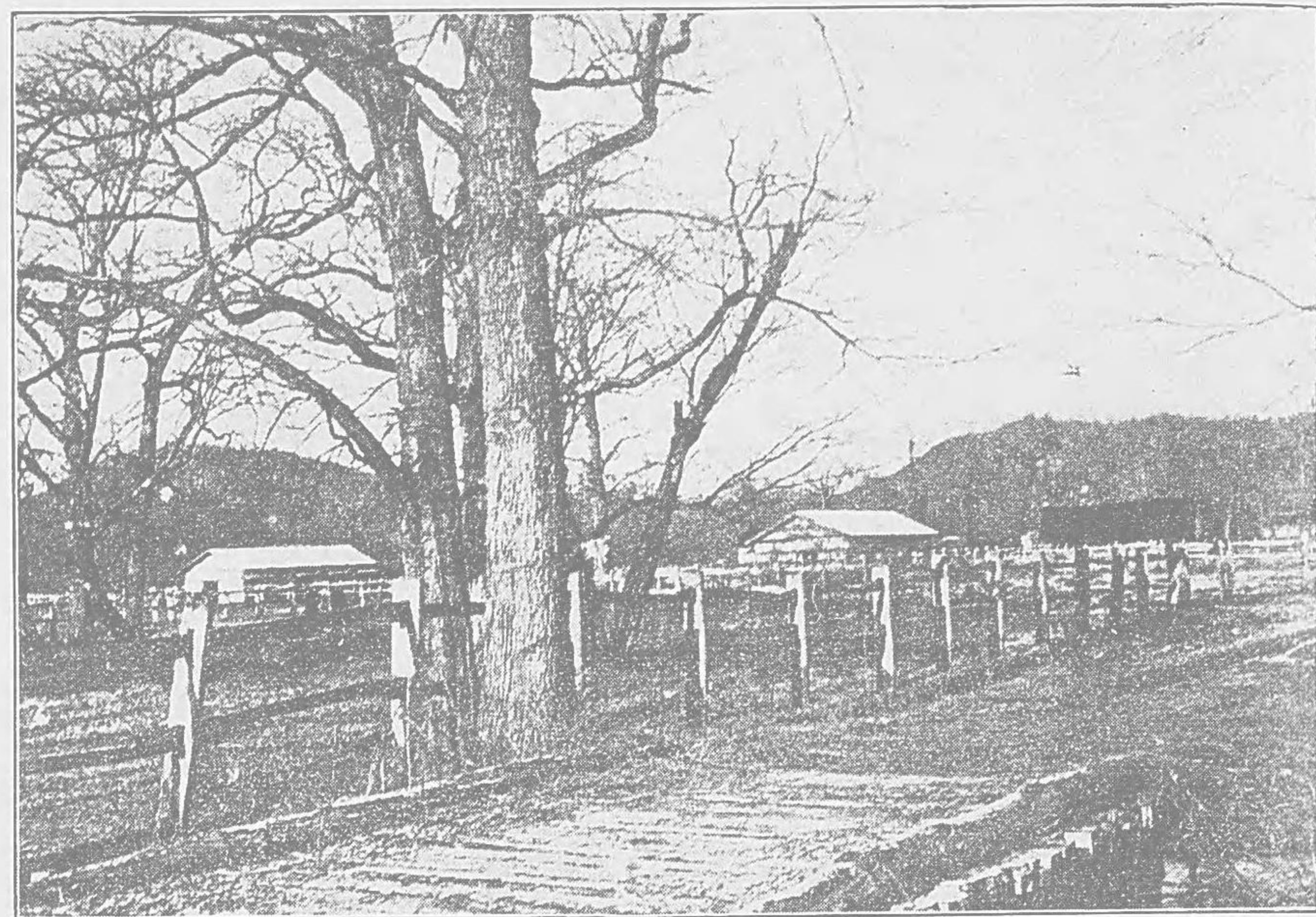
The town of Shibechea, Kushiro.

山 寒 亞 雄 國 路 釧 圖 四 十 六 第



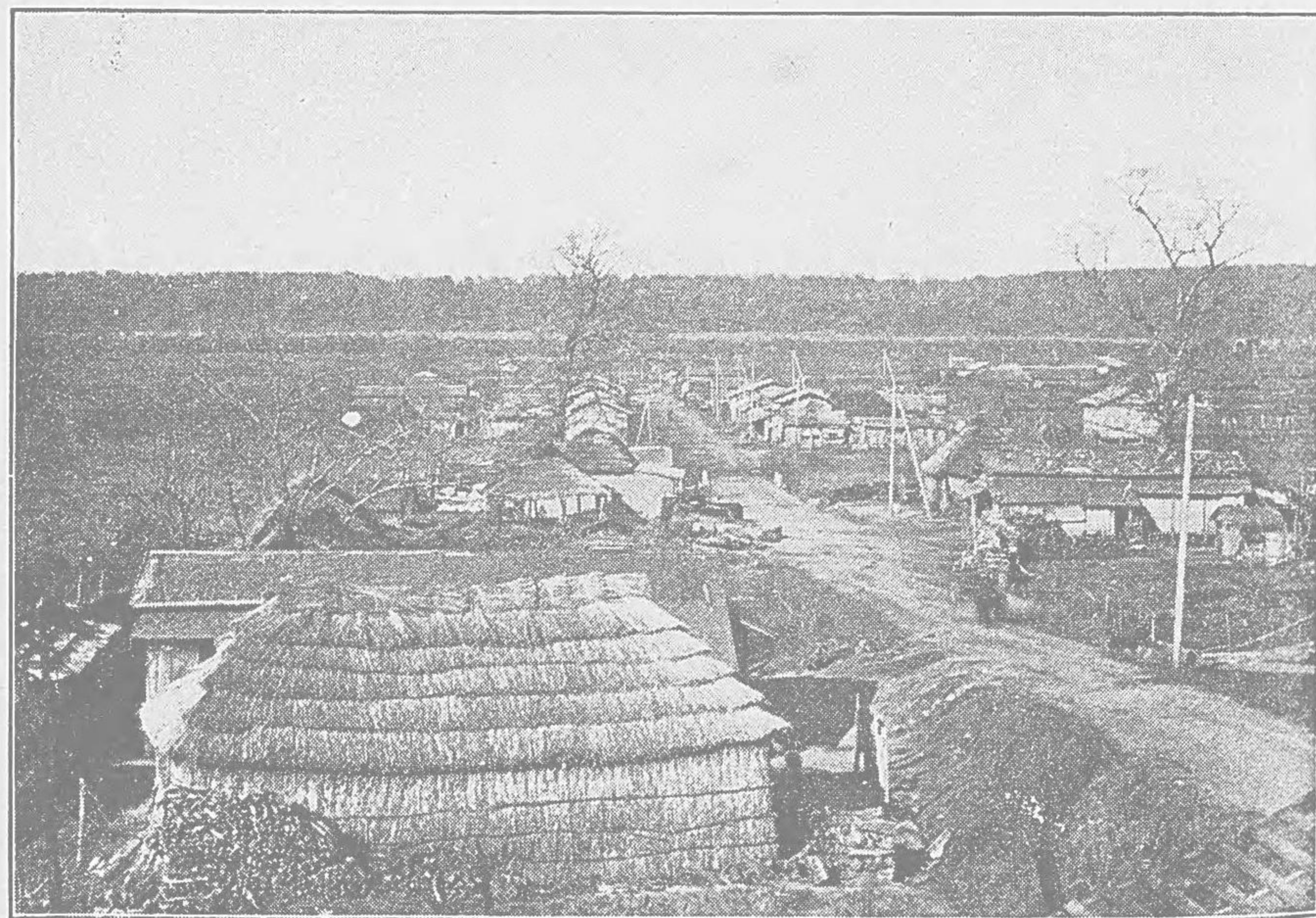
Oakan-yama, Kushiro.

場牧料御冠新國高日上 圖五十六第



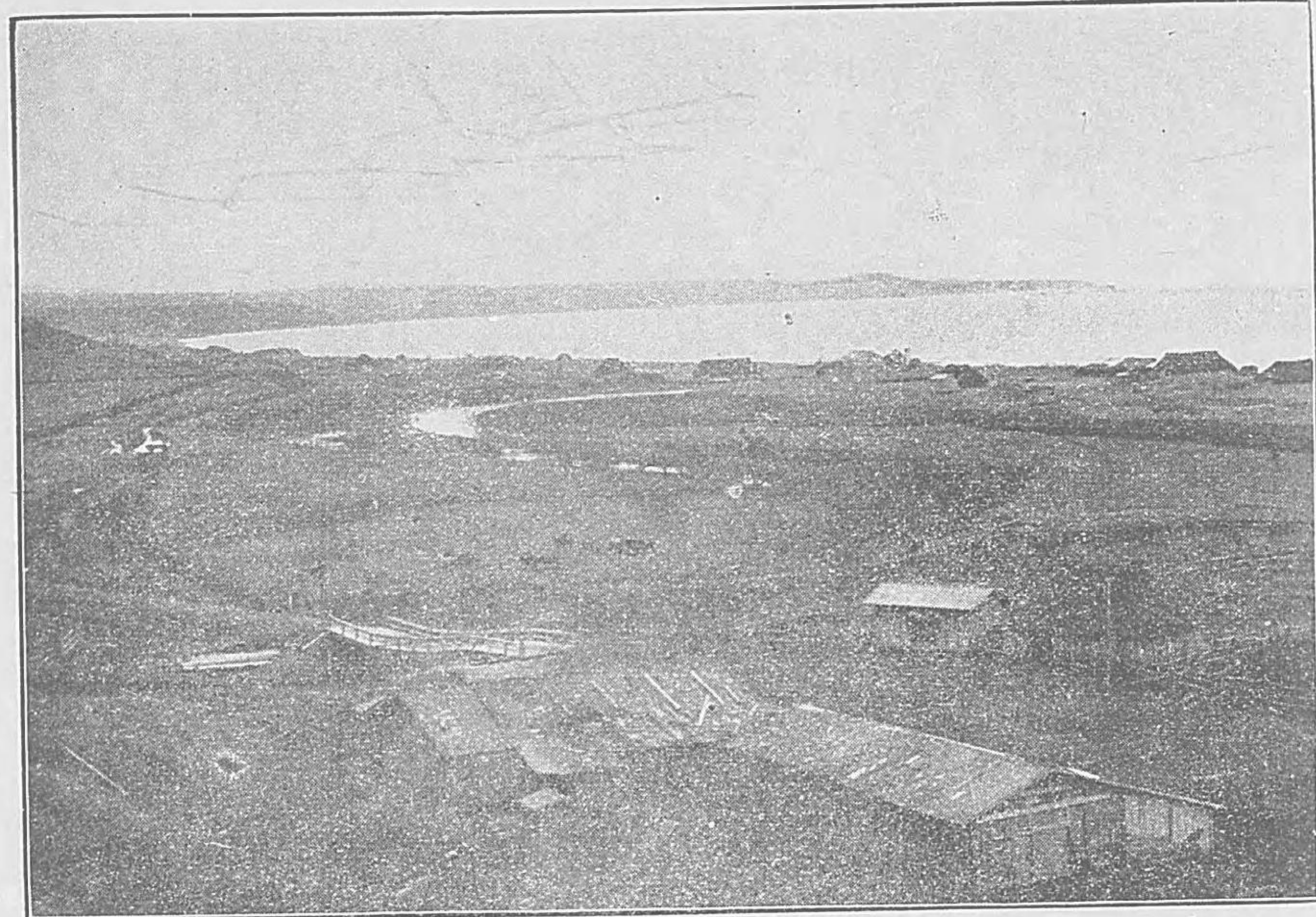
The Imperial meadow of Niikappu, Hidaka,

落村太流沙國高日下 圖六十六第



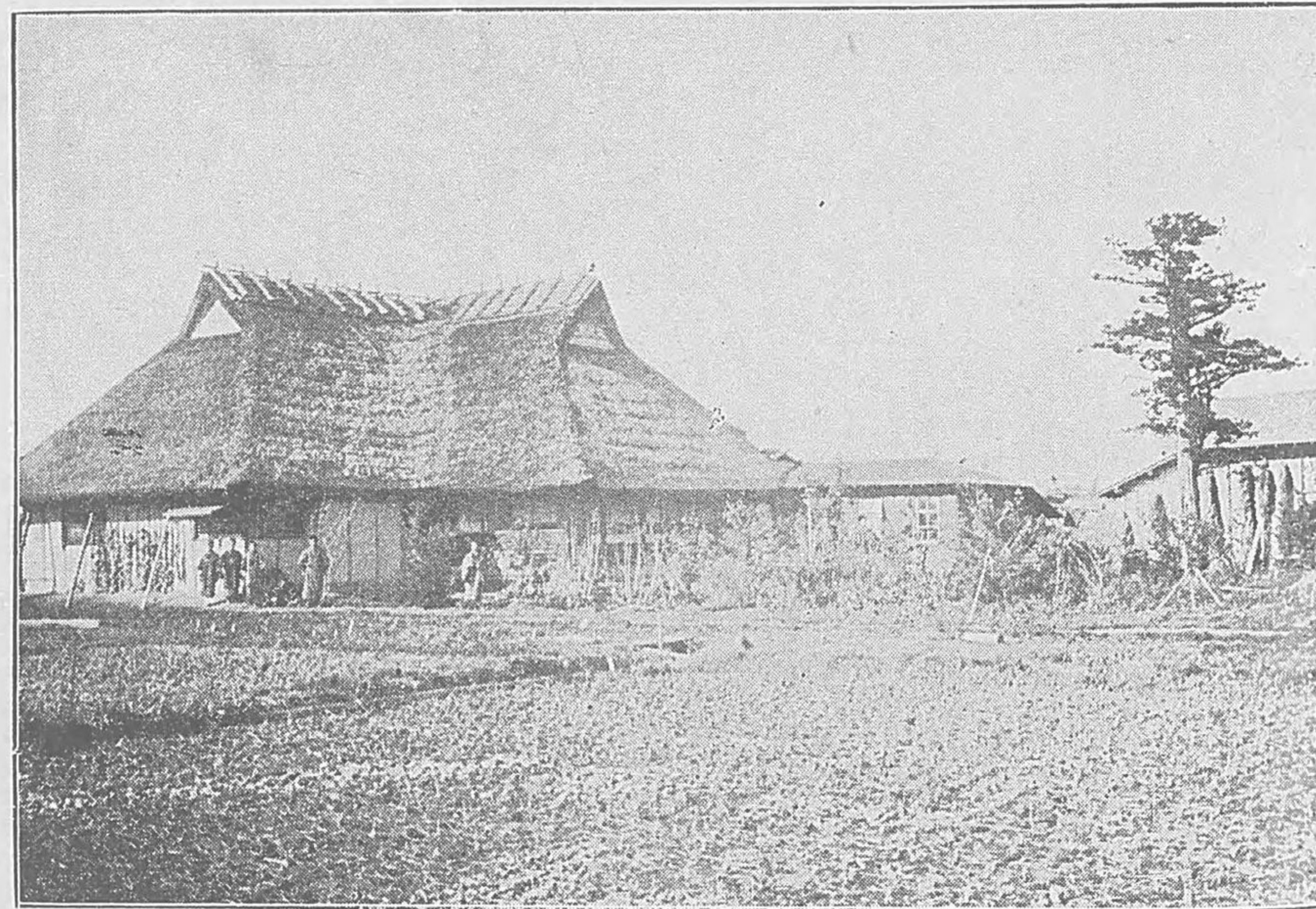
The villages of Saruputo, Hidaka.

場農根岩流沙國高日 圖七十六第



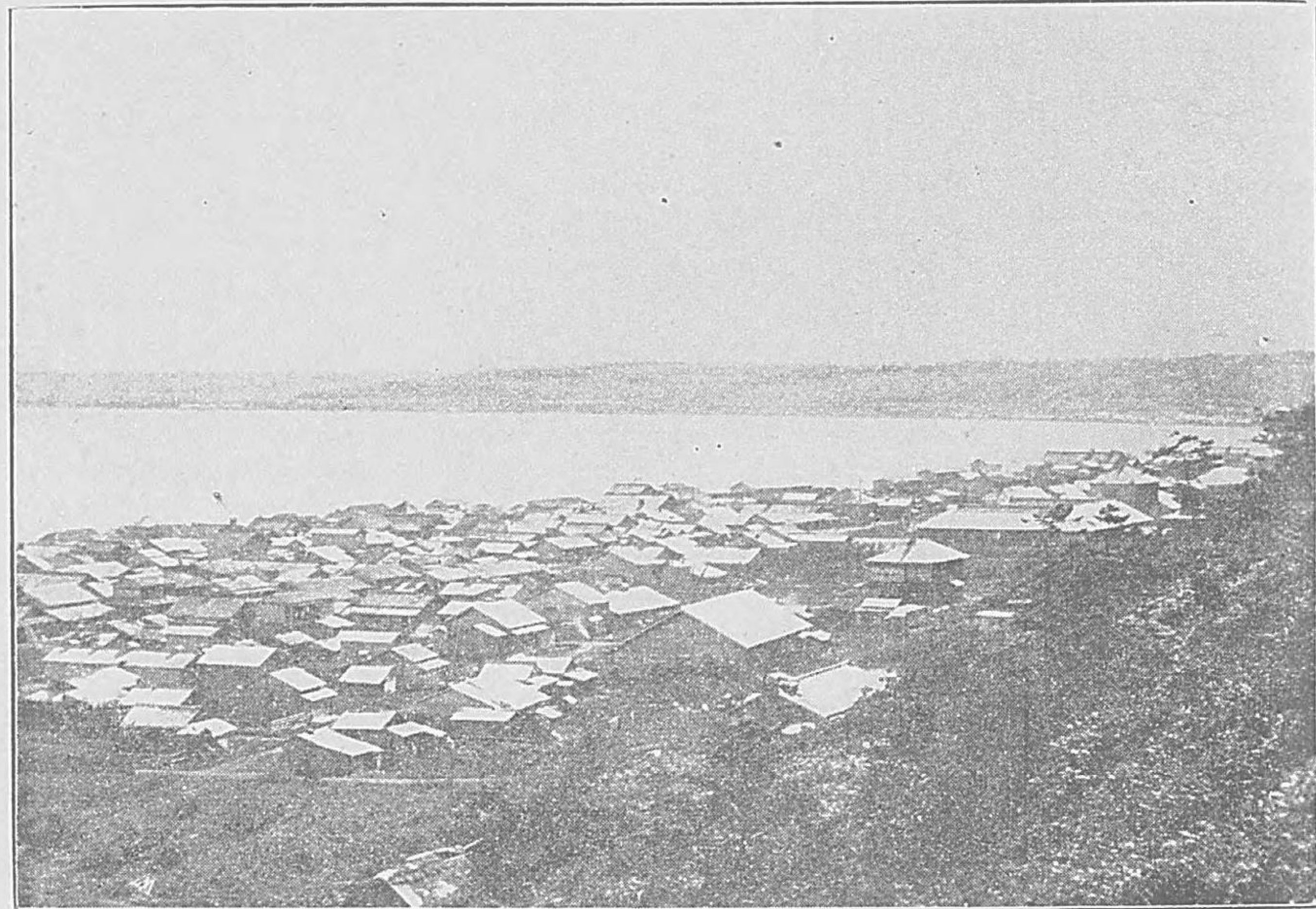
Iwane agricultural yard, Saru-gōri, Hidaka.

落部人士國勝十 圖八十六第



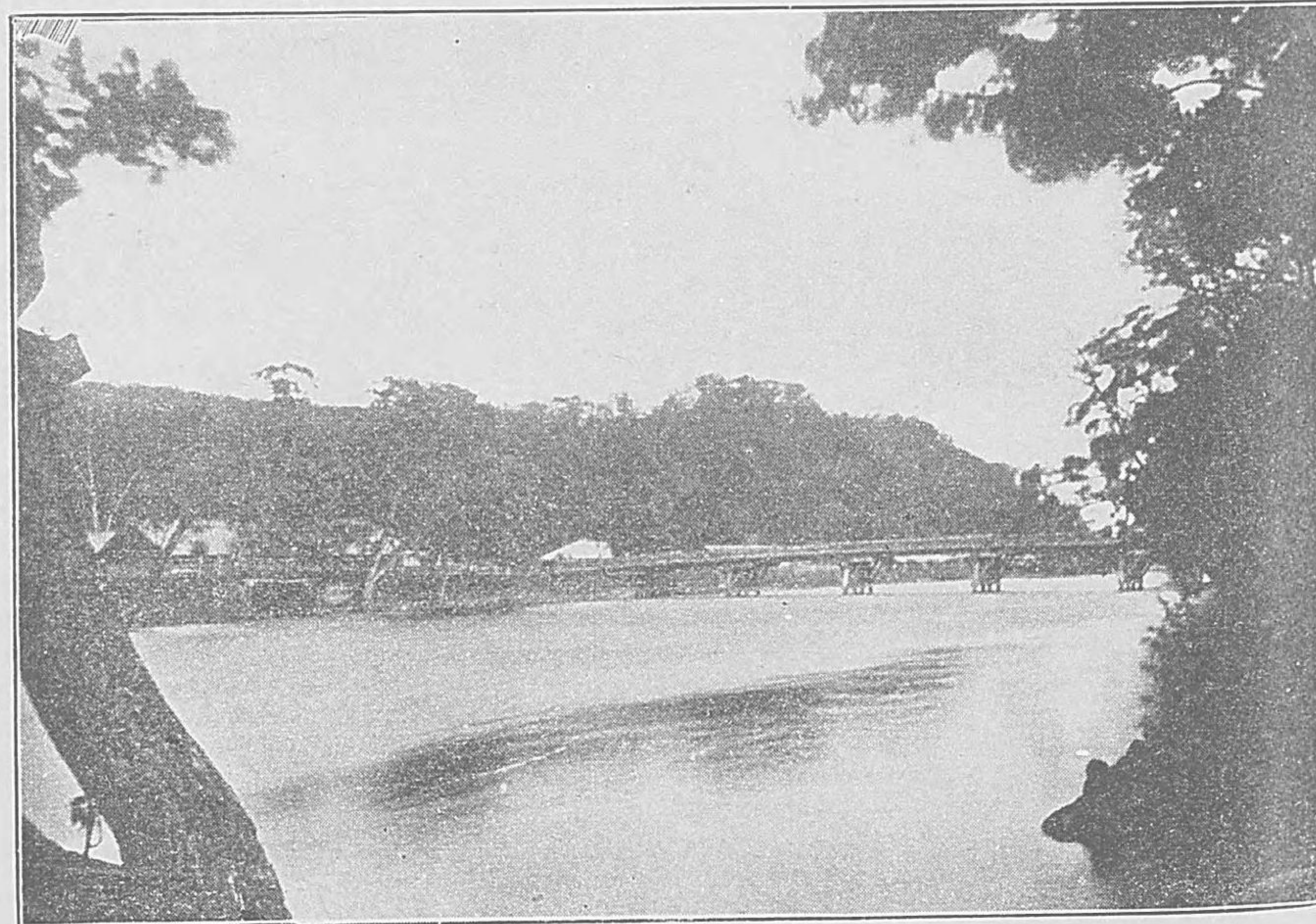
The tribes of Natives (Aino), Tokachi.

街市內稚國見北 圖九十六第



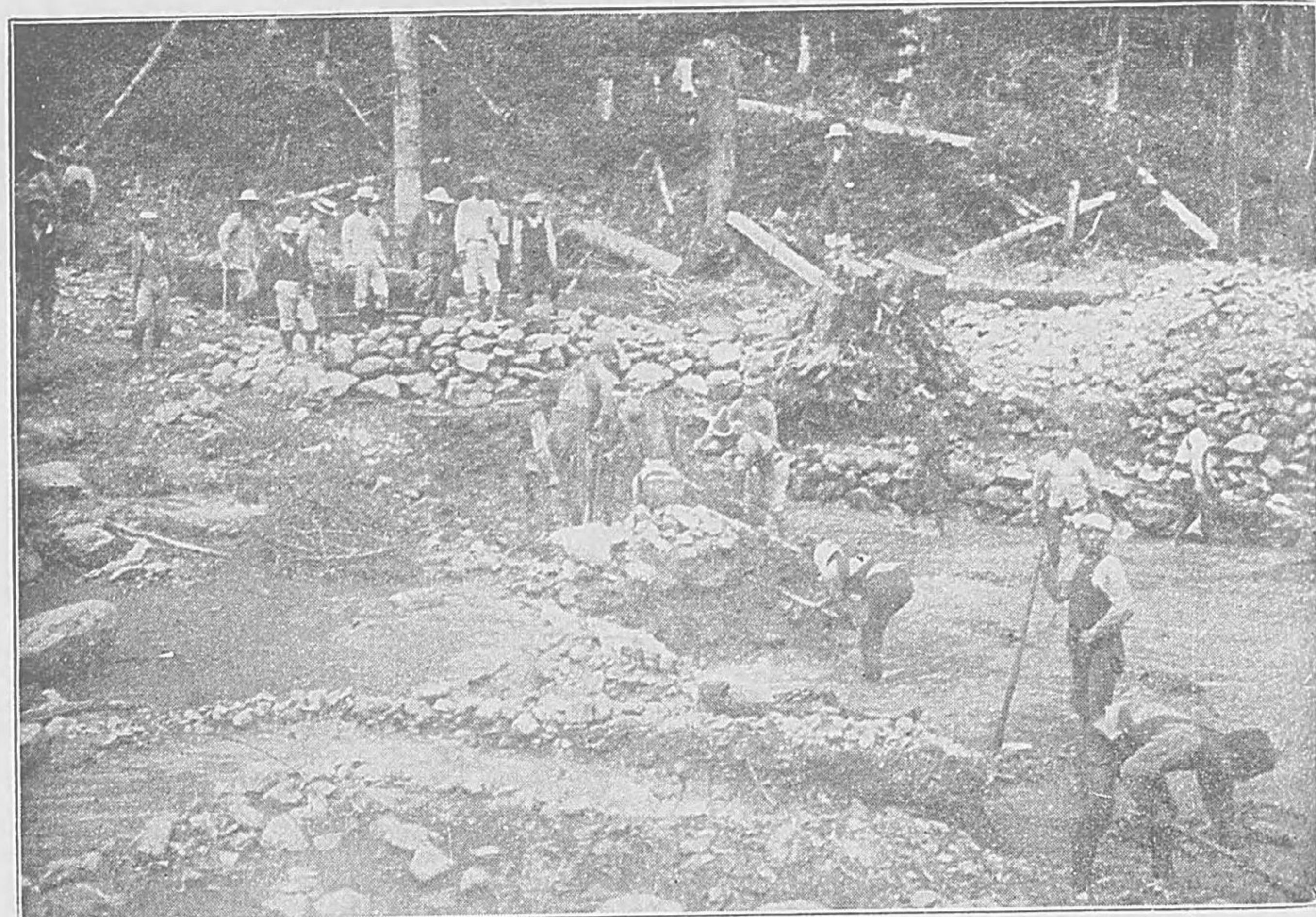
The town of Wakkanai, Kitami.

橋鐵之前營分走網國見北 圖十七第



The iron bridge of Abashiri, Kitami.

場堀採金砂幸枝國見北 圖一十七第



The mining place of the gold dust in Esashi, Kitami.

景の練洗金砂幸枝國見北 圖二十七第

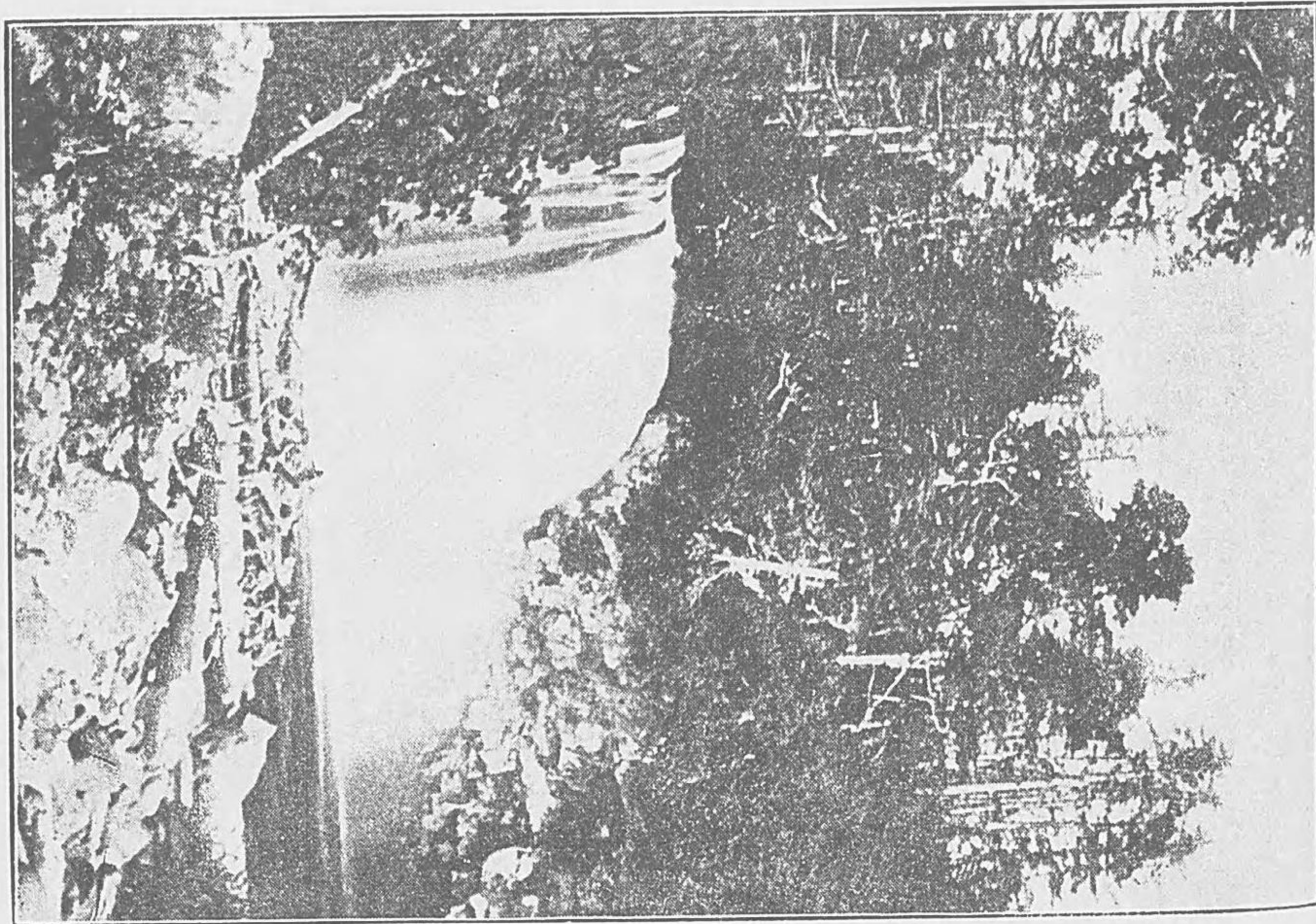


The view of the "gold dust mining" in Esashi, Kitami.

北見國枝幸廣砂金採掘事務所 第七十三圖



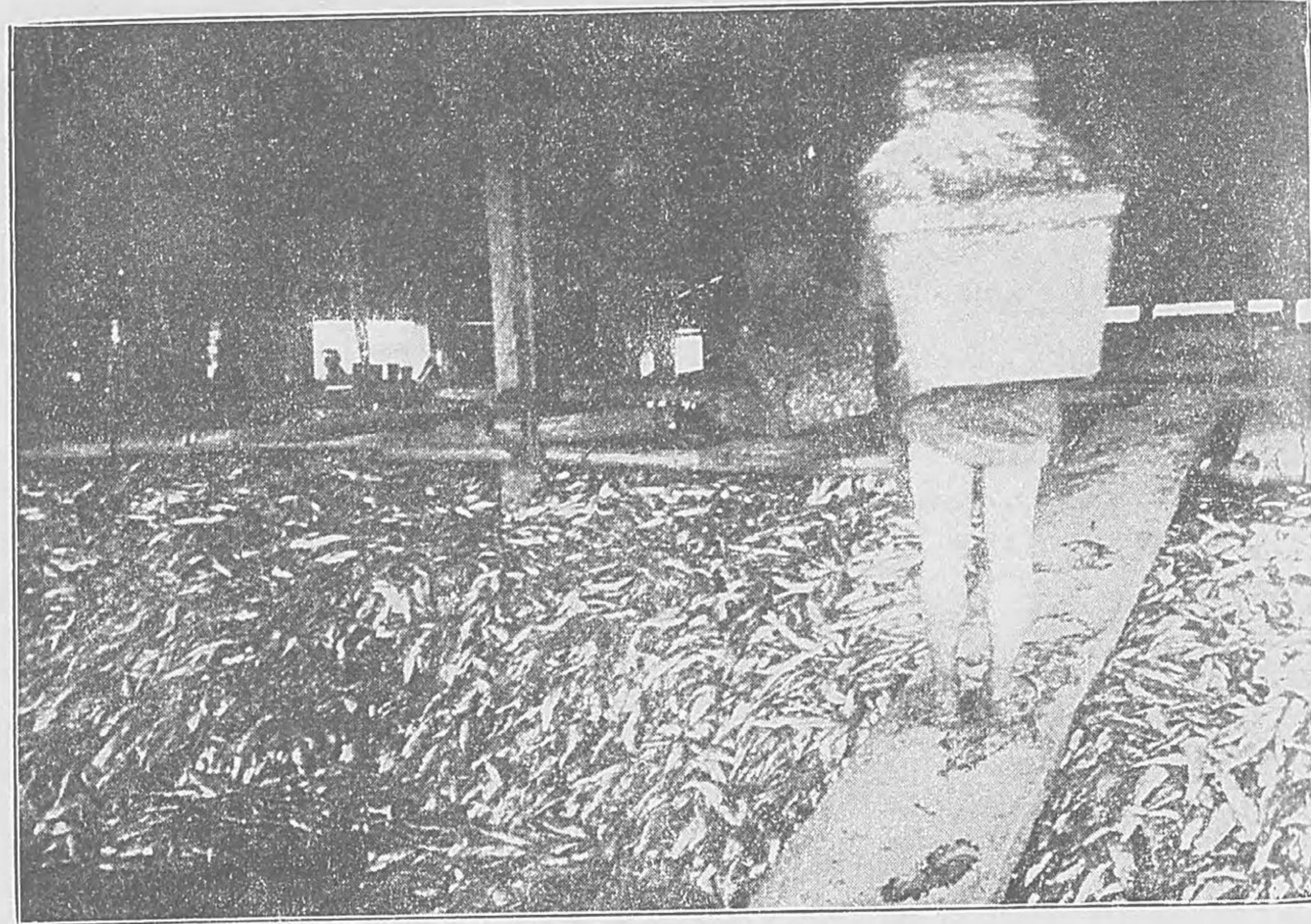
Hiroya's gold dust mining office in Esashi, Kitami.



The Kurutaki of Edorofu, Chishima.

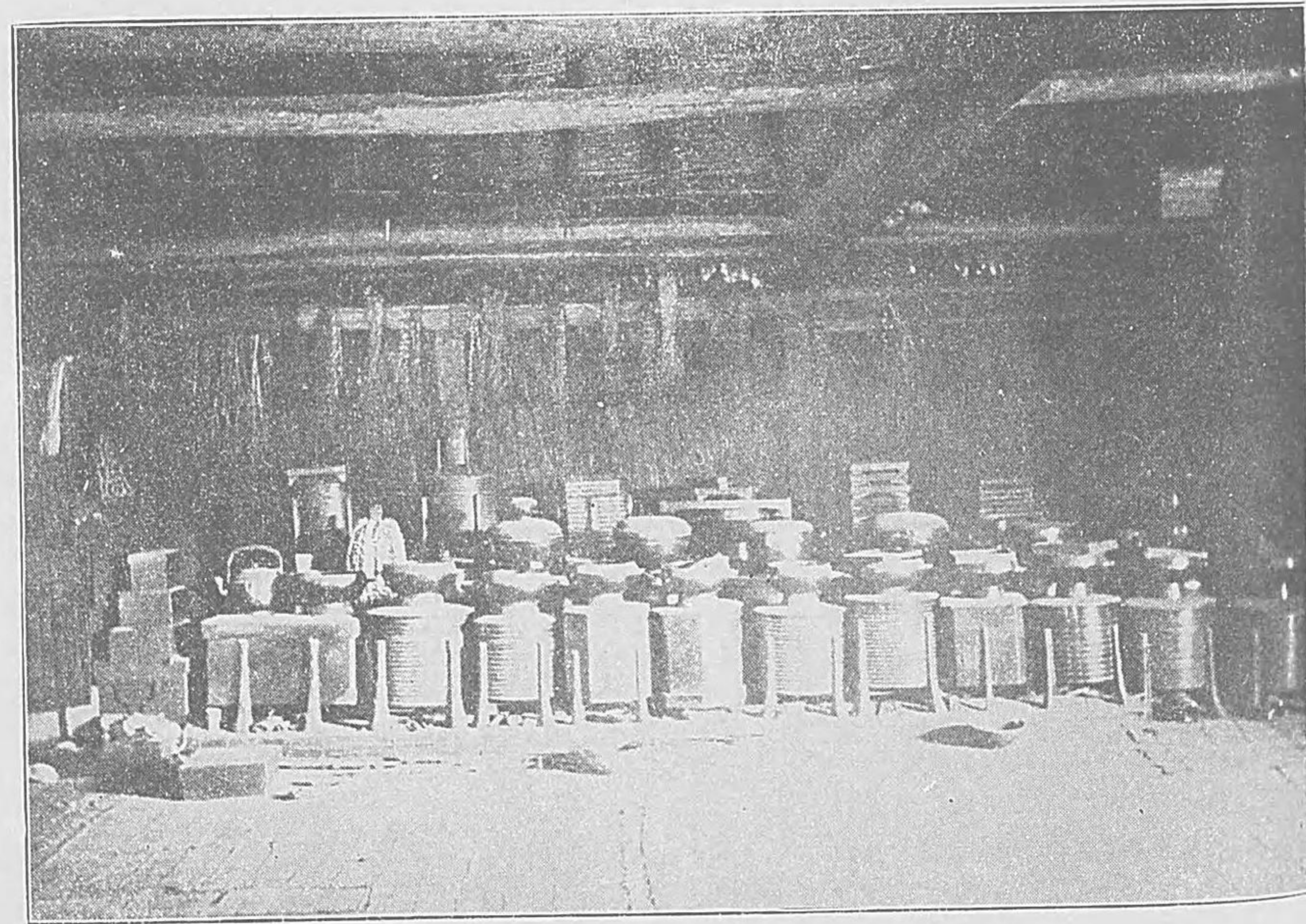
千島國五ノロノノ景 第七十四圖

景之屋納場漁鯨 圖五十七第



The view of the store houses in the herring fishing place.

物寶の内室×イア人土 圖六十七第



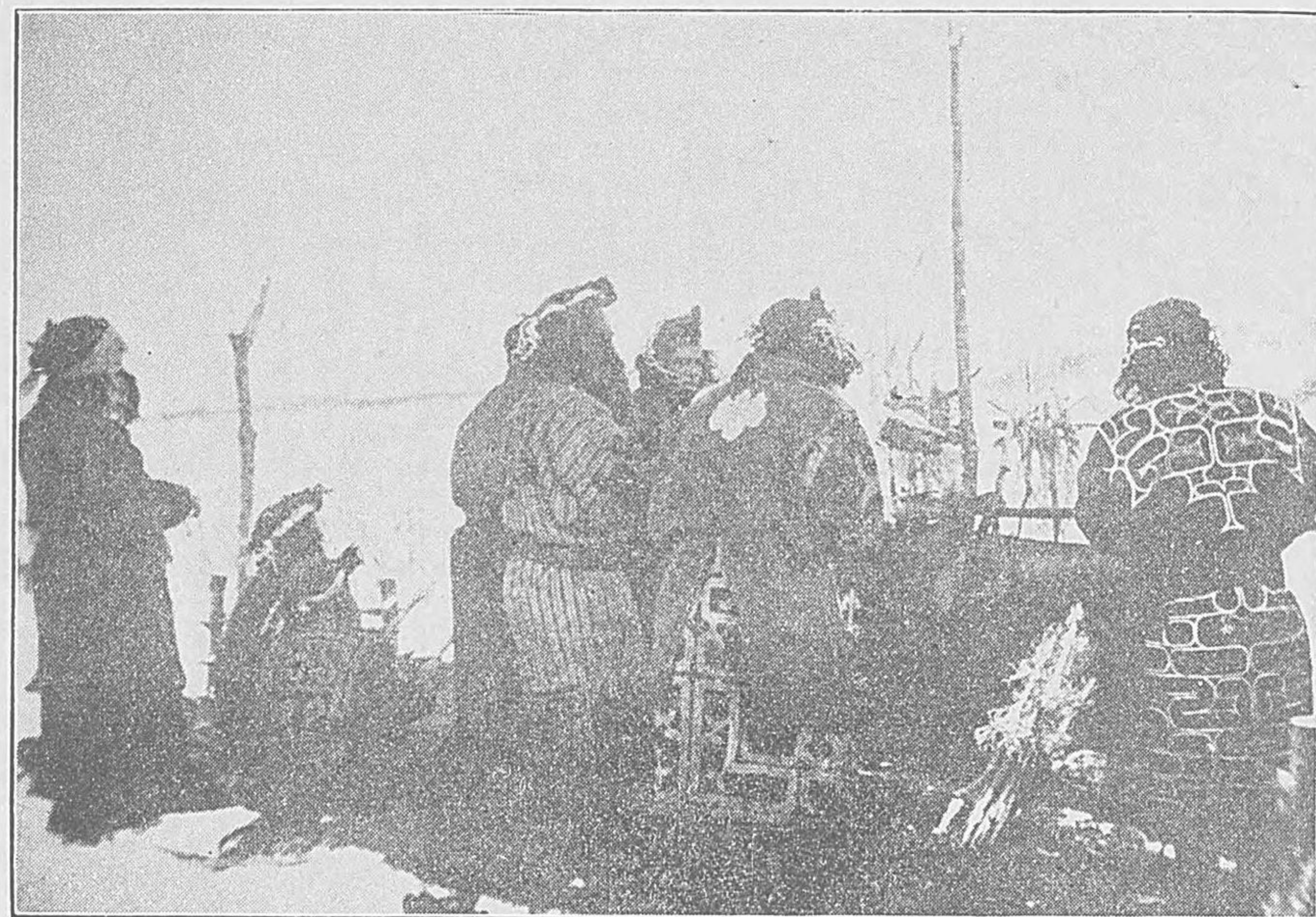
The Treasures of Aino's room.

第百三十三圖

第百三十四圖

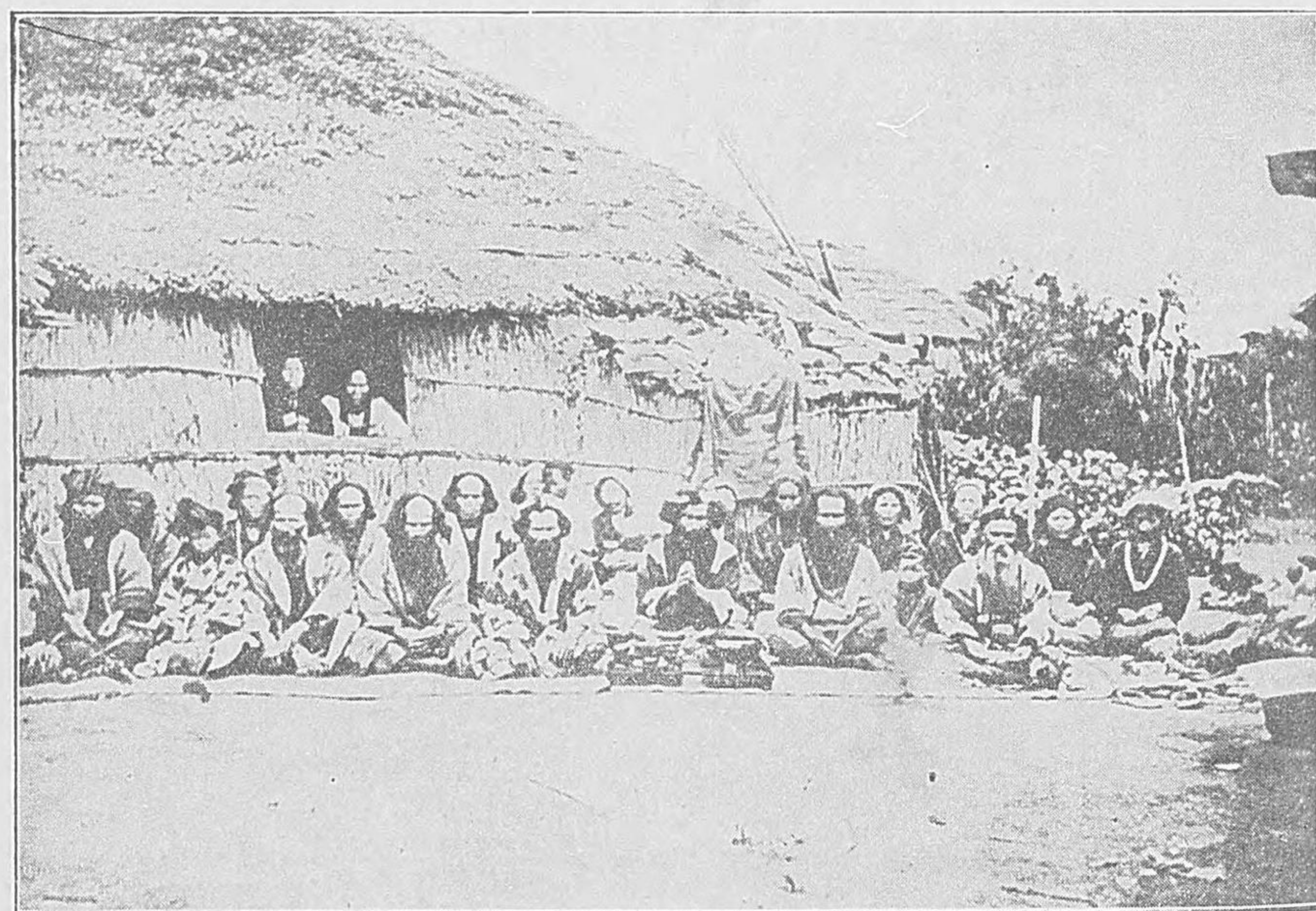
第百三十五圖

祭 熊 之 人 土 圖 七 十 七 第



The "Bear Festival" of Aino.

景 之 屋 小 及 人 土 圖 八 十 七 第



The view of the huts and the Natives (Aino).

1897

1897

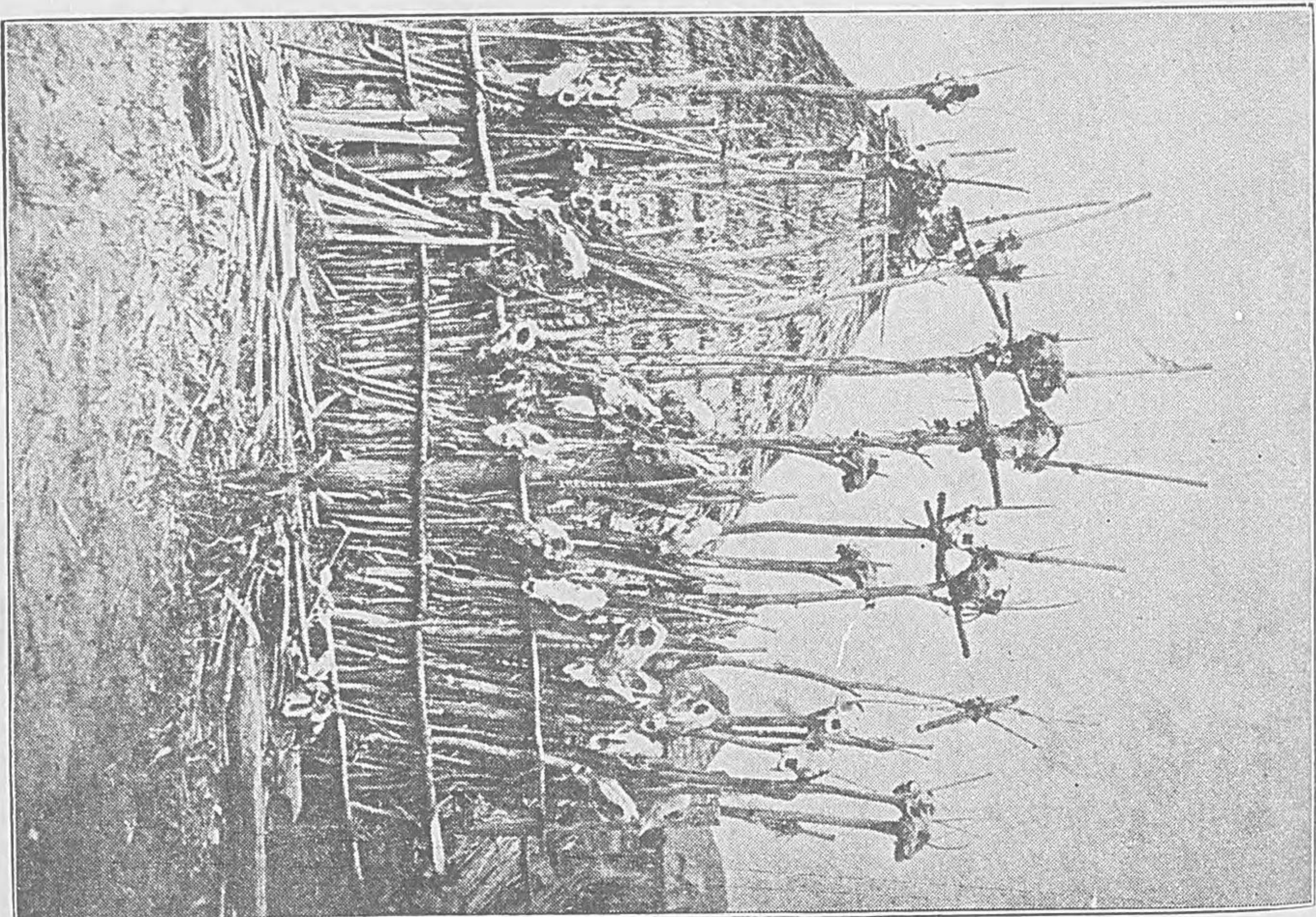
1897

婦夫之人主 圖九十七第



The Couple of Natives.

景之イムカチ人主 圖十八第



The view of Okamui.

教科書類
學校用具類
學校諸帳簿及
諸表用紙類
學校用書証類

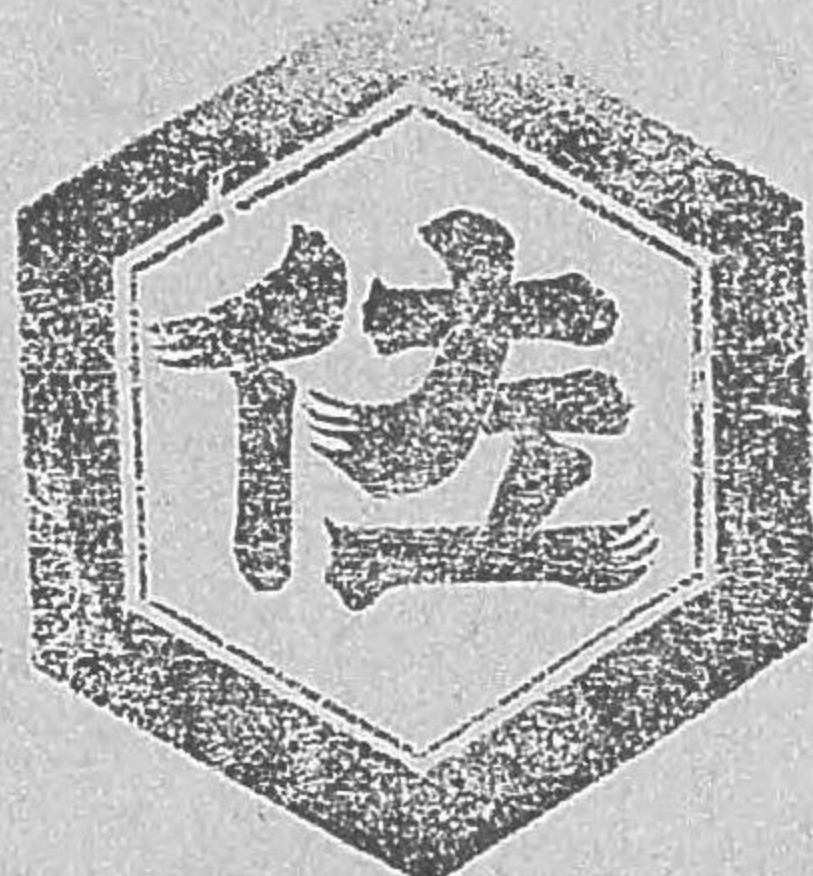
賣 捌 所

森
書林二二堂

北海道函館港末廣町

豆 録

商 標



最上醬油

辨賣大小樽
詰別製壘詰
類數種

區內及其他
販賣店有之
候間御需用
被下度希候

函館區大字龜田村
醬油釀造元本店

町 佐野定七

電話(百三番)
電器(サノ)

全區豊川町壹番地

町 佐野支店

電話(百四番)
電器(サノ)

和洋酒類釀造販賣

菅 乃 井

巴 港 一

北 遊

本場銘酒類各種專賣

登 録 有 權

鷹 印

菊水印

藥用ブランド

藥用葡萄酒

燒酎白酒各種

(ヤカス器) (番六二二話電)

函館港地蔵町

商 丸 善

菅 谷 善 司
室 蘭 菅 谷 支 店

右着實直段ヲ以テ數ノ多少ヲ論セス高需ニ應ズ

北海道廳御編纂

○北海道圖

正價一圓
郵稅六錢

大須賀龍潭先生編

○北海道明細新圖

正價廿錢
郵稅四錢

村尾元長先生校閱

○北海道地圖

正價十四錢
郵稅二錢

三松堂編纂

○帝國地圖

正價三十錢
郵稅八錢

志倉清次郎先生編

○萬國地圖

正價卅五錢
郵稅八錢

北海道師範學校長榎山榮次先生著

○各科教授法

全三冊各四十五錢
郵稅各六錢

北海道師範學校教諭熱田真吉先生著

○家庭感情教育

正價五十錢
郵稅六錢

高等師範學校富永岩太郎先生校閱

○學校社會

正價三十錢
郵稅四錢

女子大學講師白井規矩郎先生著

○女子遊戲教授書

正價六十錢
郵稅六錢

東京京橋區弓町壹番地

發元兌 松邑三松堂

諸流 筆墨硯卸商

●各小間物并ニ石鹼類種々
 小店ハ誠實ヲ旨トシ百事勉強註意可仕候

△
兒玉松之助

函館區西川町七十番地
 電信零號(コタマ)

商標

ラモネ 製造

石坂印刷部

養豚部 養豚部 養豚部

函館區比須町廿四番地

富田多四郎商店

電話五百〇六番

常盤織

染

松居呉服店

標



商



函館區比須町廿四番地

富田多四郎商店

電話五百〇六番



卸 賣 と 小 賣

本店の特長

- ◎誠實と勉強
- ◎取扱の懇切
- ◎價格の低廉
- ◎発送の迅速



一御照會アル片ハ往復端書又は通信切手ヲ要ス
 一區内は御一報次第無賃送達
 函館惠比須町
 四十番地
三書籍店

營業品目概

- ◎書籍と雜誌
- ◎錦繪と石版繪
- ◎運動具類と樂器
- ◎筆墨類と文房具

●御注文規定
 一御注文は凡テ前金ヲ要ス迅速送達仕可候
 一郵便爲替ヲ以テ御送金の御方は函館惠比須町爲替取扱ヘテ宛御振込被下度候
 一郵切手代用の儀は凡テ一割増申受候

●學校用其他一般の書籍は凡テ精々廉價を以て販賣可仕候

大物 小 呉服


洋織物

函館大町
 卸店 小野支店
 樽色内町
 小賣店 野呂服店

卸 賣 と 小 賣

本店の特長

- ◎誠實ご勉強
- ◎取扱の懇切
- ◎価格の低廉
- ◎発送の神速

一御照會アル片ハ往復端書又は通信切手ヲ要ス
 一区内は御一報次第無賃送達
 函館惠比須町
 四十番地
 書籍店

營業品概目

- ◎書籍と雑誌
- ◎錦繪と石版繪
- ◎運動具類と樂器
- ◎筆墨類と文房具

●御注文規定
 一御注文は凡テ前金ヲ要ス迅速送達仕可候
 一郵便爲替ヲ以テ御送金の御方は函館惠比須町爲替取扱ヘテ宛御振込被下度候
 一郵切手代用の儀は凡テ一割増申受候



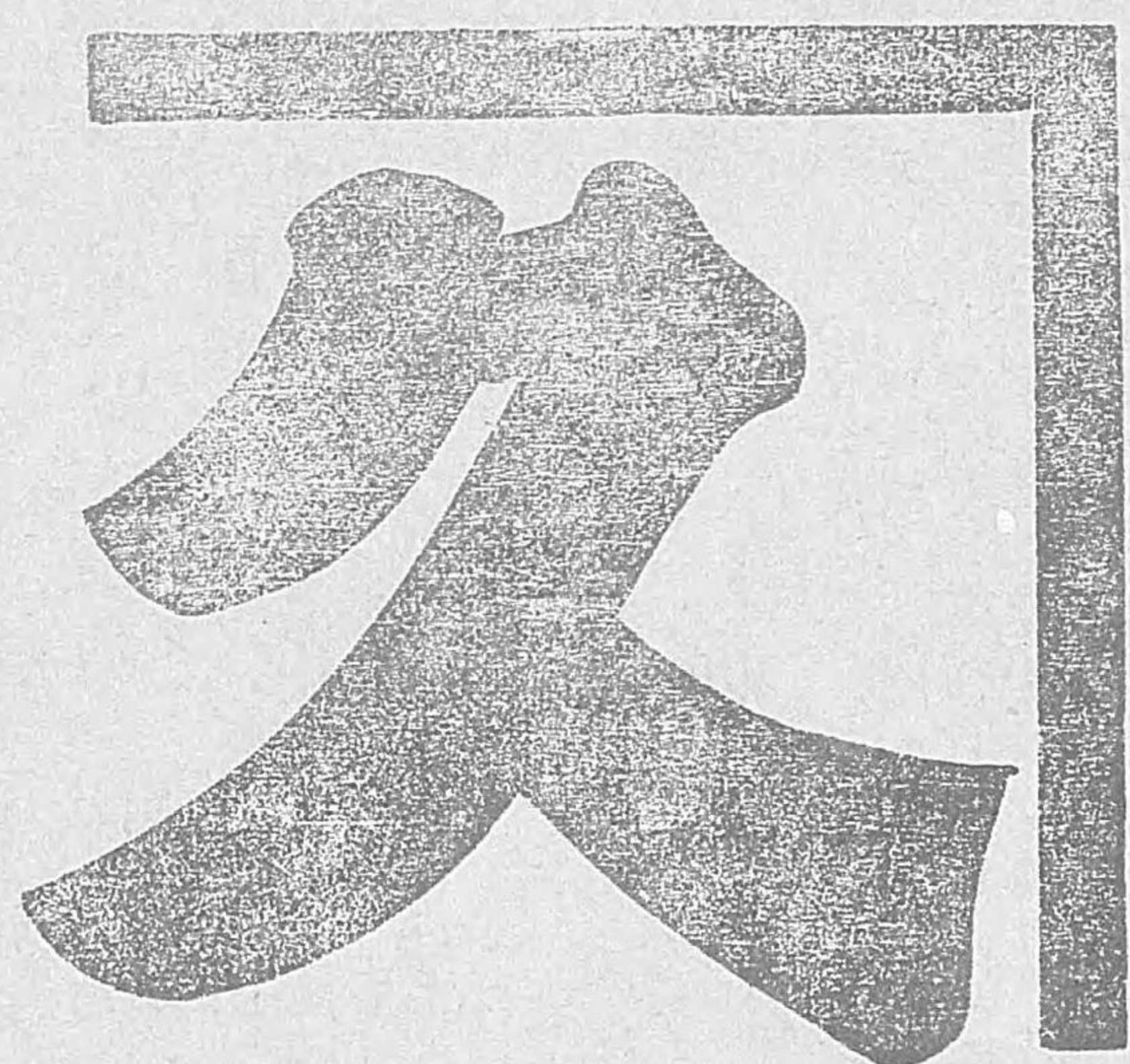
●學校用其他一般の書籍は凡テ精々廉價を以て販賣可仕候

大物 小 吳服

洋織物

函館大町
 卸店 小野支店
 樽色内町
 小野支店

原 料 精 撰



味 噌 製 造 所

宮 崎 竹 四 郎

函 館 區 東 川 町 貳 百 三 十 八 番 地

價 格 勉 強

十一

煉 瓦 石
屋 根 瓦
土 管 及 網
足 便 所 甕
石 灰

〔壹ヶ年五百万ヲ製造シ得ルノ規模ニシテ品質堅牢頗ル寒氣ニ堪エ凍傷ノ虞ナシ〕
〔壹ヶ年製造壹万坪兩面藥掛ニシテ凍傷ノ虞ナキハ特ニ弊店ノ保証スル所ナリ〕

前同様凍傷ノ虞ナク大小各種アリ

〔原料豊富何万石ノ注文ニモ應ズ特ニ弊店ノ製造スル石灰ハ新鮮ナルヲ以テ内地ヨリ輸入スル石灰ニ比シ強カク數倍ナリ〕
消毒用トシテハ生石灰ノ儘販賣致シ候

北海道函館區眞砂町六番地

右製造販賣業

平 商 店

(電話三二二番)

浴客御湯治料

壹週間

並等 金參圓五拾錢
 中等 金五圓
 上等 金七圓
 特等 金拾圓

旅客御宿料

並等 一宿 金五拾錢
 二飯 金七拾錢
 中等 全 金壹圓
 上等 全 金壹圓
 特等 全 金壹圓
 中食料ハ一宿料ノ半額

溫泉乃効能

脚氣。癩麻質斯。皮膚病。
 子宮病。創傷。梅毒性諸病。
 胃病。貧血性諸病。肝臟病。
 其他内臟諸病効能顯著ナリ
 函館湯の川瀧の湯

溫泉旅館

洗心館

本館乃得色

本館は清麗にして雅趣あり御取扱は
 深切にして丁寧なる。○料理は衛生
 を旨とし最も精良にして廉價なり
 本館は日本同盟大旅館にして全國大
 旅館と氣脈を通し居れば旅客諸君
 頗る便利なり

HOT-SPRING
 SENSHINKAN
 YUNOKAWA HAKODATE

●各國藥品

後志國岩内町御鉾内町

●諸大家賣藥



池田大盛堂

●和漢洋書籍

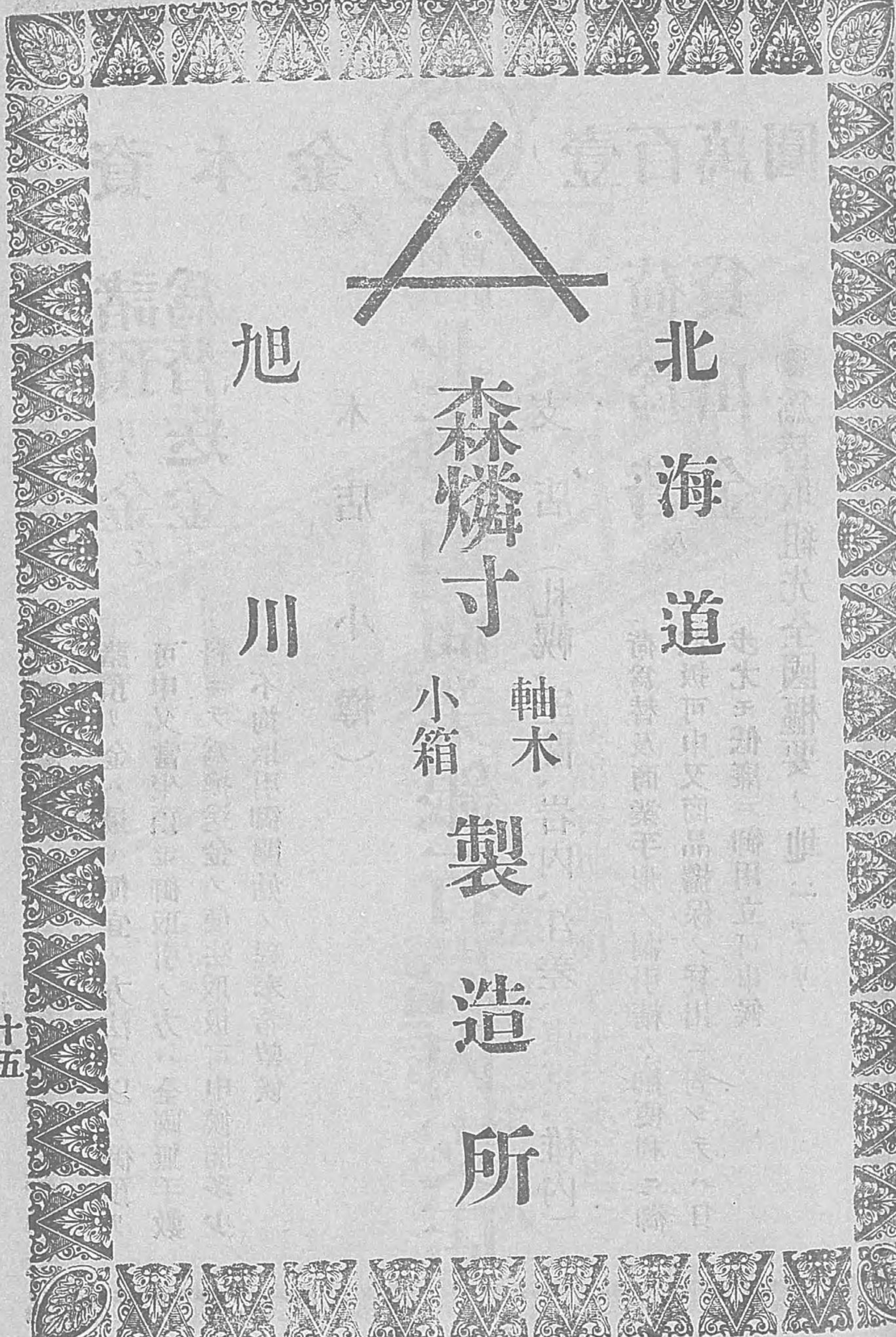
全 全 五十五番地

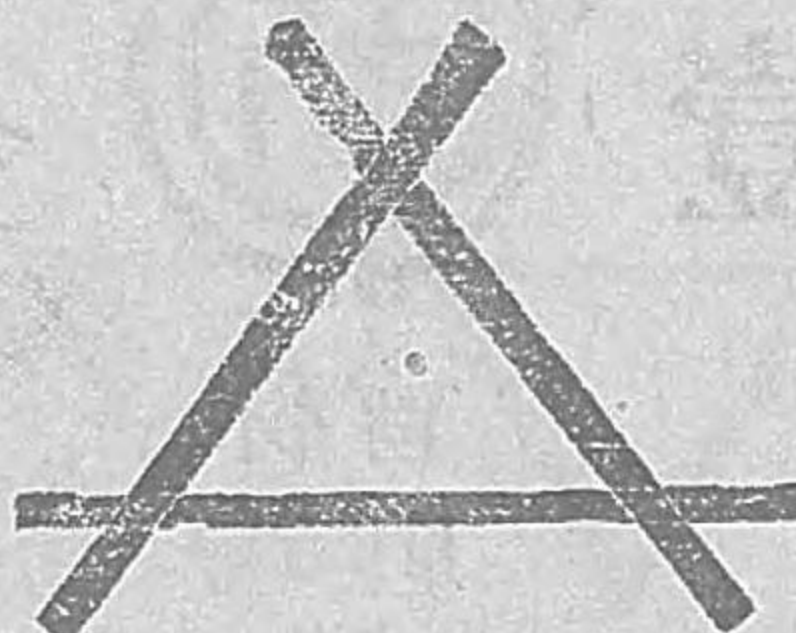
●洋酒類種々



分店書籍部

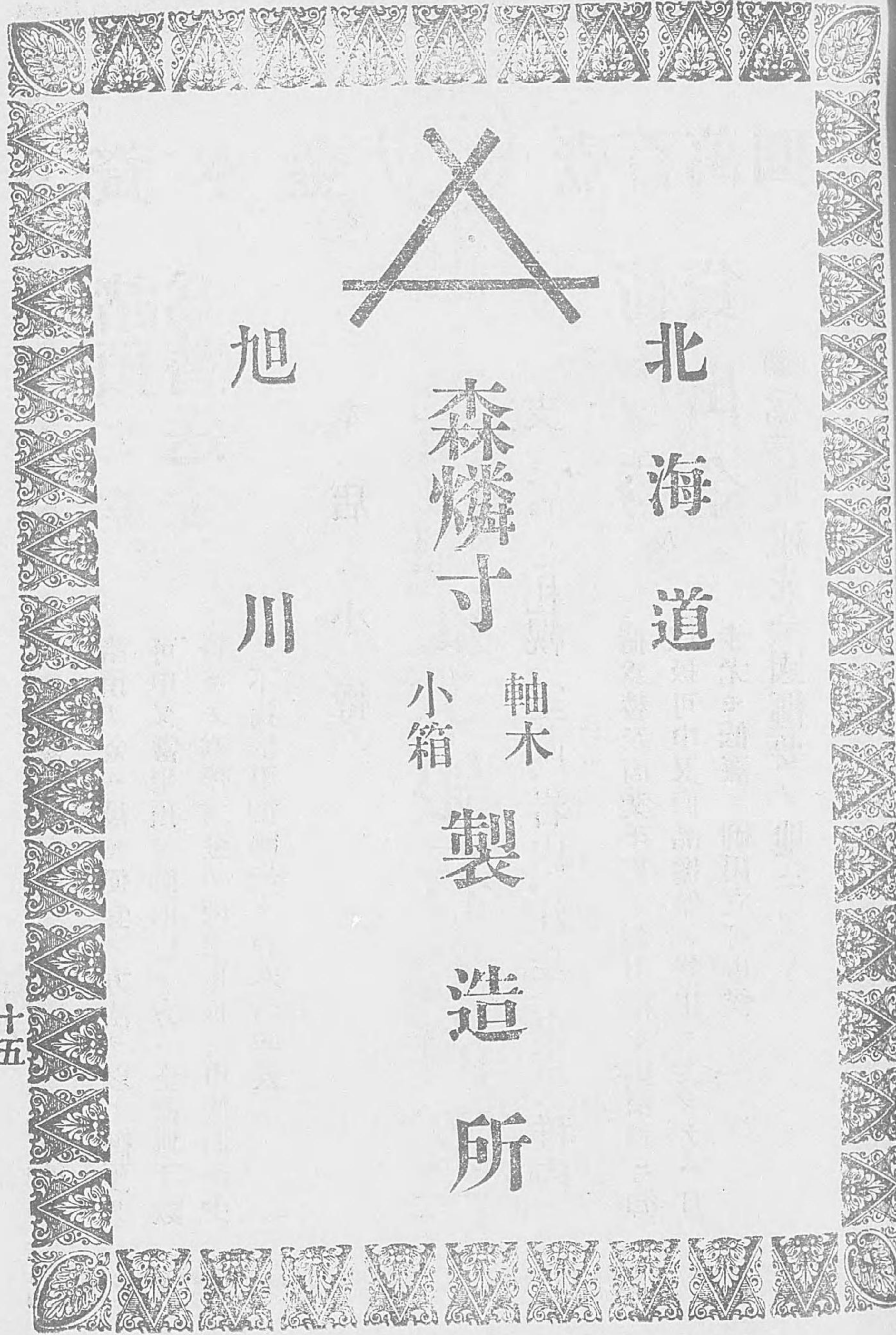
●諸流筆墨

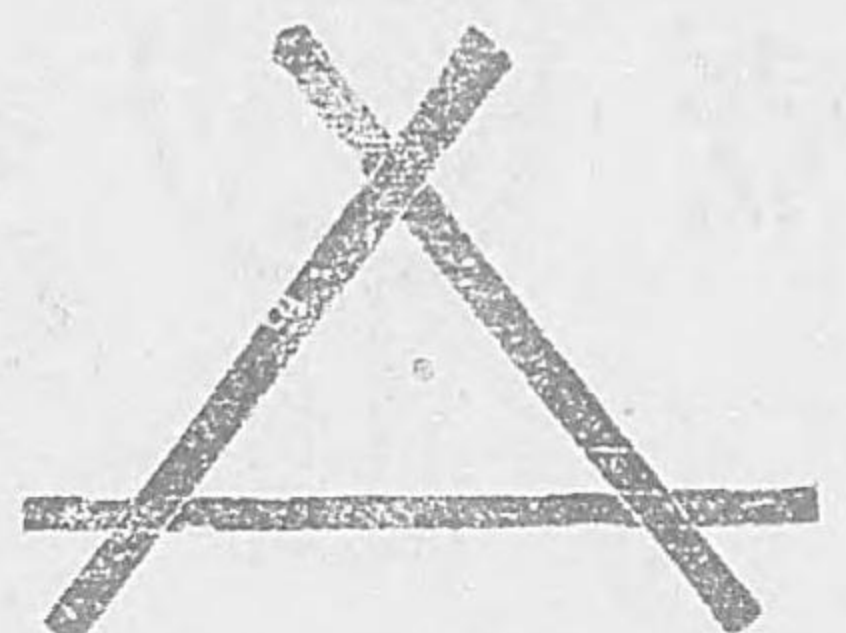


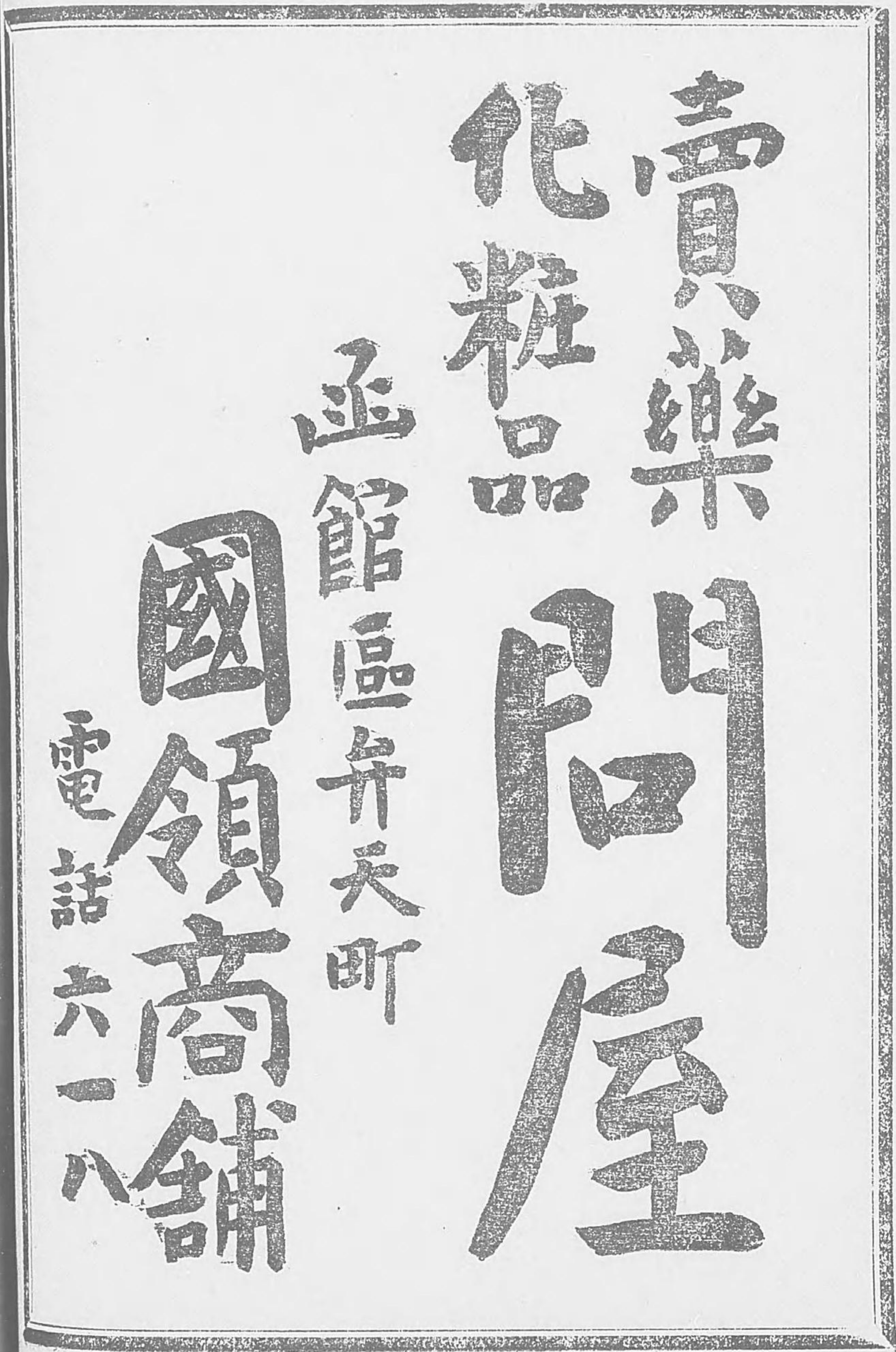

 旭川
 北海道
 森燐寸
軸木 小箱
 製造所

十五

膏藥
 化粧品
 問屋
 函館區弁天町
 國領商舖
 電話六一八

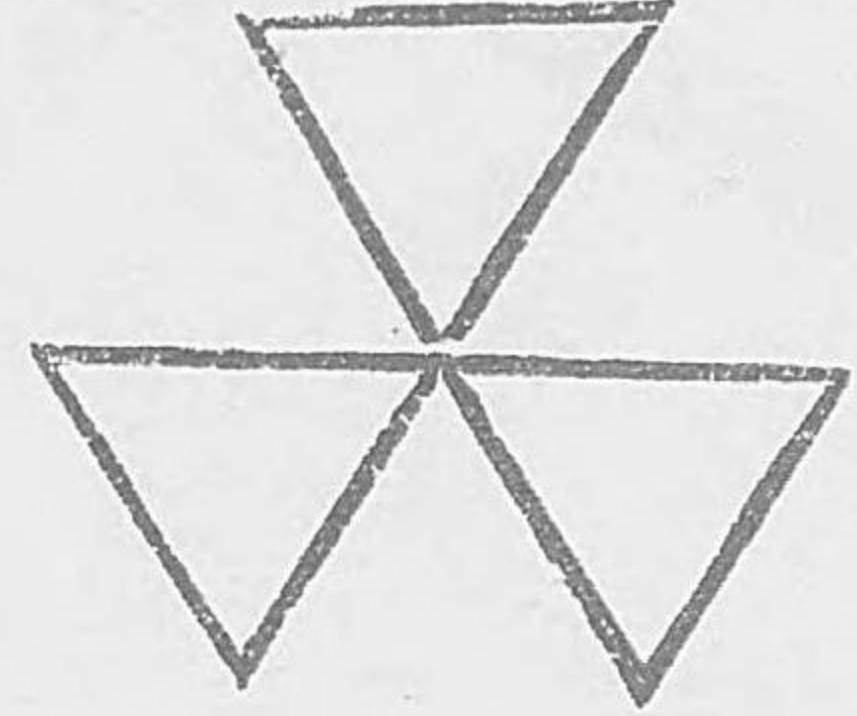



 旭川
 北海道
 森燐寸
軸木 小箱
 製造所



膏藥
 化粧品
 問屋
 函館區弁天町
 國領商舖
電話六二八

登 錄 商 標



函館箱元

函館谷地頭町七十二番地

釀造元 金澤正次

(電話三百四十五番)

十七

資 本 金

諸預リ金
及
爲替送金

諸預リ金ハ最モ便宜ノ方法ヲ以テ御預リ
可申又當坐預金御取引ノ方ハ全國無手數
料ニテ爲換送金ノ便法取扱可申候間多少
ニ不拘取引御開始ノ程奉希望候

本店 (小樽)



株式
會社

北海道商業銀行岩内支店

支店 (札幌、室蘭、岩内、江差、東京、稚内)

壹 百 萬 圓

荷爲替
出爲金

爲替取組先全國樞要ノ地ニアリ

荷爲替及商業手形ノ割引精々御便利ニ御
取扱可申又商品擔保ノ貸出ニ對シテハ日
歩尤モ低廉ニ御用立可申候

十六

内外烟草問屋

甚塩谷商店

函館末廣町
電話百六十二番

●營業品目錄

- 一 綿糸撚糸及機械編綿糸網
- 一 マニラ各種岩糸類及棕梠繩
- 一 越後網、水澤網、麻糸各種
- 一 柿澁柏木玉澁及粉澁

其他漁具一切

品質精良確實價格低廉

銀牌賞 諾威國萬國水產博覽會
一千八百九十八年九月廿六日受領

進步一等賞 大日本帝國第二回水產博覽會
明治三十年十一月十二日受領

函館五丁目二十三番地

資 本 金 拾 五 萬 圓 商 標



北 海 道 機 械 網 株 式 會 社

函 館 末 廣 町
電 話 百 六 十 二 番

甚 塩 谷 店

●營業品目錄

- 一 綿糸撚糸及機械編綿糸網
- 一 ロマニラ各種岩糸類及棕梠繩
- 一 越後網、水澤網、麻糸各種
- 一 柿澁柏木玉澁及粉澁

其他漁具一切

品質精良確實價格低廉

銀牌賞 諾威國萬國水產博覽會
一千八百九十八年九月廿六日受領

進步一等賞 大日本帝國第二回水產博覽會
明治三十年十一月十二日受領

函館區大町二十三番地

北海道機械網株式會社

東京市本所區柳原三丁目十九番地 (電話三五九番)

北海道機械網株式會社東京支店 (電話五六八番)

小樽色内町板谷合名會社內

小樽販賣代理店

北海道特約販賣店

函館 末廣町	小川幸兵衛	禮文 香深	駒谷三藏
江差 姥神町	永瀧商店	壽都 大磯町	松井源内
江差 中歌町	大島合名會社	岩内 橋町	池島音藏
根室 梅ヶ枝町	柴野要助	磯谷 横洞町	佐藏三郎

●販賣品目●

●酒醬油洋酒類

●諸紙帳簿類

●和漢洋書籍

●學校用品一切

●茶砂糖煙艸

●其他各種

弊舖最モ誠實ニ最モ廉價ニ販賣ス

度量衡器販賣所

室蘭巷札幌通

一越後網、水澤網、麻糸各種
一柿澁柏木玉澁及粉澁

其他漁具一切

品質精良確實價格低廉

銀牌賞 諾威國萬國水產博覽會
一千八百九十八年九月廿六日受領

進步一等賞 大日本帝國第二回水產博覽會
明治三十年十一月十二日受領

函館區大町二十三番地

北海道機械網株式會社

東京市本所區柳原三丁目十九番地 (電話三五九番)

北海道機械網株式會社東京支店 (電話五六八番)

小樽色内町板谷合名會社內

小樽販賣代理店

北海道特約販賣店

函館 小川幸兵衛 禮文 駒谷三藏

江差 永瀧商店 大磯町 松井源內

江差 大島合名會社 岩內 池島音藏

根室 柴野要助 磯谷 佐藏三郎

●販賣品目●

●酒醬油洋酒類 ●諸紙帳簿類

●和漢洋書籍 ●學校用品一切

●茶砂糖煙艸 ●其他各種

弊舖最モ誠實ニ最モ廉價ニ販賣ス

度量衡器販賣所

室蘭港札幌通

質商 三 最上谷次吉

明治十一年創刊

函館毎日新聞

函館支廳公布式
函館區公告式

發行所

函館毎日新聞社

北海道函館區富岡町五番地

電話三百四十八番

每号六ページ
一ヶ月金三拾五錢

本社は活版、石版の印刷物
及和洋式帳簿類の御注文は
特に原料精選品質堅固に迅
速廉價と調進仕候

二十三

愛國諸君に告ぐ

札幌ビール

宮内省
御用品

札幌ビール

淡泊なる四
季の好飲料

本邦産の大麥を以て我國の技師之
を精製し其風味外國品に勝る故に
一層の愛飲を希ふ

●販賣店は天下到る處にあり

北海道札幌

札幌麥酒株式會社

東京日本橋區南茅場町

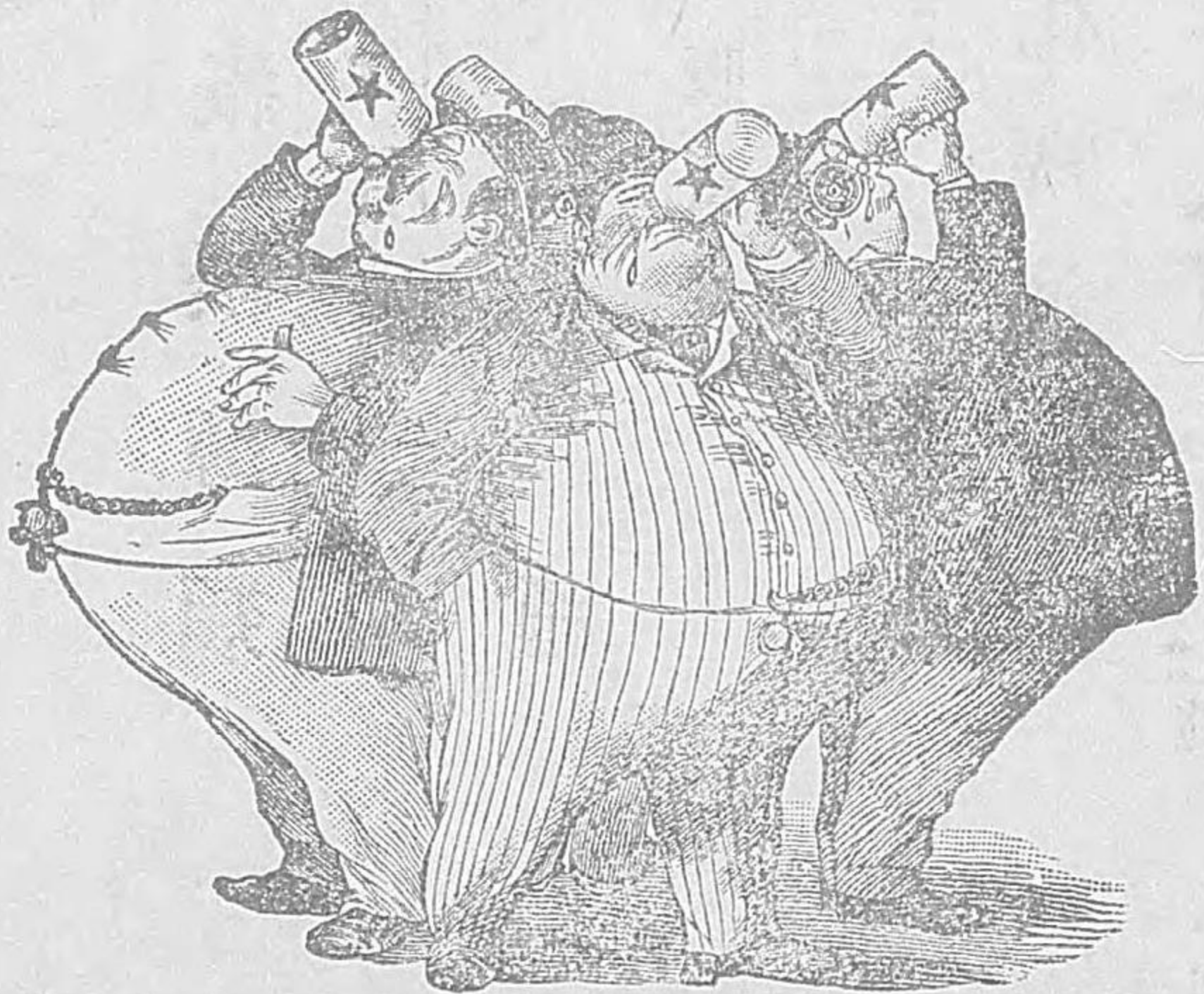
東京出張店

電話(浪花七五九)

有功賞
牌領受

札幌黒ビール

濃厚なる衛
生的好飲料



二十二

最良阿波刻煙草
有權商標

熊谷 泰平

發賣元

煙草問屋

函館末廣町
黒田支店
電話七〇番

二十五

活版
石版
印刷
ハ精
力勉強可仕
候

北海新聞

發行所

函館區辨天町五十三番地

北海新聞社

(電話一〇九番)

二十四

吳服大物

列 列 列

函館末廣町

齋藤吳服店

電話百四十二番

東京市下谷區徒士町壹丁目

齋藤吳服店

電話本局六百四十五番

東京市本所區柳嶋町

齋藤機織場

二十七

石川鴻齋先生校訂

蝦夷みやげ

和装全貳冊
金六拾錢
郵税四錢

本書ハ舊松前藩士某享和年間蝦夷巡廻ノ時ノ筆記ニ係ル者ニシテ世人之ヲ知ル者稀ナリ依テ前記ノ標題ニテ世ニ公ニシタル者ナリ本道昔時ノ状態全貳卷ニ収テ餘ス所ナシ

村尾元長著

北海道漁業志要

洋装全一冊
金壹圓也
郵税十二錢

高雄北軒著

北海道水産實鑑

洋装全一冊
金六十錢
郵税八錢

村尾元長著

あいの風俗略誌

洋装全一冊
金貳十錢
郵税四錢

二十六

北海道廳藏版

北海道志

洋装全貳冊
壹圓五十錢
郵税百五錢
外二十錢

青葉山人著

新函館繁昌記

洋装
金拾五錢
郵税四錢

露薩迦連島並沿海洲之圖

貳拾五錢
郵税貳錢

高雄北軒著

北海道水産全書

洋装
金參十錢
郵税八錢

和漢洋書籍

函館區末廣町五番地

魁文舎

各種教科書
各種文具類
和洋紙各種

電話本局百五十二番

吳服大物

列 列 列

函館末廣町

齋藤吳服店

電話百四十二番

東京市下谷區徒士町壹丁目

齋藤吳服店

電話本局六百四十五番

東京市本所區柳嶋町

齋藤機織場

二十七

石川瀧齋先生校訂

蝦夷みやげ

和裝全貳冊
金六拾錢
郵税四錢

本書ハ舊松前藩士某享和年間蝦夷巡廻ノ時ノ筆記ニ係ル者ニシテ世人之ヲ知ル者稀ナリ依テ前記ノ標題ニテ世ニ公ニシタル者ナリ本道昔時ノ状態全貳卷ニ収テ餘ス所ナシ

村尾元長著

北海道漁業志要

洋裝全一冊
金壹圓也
郵税十二錢

高雄北軒著

北海道水産實鑑

洋裝全一冊
金六十錢
郵税八錢

村尾元長著

あいの風俗略誌

洋裝全一冊
金貳十錢
郵税四錢

北海道廳藏版

北海道志

洋裝全貳冊
壹圓五十錢
郵税百五錢
外二十四錢

青葉山人著

新函館繁昌記

洋裝
金拾五錢
郵税四錢

露薩迦連島並沿海洲之圖

貳拾五錢
郵税貳錢

高雄北軒著

北海道水産全書

洋裝
金參十錢
郵税八錢

和漢洋書籍

函館區末廣町五番地

魁文舎

各學校教科書
各種文具類
和洋紙各種

富貴堂は本道の首府札幌にありて専ら各學校教科書。參考書。附屬器具類を始め
其他内外百般の書籍を廣く卸。小賣を營業と致し以

富貴堂

札幌南一條西二丁目
電話二百五十七番

北海道旅唱行
石森兩先生作歌
又勝石森兩先生作歌
師範學校教員
師範學校教員
師範學校教員
師範學校教員

各圖
輕便
如心
數賣元

荷造町

廣末館
森清馬



商部のおとせ

第一章 北海道概況

北海道名所案内

第一章

北海道概況

北海道の地たるや沃野千里に渉りて農耕牧畜に適し、且沿岸一帯は魚貝海藻の類に富み水産物の多きこと實に本邦に冠たり、殊に諸山は有益なる鑛石に富みて誠に天然の寶庫と云はん、此寶庫も昔時は措て顧られざりしが開拓使以來大に拓殖の方を講じ諸業漸を以て勃興し近時大に其實を擧げたりしも、茫漠たる平野の未だ來粗を仰がざるもの多く蔚々たる森樹の未だ斧斤に接せざるもの又多く加之水産礦業其他幾多の利源猶天然に放委せられあるもの尠からず、されば此利源を應用して國利民福を計るは目下の急務なるべし

- 和漢洋藥品
- 醫療器械
- 外科消毒材料
- 全國高名賣藥
- 繪具染料各種

函館地藏町永國橋際

金田一藥店

電話二六九番

藥種問屋



第一 北海道概況

北海道名所案内

第一章

北海道概況

北海道の地たるや沃野千里に渉りて農耕牧畜に適し、且沿岸一帯は魚貝海藻の類に富み水産物の多きこと實に本邦に冠たり、殊に諸山は有益なる鑛石に富みて誠に天然の寶庫と云はん、此寶庫も昔時は措て顧られざりしが開拓使以來大に拓殖の方を講じ諸業漸を以て勃興し近時大に其實を擧げたりしも、茫漠たる平野の未だ來糧を仰がざるもの多く蔚々たる森樹の未だ斧斤に接せざるもの又多く加之水産礦業其他幾多の利源猶天然に放委せられあるもの尠からず、されば此利源を應用して國利民福を計るは目下の急務なるべし

- 和漢洋藥品
- 醫療器械
- 外科消毒材料
- 全國高名賣藥
- 繪具染料各種

函館地藏町永國橋際

金田一藥店

電話二六九番

藥種問屋



北海道は渡島後志石狩天鹽北見釧路根室千島の十一ヶ
 國となし、更らに之れを二區八十八郡に區分し、北海道廳を札幌に
 置て全道の政治を總括す、面積六千余方里人口九十八萬五千三百四
 (明治三十三年十二月三十一日調査あり、土地の廣大なるに比すれ
 ば人口頗る寡少にして開拓の業は猶其緒に在りといはざるべからず
 山岳 山脈は樺太山系に屬し高山峻岳と稱すべきものは甚だ稀な
 り、本道にて第一の高山は石狩岳にして高さ漸く七千八百八尺に過ぎ
 ず、次に六千尺に達するもの十二、五千尺に上るもの十九あり
 河流 大川巨流到る處に多く石狩川は獨り本道に於てのみならず
 本邦第一の大川にして流域九十二里二十八町あり次に天鹽川は七十
 七里二十六町十勝川は四十九里二十三町其他二十里以上の流域を有
 するもの十七の多きに及べり
 湖沼 北見に猿澗湖能取湖網走湖あり釧路の文笏湖洞爺湖あり其

他釧路に屈斜路湖あり阿寒湖あり、其一里以上のものを合するとき
 は實に六十有余あり
 原野 高原あり平原あり樹林地あり草原あり沃土あり瘠土あり其
 廣袤に至ては或は一國一郡或は數國に亘れるものあり即十勝釧路根
 室の原野、北見原野、石狩原野、天鹽川平原、中央凹地帯及後志原
 野とす
 海岸 屈曲極めて少なく延長僅に七百余里(千島諸島を含まず)これ
 を本邦海岸線の總延長に比するときは十分の一に過ぎず、岬灣の出
 入稍多きは渡島後志根室にして釧路これに次ぎ日高十勝の如き
 は沿岸宛かも一線を劃したるに異ならず
 東海岸 函館より東方惠山岬を経て噴火灣に沿ひ釧路
 路の沿岸を経て根室知床岬に至る
 西海岸 函館より西方福山を経て後志石狩天鹽の海岸に沿ひ北見

北 海 道 名 所 案 内

宗谷岬に至る
 北海岸 知床岬より宗谷岬に至る北見沿岸の一带
 氣候 本道は世人の想像する如く寒氣猛烈ならず、例年四月は積雪融解し夏季の最高九十度に達す、結霜季は概ね九月下旬に初まり十一月末より雪を積み一二月の頃は深さ一尺乃至四尺に至る、今左に平均温度表并に平均霜季節表を掲げん

○平均温度表

測候所	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
函館	二六八	二六三	三三二	四三三	五〇九	五七九	六六九	七四四	八〇三	八五七	九〇七	九三三	四七五
襟裳	二六四	二七〇	三〇六	三六三	四二七	五〇四	五九四	六五三	六九三	七三六	七八三	八三三	四四六
壽都	二五二	二七三	三三二	四二四	五〇〇	五七四	六五八	七〇三	七三五	八〇五	八五五	九〇三	四六六
十勝	二三六	二六三	三三三	四二四	五〇二	五七六	六四四	七〇三	七五一	八〇一	八五二	九〇七	四〇六
札幌	二〇八	二三〇	二九一	四二〇	五〇七	五九二	六七一	七〇〇	六八三	八〇八	八六九	九二六	四四六

第 一 章 北 海 道 概 況

根室	釧路	上川	網走	宗谷
二三四	二五四	二三三	一九八	二〇二
二三八	一八七	二六二	一九八	二二二
二七七	二五二	二三五	二五五	二七三
三三〇	三六三	三七八	三七八	三六三
四三九	四八〇	四九三	四七一	四四四
五〇〇	五〇七	五九二	五四〇	五〇五
五八五	六二二	六六七	六二四	六〇六
六四四	六五三	六六〇	六六六	六五七
五九七	五八五	五七六	六〇一	六〇三
五〇九	四五五	四九九	四九九	四九六
三九九	三四三	三三一	三七二	三七四
三〇二	二二五	二二九	二六八	二七三
四二四	四〇八	四〇八	四三三	四一九

○平均霜季節表

(三十二年調査)

測候所	初霜	純霜
函館	十月十二日	五月八日
襟裳	十月二十六日	五月三日
壽都	十月二十五日	五月二十五日
十勝	九月二十三日	五月二十八日
札幌	十月三日	五月十三日

北海道名所案内

根室 十月十一日 五月十九日
 釧路 九月二十五日 五月廿七日
 上川 十月四日 六月二日
 網走 十月十二日 五月十九日
 宗谷 十月二十八日 四月二十八日

右表を以て青森秋田新潟等の諸縣に比し殆ど大差なきを認む殊に浦
 港元山京城平壤旅順口牛莊天津等に比するに於ては寧ろ温暖なりと
 す、單に最北端に在る港灣は氷結することあるも、函館小樽室蘭釧
 路留萌等に至ては如何なる寒烈の日といへども氷結することなく運
 輸交通は自在なり

農業 主要なるものを大豆小豆馬鈴薯とし次を粟黍蕎麥玉蜀黍燕
 麥大麥小麥菜豆亞麻大麻藍等とす、蔬菜は大根甘藍玉葱南瓜等を主
 とし果樹は蘋果梨を主とせり、水田は近年大に増加し蘭杞柳を栽培

第一章 北海道概況

するものあり

漁業 練を主とし鮭昆布鱈鱈鱒烏賊鰈等これに次ぐ、其他鮫鱒鱈
 等を始め鮑海扇牡蠣等の貝類若布石花菜銀杏草等の海藻類に富み、
 海獸類も亦尠からず

森林 御料林官林民林を合せ殆ど六百萬町歩あり

針葉樹 檜松蝦夷松、イチイ(方言オンコ)

闊葉樹 桂ヤチタモ、榆刺楸、黃蘗、槐、槭、樺、檜、七葉樹、朴、山毛櫸、菩
 提樹、赤楊、ハコヤナギ、ドロヤナギ、山胡桃

此等は建築用具或は薪炭用に供すべし、又燐寸軸木、鐵道枕木、銃床、
 染料等種々の材料に供すべし

礦物 既に採取せらるゝものは石炭、砂金、硫黃、滿俺銀、銅、石油、石灰と
 す、明治三十二年に於ける礦産物販賣額によれば三百七十四萬三千
 五百六十九圓に達せり

商業 樞要地は函館、小樽の二港にして札幌、旭川、岩内、江差、福山、根室、壽都、釧路、稚内、大津、浦河、網走、増毛、余市等は附近地方の市場として樞要の地たり、明治三十二年管外輸出品價額は合計三千七十八萬圓余にして、海産物を主とし農産物、礦産物、林産物之れに次ぐ、又同年管外輸入物品價額は三千九百九十萬圓弱にして米は殆ど其三分一を占め、吳服、太物、煙草、酒、砂糖、糖、蕨等之れに次ぐり

工業 規模の大なるは札幌の製麻會社、麥酒釀造所、製粉所、機械製造所、髓炭製造所、小樽の炭礦鐵道會社、手宮工場、函館の造船所、上磯のセメント會社、根室西別の藤野罐詰所、其他製糸場、木挽所、亞麻製絲所、沃度製所、醬油製造所、晒箔製造所、製氷所、煉瓦石工場、製革場、硝子工場等あり、而して工業中廣く行はるゝは燐寸、軸木製造、酒造、澱粉製造、鍛冶、大工等とす

牧畜 牛馬の府縣へ輸出せらるゝもの多く又佳良なり、明治三十

二年の統計によれば馬數六萬七千四百九十二頭、牛數七千四百二十八頭あり、官設牧場は石狩國眞駒内に在り、御料牧場 日高國靜内新冠に在り

教育 新開地の土地柄、校舍の設備十分ならざるも比較的進歩せり、小學校の新設は勿論、中學校、高等女學校、其他専門の學校等續々新設せられつゝありて、就學生徒も多く殊に女子の就學生は比較的に多きは喜ぶべきの現象なり、土人教育も着々歩を進めつゝあれば近き未來に於て本道の教育は大に振興すべきや疑なし

社交 西は九州より東は奥羽に至るまで、何れの國人をも包含するを以て人情風俗極めて多端なり、これ新開地必然の情狀固とより止むべからざる所なり、此性質上住民は敢爲の氣象に富む美風あれども輕佻浮薄たるを免れず、殊に各市邑到る所に遊廓の設あらざるなく且私窩子到る所に徘徊し、風俗に少からざる惡影響を及ぼせるは

まことに嘆すべきことなり、飲食は内地に比して頗る美なり、漁業盛なるを以て人々魚肉に飽き蔬菜の類却て高價なり、細民といへども米飯を常食とし麥飯を常食とするもの少し、衣服は寒地の常として重ね衣するはいふまでもなし、家屋は洋風の木造多し、これ寒氣強きが故に出來得る丈け密閉したる構造を要するがためなり、家屋は概して粗造にして瓦葺なるものは極めて稀なり、多くは小板葺の上に小石を載せたり、村落に至ては笹或は茅を以て葺きたるものあり

交通 本道と府縣との交通は神戸より東海并に西海を廻りて函館小樽に至る及び青森より函館室蘭に至る郵船會社の定期航海あり、其他該社外の船舶にして來航するもの少からず、本道沿海の航海は郵船會社及び本廳補助航海船其外往來する船舶數多あり

炭礦鐵道は小樽港手宮より起り石狩原野を横斷して室蘭港に至り又

中途より岐れて諸炭山に至る、官設鐵道は砂川にて炭礦鐵道に連絡し旭川に至り岐れて天鹽線及び十勝線となり、北は士別南は落合まで瀛車を運轉せり、又釧路線は釧路白糠間既に開通せり、函館鐵道は小樽より余市岩内壽都長萬部を経て函館に出づるものにして前記殖民鐵道第一期豫定線とも早晚鐵道線路の開通を見るに至るべし

道路は開拓使以來開鑿する所一千余里に達すれども未だ十分ならず、且道路の粗悪なる處少しとせず、然れども重なる道路には數里ごとに驛遞の設ありて馬を備ふるが故に旅行には格別の困難を感せず、馬の賃銀は一里に付十錢より二十錢迄とし冬季夜間惡路には割増をなせり

第二章

寫真圖解

函館港 第一圖

函館港は渡島國の南端に位し東北は龜田郡に接し西南は函館山高
く聳えて街衢其麓に楡比隣次す、港内の廣さ南北約一里六町東西
二十一町にして港口南西に向ふ、其全体の地勢海中に斗入するこ
と三十余町、山園み水深く灣形巴状をなし實に天然の良港なり是
を以て船舶の出入物貨の集散日に月に多きを加へ戸口年と共に増
加し戸數一萬八千九百九人口八萬九千七百九十五なり、市中最も
繁華なる街路を末廣町大町地蔵町とし巨商大買躰を争ふて競ひ、
船場町東濱町仲濱町等は海岸船舶の碇泊する處とし旅館海産商回
漕店倉庫等亦少からず、建物の大なるもの元町に函館支廳あり、
末廣町に郵便電信局あり、青柳町に控訴裁判所あり、其他商業會
議所商船學校分校及銀行會社學校等處々に散在し、水道あり電話
機あり電氣燈あり、交通には馬車人力車の外鐵道馬車の設けあり

て其壯觀利便なることを言を俟たず、道路は本道一方の基點として
北に札幌街道あり、福山街道は海岸に沿ふて上磯より來り、又中
山越と稱して大野中山俄虫を経て江差熊石へ達する街道あり、海
路は郵船會社の定期航海の外、本道各地へ向け出帆する船舶の航
海又甚だ頻繁にして明治三十三年に於ける出入船舶總數は實に一
萬三千六百余艘に上り又同年の外國輸出總額は五百十三萬六千八
百五十四圓に達せり
舊辨天砲臺は同港改修の際埋立地の北端に於て二千二十五坪の砲
臺地と交換し從來ありし所の累壁を崩潰して之れに舊砲臺地先の
埋立地を合し、其内二萬六千五百十坪を宅地とし一萬六千十二坪
を道路石垣并に防波堤とし以て新市街を造れり、新市街地の道路
は縦横にこれを通じ其巾六間乃至十一間にして左右の兩側に人道
を設け中部を車道となせり、其包圍する海面一萬五千八百二十五

坪は船渠及び造船場に充てたり、函館船渠會社は私營として茲に創設せらるゝに至りたれば本道及び東北地方未だ一の船渠なく航海者の常に不便の上なしとせしも全く過去の杞憂に屬し去れり、況むや港灣更らに深くなり風波の患大に薄らぎたるに於てをや、同港の前途實に有望といふべし、商船學校分校は明治三十四年廢止せらるゝこととなりたるを、更らに北海道廳の補助により此儘繼續することゝなれり、函樽間將に敷設せられんとする北海道鐵道會社の函館停車場は舊競馬場跡に建築することゝなりたれば遠からず工事に着手せらるゝに至るべし

公園は市街の東南に位し西に函館山を負ひ北は函館港に面し廣く一萬四千坪明治七年の開設にかゝる、後十一年官民共同して築山を築き花木を栽えて園内の風致を添へたり、展望甚た佳にして園内に設けある觀望壇は常に人を絶つことなし、垣下に博物館あり、本道海陸産の珍品を蒐めて衆庶の縦覽に供せり、公園の東南を谷地頭とす、函濠の地にして別荘旅館等あり、鑛泉あり谷地頭の湯と稱し冷泉なり之れに温度を加へて沐浴に供す、神社佛閣の著名なるものは嚴島神社辨天町船玉神社船見町八幡神社谷地頭招魂社沙見町本願寺別院東川町稱名寺船見町實行寺全等なり、旅館はキト宗澤達三勝田丸和角上角大等有名なり、圖は港の一部棧橋を示したるものなり

●函館水道配水地 第二圖

函館水道配水地に高低兩區あり、高區配水地は高區給水人口四萬

人に供給する水量約一日分を貯ふる處なり、函館山阪の官有地二萬二百八十八坪を特別拂下して敷地に充て海面上約三百呎の場所を掘鑿して設置す、池形は長方形にして對隅に六角形流入流出井あり其一方池中に通ず、地壁はすべて斜面となし氷塊を除き易からしめ、底面には勾配を附し掃除に便ならしむ、流出入井の構造は周壁を數層疊石とし井底は混泥土上に煉瓦石を敷く、池は周壁及底面とも混凝に粗石を雜へて築造し床面に煉瓦石を敷きたり、配水地の構内は地盤の傾斜に應じて幾多の段地となし芝を植む砂利を敷き柵を設け溝渠を鑿ち道路を作れり
底區配水地は給水人口六萬人に使用したる容積約九十六萬六千瓦蘭の已成配水地を以て一部に充て猶ほ給水人口十一萬人に滿つるに先ち他に約八十萬瓦蘭を容るべき一池を新設して給水人口十一萬人一日の消費額を貯ふべきものなり、此圖は前者を寫したるも

のにして兩區の給水人口は十五萬人にして此消費量は一日二百四萬瓦蘭に上ると豈又多からずや

函館末廣町之雪景 第三圖

末廣町は函館區中の繁華なる街衢にして此圖は此雪景を示したるものなり同町には銀行會社其他大厦高樓の見るべきもの少からず市幅廣く豪商多し東京市内に比せば本町大傳長町とも云べし降雪の時は街路の雪を兩側に山の如く七八尺より壹丈も積揚げ一日以上を経て「トンネル」の如き穴をうがち其中に車に類するをりを入れて雪の兩端を切捨以て海岸に運び捨る頗る壯觀なり

函館大町より郵便局を望む 第四圖

大町も亦繁華なる街衢にして會社豪商軒を並べ三井物産會社北海道機械網株式會社あり、圖は末廣町に在る郵便電信局を移したるものにして二等郵便局なり、規模宏壯なり

函館地藏町 第五圖

街衢整頓豪商軒を並べ目貫の場所なり、有名なる永國橋あり、寫眞は北橋より地藏町を撮りたるものなり、以て其繁華なる一斑を知るに足る

函館大森濱海水浴場 第六圖

大森濱は函館の東方外海に面したる處にして海水浴場の設あり、夏季に至れば遠近の浴客雲集して頗る賑はしく、且つ眺望濶快にして實に避暑の好適地なり

函館柏野競馬場 第七圖

市街の北に在り毎年春秋二季には區民の催しにかゝる競馬會あり、昔より盛に行はれ今尙は盛に行はれつゝあり、競馬會の催には函館市民の之れを觀んと來るもの頗る多く殊に婦女子の如どきは盛裝を凝らして實に大祭を視るがごとし、其雜沓すること決して東

京大阪に譲らすといふ

五稜廓氷切 第八圖

市街を距ること東北二十五町、安政年間箱館奉行の築く所にして土壘五個の菱形をなすより此名あり、周圍に繞らすに濠を以てし龜田川の水を引て之れに注ぐ嚴然たる一個の城廓たり、有名なる函館氷は此濠中より鋸り出すなり、此圖これなり

湯の川温泉場 第九圖

市街を東に距る一里二十町、松倉川の河口下湯の川村に在り、北は丘陵を負ひ南は海を望み眺望甚だ佳なり、泉質は硫化水素にして温度九十五度無色透明にして味稍苦澁なり、道路平坦にして宛然驪のごとく、鐵馬にて直ちに箱館に達するを得べし、夏季には函館の紳士豪商は勿論外國人其他此處に涼を納るゝ客多し、旅館には洗心館林長館等其他數軒あり

函館水源地赤沼 第十圖

函館の東北凡そ二哩許の處にて海に注ぐ川あり赤川といふ、函館水道は實に此水を曳くものなり、其水源は箱函港と噴火灣の間に横はりたる火山脈の高處に在れば水の清潔純粹なること疑なし、赤沼これにして常に誘害物少きのみならず旱天の時たりとも少くも一晝夜に一千萬ガロンありて十五萬の人口に給して猶ほ余りあり、赤沼は海面上二百〇三尺の高處に於て赤川に一個の木造翼堰を設け適宜の吐棄を備へ水流を水門に導く、水門は赤川の西岸なる小高き處の麓に設け其上台并に兩脇とも右にて築き木材を組み板を張る、此水門より中二尺深さ三尺兩側勾配一割の素堀長さ凡そ二千四百尺一千尺に付一尺の勾配にて清潔なる砂利混交の土地を経て水を沈殿地に入るなり、而して赤川は頗る大なる勾配あるを以て其流速力又大なり之を以て水と比重相齊きもの又は輕き植

渡島蕁菜沼 第十一圖

物其他の物混じて微に濁色を帯ぶることなしとせざれば之れを防ぐため沈澄池を設けたり、池の容量は二十五萬八千二百八十四ガロンなり

駒ヶ嶽は山密富山に似たるを以て渡島富士の稱あり、山麓に蕁菜沼あり、蕁菜を生ずるを以て此名あり、池邊に丸三旅館あり、夏季外人多く遊ぶ、沼の中央に辨天社あり、こゝより十町許り函館の方に大沼小沼あり、共に絶勝なり、鯉鮒は蕁菜沼の名物にして沼の風光と共に其名世に高し、沼は函館を距ること七里余此間馬車の便あり

札幌市街 第十二圖

石狩國の西南に在る一都會として北海道廳所在の地たり、町數十五人口四萬五百七十八、此地海岸を距ること五里、南に豊平川を

帯び西に山鼻圓山等の丘陵あり石狩平野其東北に連り而して西南
丘阜の後は一帯の連山を負ふ、市街は中央に大通りありて東西に
貫き以て市街を南北に分ち、創成川南北に流れて以て市街を東西
に分つ、大通より數へて南北に至り、南一條北一條と稱し各七八
條に至る、又創成川より東西に算して東一丁目西一丁目と稱ふ、
道路平坦區劃井然たり、官衙公署學校會社銀行製造所等煉瓦又は
木造の大厦は重に大通り以北に在り、以南は人家櫛比し人馬絡繹
たり就中南一條二條通り南一丁目より二三丁目の間は高樓薺を爭
ふて並び立ち富商大賈の居宅多し、豐平館は創成川に沿ひ貴賓を
接對するため築きたる旅館にして庭園頗る廣大なり、館は二層
樓洋館にして西料理を調理す、其他東京庵東壽司其數少からず、
旅館は山形屋旭館等著名なり
借樂園は北七條の西端に在り、曾て廣大なる園圃なりしも其後開

拓使廢せらるゝに至り區域大に縮少し昔時の觀なしと雖も舊尚ほ
老樹の間風趣の掬すべきものあり、屯田兵招魂碑は北六條借樂園
の南に在り、西南の役に於ける屯田兵死者の靈を祀る、陸軍中將
黒田清陸の建つに所なり、博物館は北三條西八丁目に存り札幌農
學校に附屬し毎年四月より十月まで一週間二回づゝ開館し衆庶の
便覽に供す、札幌神社は札幌鎮守の神にして南一條通りの西端圓
山村に在り、大國魂命大名貴命少彦名命の三座を祀れり、祭禮は
毎年六月十五十六の二日を以て行はる、官幣中社なり、麥酒製造
會社製麻會社農具製造場等は重なる建築なり、炭礦鐵道の停車
場は北六條西五丁目に在り行客百貨常に輻湊す、此地亦本道の要
衝に當り川上鐵道は東岩見澤江別白石を経て來り西小樽街道は錢
函輕川琴似の各驛を経て來り、又増毛街道は月形當別篠津對雁の
各村を経て、室蘭街道は月寒より來り、天鹽西海岸は篠路より更ら

札幌より起つて豊平川の沿岸を上る常山溪の一道あり、附近農村には札幌村苗穂村對雁村圓山村山鼻村等あり、殊に苗穂村は沃野廣く住民多く養蠶を業とし、林檎梨桃櫻等の樹林をなし札幌の豪商競ふて耕地を購ひ別荘を起すもの多し

●北海道廳 第十三圖

本道の政治を統轄する處にして北三條西五丁目に在り、廳舎は赤煉瓦造り三層樓の石板葺にして總建坪五百餘坪あり廳内階上階下及床下には各一條の廊下を通じ室を分つこと二十餘三階に書庫あり中央の屋上に八角塔の設けありしも二十八年之れを除きたり結構宏壯實に本道第一の建築なり

●札幌大通りの雪景 第十四圖

大通りは町巾六十間長さ十丁餘あり此圖は此處の雪景を寫したるものにして只觀る曠漠さながら平野の横はるがごとし

●中島公園借樂亭 第十五圖

札幌區の南方豊平河畔に在り、老樹森々として晝尚ほ暗く幽邃の地たり、近時此處に櫻樹を栽えたれば春光爛熳の雅俗を賞すべく、夏季は綠樹の下青臺を踏むもの多し、園の北方に河水を引て池を作る形瓢の如し、水清く波靜かにして喬木矮樹其周圍を縫ひ、池中に割烹店あり即席料理を調進す、池の南方に木造の洋館あり北海道産陳列場に宛てらる、其後ろに競馬場あり、札幌神社の祭禮及八月三日屯田兵招魂祭日には競馬會の催あり

●札幌農園 第十六圖

札幌農學校に附屬し畜産の業盛にして良牛に富み殊に佳良なる牛乳を産出するを以て其名全國に高し

●小樽港市街 第十七圖

高島岬の南、小樽灣に枕せる一海區にして西海岸第一の要港たり

市街は山を負ひ丘陵により海岸に沿ひて駢列し、戸数は八千九百九、人口六萬千八百九十三を有す、波止場は市街の西北にして灣の廣さ南北十五町東西十町深さ三尋より八尋に及ぶ、炭礦鐵道は棧橋より直ちに市街を連きて遠く石狩平野に連絡し海は西北海岸一帯の漁場を控へ且石狩川の河口に接近せるを以て貨物の集散最も頻繁にして函館と殆ど伯中の間に在り、外國輸出貨物としては鐵道沈木は大半此港に由り又石炭の輸出港として商勢益々盛んに趣き清國向海産物及露領沿岸漁業用品の輸出等年と共に勃興し明治三十二年に至り純然たる開港場となれり
元來小樽港は形勢西北風の害ありて船舶碇緊に不便ありしも築港工事益々進み第一期計畫遠からず完成せんとするに至りたれば大に港内の風波を減じ今日に於ては稍完全なる港灣となれり、市中最も繁華なる街衢を入船町堺町色内町港町とし、大小の家屋軒を

并べて商業活潑なり、殊に物貨集散の中心として水陸の交通自在にして汽船は常に本道の各港及び露領浦港支那朝鮮に往復し、鐵道は本道内地に連絡して函館港に集る貨物は實に此港によりて内地に分散せらるゝなり、今や新に函樽間に定期航海開始せられ又函樽鐵道は遠からず完成せられんとす、其繁盛なること驚くに堪えたり、忍路高島天狗山住吉社小樽公園等の名所あり、殊に小樽區發達の將來を豫想して稻穂町奥に新市街を創設せんとするの見込あり、總地積は十萬坪にして同區役所の見込は三十五年度より三年間に道路の大體を造るに在りといふ旅館には越中屋角中等あり、港西手宮に石碑あり、字形奇異にして考ふべからず、或は古代の文字なりと云ひ、或は石器時代の事をしるしたるものなりといひ、或は古代豪族の徽章なるといひ、諸説紛々俄かに信すべからず、其近傍の地に於ては石鏡石劍雷斧等を掘出すことあり、手

宮驛は手宮町に在り、北海道炭礦鐵道の起點にして手宮工場及時炭場等あり、寺院にて龍徳寺は新富町に在り本願寺別院は海運町に在り量徳寺は入船町に在り

今本港に於ける重なる輸出品を擧ぐれば露亞に對して漁業用品北清諸港に對する鐵道枕木及び其他各材板割香港新嘉坡上海其他諸港に對する石炭にして輸入品の重なるものは鯨粕鹹魚を主とす明治三十三年度に於ける外國輸出入總計表によれば輸出七十七萬九百五十三圓輸入三十萬四千九百二十九圓に及べり

●小樽港灣 第十八圖

寫眞は小樽港灣を撮りたるものなり小樽に就ての記事は第十七圖説明に詳述する處あれば今又贅せず只兩々相對し見るときは其港景の全班を知るに便ならん

●小樽附近の鯡漁 第十九圖

小樽附近は有名なる鯡の漁場多く、此圖は同差網の一部を示したるものなり

●余市 第二十圖

余市川に沿ひ余市灣に臨み、尻場岬其西に斗出ず、地平行にして漁家商戸鱗次し、一條の市街を容る、東西六町、南北二十町、人口二萬に近く警察署郵便電信局等あり灣内水深く大船巨舶を泊碇するに宜しく、且附近漁村の海産物多く此處に集るを以て市街繁盛せり、殊に余市川沿岸新開墾地の開くると共に又物産の集散地となり、前途甚だ有望なりとす、里程は小樽より五里二十町、岩内へ十二里八町

●然別鑛山 第二十一圖

後志國余市郡仁木村に在る有名なる銀鑛にして同山及支山の鑛石を製煉するのみならず尙ほ進んで他山の鑛石を買入れ製煉しつゝ

ある由なるが、今三十三年中に於て買入れたる鑛石高及び製煉高は左の如くなりといふ

砥川鑛石 鑛石高 七三、六三九匁 製出銀 三六、二三八匁 製出代價 五、五九九圓

羽後椿鑛石 一五一、八七六 九六、六〇三 五二、九六〇

而して砥川鑛石より製出する銀には千分の七の金を含み居るといふ、北圖は本山に於ける道路を寫したるものなり

福山の公園 第二十二圖

松前は往時市街の總稱たりしが、慶長年間に至り松前氏新館を築きて福山と號す、松前元名マトマイは婦人居る處の義にしてマツオマイより出づ、今の福山大松前町の地に夷酋の妻妾居りしを以て此稱ありと云ふ、昔時の首府にして數百年來の歴史を有するものなれども今は市街荒廢に飯し古跡の因て徴すべきものなし、此地一体南方に僻在し三面山に圍まれ海岸又舟行に便ならずといへ

ども日々函館より漁船の便あり又江差壽都小樽行の漁船寄港す、銀行會社郵便局豪商等は小松前町に在り、戸數一千四百九十四、人口六千七百八あり、町内寺觀の重なるものは法幢寺龍雲院惠念寺等あり、福山城は市街の北七面山の山跡に在り、慶長十六年松前家七世の孫公廣元陣屋を經營して始めて築く所にして東西九十三間南北百二十六間あり、城地總坪數凡二萬坪にして昔時極めて壯觀たるものなりしも星移り時變り今は其影だになく唯櫓門一を余すのみ、櫓は三層樓にして之れを町會又は俱樂部の集會所に宛てたり、福山の公園は此城地内に在りて松城小學校に隣し眺望まことに宜しく現に市民の遊覽所たり、往時は劍鳴馬嘶を聞きたりしも今は泰平啞暗の聲を聞くに至る、此推移を見る誰れか豈に追懷の念なからんや

舊福山城跡松城小學校 第二十三圖

福山城の沿革は既に説く所のごとし、牙城は今や松城小學校に空しく其跡を止むるに至れり、正南退手門は現に松城小學校の校門に代用せらる此校は市の豪商吉田三郎右衛門氏が二萬余圓の巨資を投じて建設したるものにして規模宏壯輪奐の美なるはいふまでもなく、眺望頗る閑雅なる上に公園に臨みて四時の風致おのづから備はる真に就學生徒の幸福とや云はん

ふみ分けてなほ奥ふかく尋ね見は
學びの道の露しげくとも

(松城小學校生徒に代りて)

江差市街 第二十四圖

檜山郡の西北海岸に在る一市街にして前は日本海に臨み後は岡巒を負ひ、市街は海濱に起り山腹に連り、南北に長くして東西に狭し、海濱一帯を除くの外は概ね傾斜をなす、北は一條の街送によ

りて泊村に接し、南は北村に通ず、人口一萬九千四百五十六あり、港は鷗島の南津花町の西北に在り港口右五百八十一間左六百十六間横五百十四間水深七間五尺四寸にして港内に遠礁伊丹礁と名くる二ヶの暗礁あり、昔は和船の此港に出入するもの鷗島に沿ふて碇泊するときは西風に危険の虞あるも其他の場合には安全なりしを以て従て船舶の出入頻繁なりしも、近時交通の道大に開けてより此港の碇泊に便ならざるを覺り、船舶の出入昔時の盛なるに及ばざるに至れり、然れども猶ほ本道西海岸の要港に當り商業頗る活潑にして明治三十二年中に於ける同港輸出入總額は三百六十萬千四百五十七圓に達し、此内輸入品の重なるものは米穀其他呉服太物類及酒類等の日需品にして輸出品の重なるものは海産物にして就中鮮類鰹鮑等を多とす、由來北海道は蠶糸の良好を以て廣く世に知れわたり、曾て札幌製糸所の如きは蒸氣機械を用ひて

盛んに之れを製造しつゝありしも、焼失后其跡を絶ち、今は僅に
從來の坐繰位に止まりしが、本年に至り江差町に蒸溜機械を以て
盛んにこれを製造せんとの目的を以て江差製糸會社と云ふ合資組
織の會社起るに至りたれば、近き未來に於て北海全道の斯業はこ
とゞく此の處に吸収せらるゝに至らん、又江差復興の一助とも
見るべきなり
姥神太神宮は姥神町二十八番地に在り境内八百十六坪市街に臨み
懸崖にかゝり、何となく神氣人に迫るの感あり、傳へいふ、昔者
一老婦あり一夜闌にして一條の閃光鰐島より至ると夢み、覺めて
驚き直ちに鰐島に至れば、一老翁の盛んに柴を焚くあり、乍ち願
み一小瓶を老婦に授け且告げて曰く瓶中の水其色白し、若しこれ
を海中に投せば海水ために白く變じ、鯡と稱する小魚夥しく海濱
に蟻集し來るべし毎春之れを網して民其業となすべしと忽焉去て

消失す、老婦欣怪交々至り家に飯るの後其首の如くせば、果せる
かな蒼海ためて白く青魚集り來る、老婦人に教へし網を投せしむ
るに一投にして魚舟に滿つ、曰く毎春之れに網して民業となさば
長く飢餓の患なかるべしと終りて老婦も亦行く處を知らず、蓋姥
神は此老婦を祀れる神社にして鮮漁業の祖神として知らるゝ處な
り、手洗石は中歌町の海濱に在り、これ老女の瓶子を投せんとす
るに當り鹽嗽せし處なり、瓶子石は老女の海に投じたる瓶子の化
石せしものなりと傳ふ

●鰐島 第二十五圖

市街を距る四町弱の處に在り、長十町幅二町三十間の一小島にし
て島上に巖島神社あり又燈臺あり高さ二丈五尺にして能く近海を
射映す、其附近に當り、「皇太子殿下御婚禮紀念林」と刻したる碑石
を建て、廣さ千三百八十九坪の上に松、楓、五葉松、櫻等の苗木を栽え